

21164

シエームス、アトキンス 著

大谷 虞 譯

# 兒童の宗教

東京 教文館

明治  
10 0 26  
自來



## 兒童の宗教

近年大いに發達せる科學の一つを兒童心理學とす。靈的生命を心理的に研究するの傾向、之に次ぎて振起せり。向上の精神を養ひ、信仰を扶植するの好期、幼稚年少の時代にありと云ふの事實は、之がために科學的に明白にせられたり。教會の禮拜、教外者に對するの傳道、及び家庭の祈り等に於ては、從來よりも一層重きを兒童に置き、其の方針を更め、其の改良を圖るべきの點甚だ多きを感じる人士非常に増加せり。日曜學校の如き、事新らしく喋々するを俟たず。パウロは『我母の胎を出でし時より』簡れたりと云へり。豈に支那人の胎教のみならんや。人類の教育は疾くに無意識の時代に始まり得べきものなるを思はざる可らず。況んや稍や長じて兒童の時期に入れるに於てをや。其の靈的受感性敏捷にして、神に近づき易きに乘じ、終生磨滅すべからざる印象を其の胸中に畫せざるべからず。此の如き信仰前に汝の



祖母ロイスまた汝の母ユニケにあり、今汝にもあることを信するなり』<sup>①</sup>テモテの如き穩健熱誠の基督者は、祖母と母との教育に由りて養成せられしなり。基督教は斯の如き家庭教育に由りて其の健全なる發達を遂ぐべし。他の方法は迅速なるに似て、其の實家庭教育に較ぶれば、總て遲鈍なりとは『兒童の宗教』著者の説く所なり。或は曰く日露大戰に於ける勝利は、國家の多年經營せる兒童教育の賜なりと。罪惡の力を打破し、神の光榮を發揚すべき天國の戦ひも、兒童の靈的教育に依頼せざるべからず。此の點『兒童の宗教』の貢獻する所多かるべきを歓迎す。

明治卅九年十二月一日

福音新報社に於て

植村正久

### 譯者序

本書は關西學院教授博士ニユートン氏の依頼を受けて翻譯せるものにして、氏は此書を始めとし教育に關する良書を翻譯し教育叢書を作らんとするの計畫ありと云ふ。博士の我國民の爲めに盡さんとする誠意豈深く感謝せざるべけんや。此書主とするところ小兒の宗教的天分甚だ豊にして、其萌芽搖籃の内に入り信仰の花早く少年時代に開かんとするを明にし、罪惡の風未だ之を破らざるに先きんじ保護愛養せしめんとするにあり。今や我國家庭と教育の事に心を用ゐるもの少なからずと雖も未だ小兒の宗教に關して説くものあらず。庶幾くは此書に依つて其闕を補ひ、神が宗教の爲めに備ふる所如何に厚きかを知り、之に對する責任を思はしむることを得んか。譯成るに當り一言を卷首に題すと云ふ。

明治三十九年十一月



青山の僑居に於て

譯 者 識

# 兒童の宗教目次

第一、着想一斑	一
第二、王國の概観	二
第三、基督教の増殖力	三
第四、兒童と王國に關する基督の教	五
第五、宗教的教育の主體たる小兒	八九
第六、認識せられたる教育の効用	九
第七、何をか教育すべき	一〇七
第八、教會と家庭	一八
第九、家庭に於ける兒童	一四二
第十、日曜學校の位置と現状	一六二

目

次

(一)



第十一、日曜學校事業成功の要件……………一七四

第十二、訓練場たる日曜學校……………一八九

第十三、普通教育と宗教……………一三三

第十四、結 論……………一三三

# 兒童の宗教

神學博士 ジェームス・アトキンズ 著

大 谷 虞 譯

## 第一章 着想一班

世界に於ける基督教の現在の勢力及び其位地を究めんとする識者は、嚴肅なる心を以てすると然らざるとの別はあるも、皆如何なれば基督教の今尙人類を支配するに至らざるかを訝りつゝあり。此不成功は宗教其物の力の缺乏に因れるか。將た其擴張の責に任ずるもの、謬想と、之より來る誤れる傳道策に因れるか。前者の見解は容易ならざる不信仰より來れども、後者は神の王國の建設に欠くべからざる人力の貢献と、其之を來らしむる法則に關する、興味あり且有益なる研究の原野を開くも



のなり。基督教の進歩の遅々として幾度か沈滞を來たせしは、其責全く人間の機關に存して、宗教の組織其物の罪にあらざること、時代の進むに従ひ經驗の光に照して次第に明になれり。

基督教の遭遇せし反抗の甚しかりしを思へば吾人は其成功の眞に驚くべきものあるを見る。而して外部的反抗に加ふるに、其徒の屢其精神を錯れると、其存在と生長に最も必要なる法則に反せる事を以てせば、益其成功の驚くべき所以を知るべし。

基督教の一層大なる發達は若干の根本的謬想なりと思はるゝものに依つて妨げられたり。而して此謬想は基督教の教訓の中に充分に警戒せられたるものなり。福音の目的は來世の救の爲なりとすること、即ち宗教は人をして天地萬物の終に歸着すべき遠き未來の爲めに準備せしむるものなりとするが如き、其謬想の一なり。斯る見解はイエスの教訓より得來るべきものにあらず。彼の教は明らかに現生に於て人を

救ふにありき。彼は此世に於て、又此世の爲めに救はれずんば、何れの世に於ても救はるゝ事なく、此の如く救はれたるものは一切の世界の爲めに救はれたるものなる事を教へたりき。天上の救の教は人に慰安を興ふる事多しと雖も其弊は流れて、よし地上の救を無視するに至らざりしも、尙之を輕視するの風を生じたりき。斯くて世人は此世に於て現に己は救はれたりやてふ最も緊要なる問題を忘れて、天に於て救はるべきか否やの問題に心を苦しむるに至れり。世人の輕々しく救の問題を、此世より來世に移せしが爲めに、神の國の發達を阻碍せし事果して幾何なりしやを知らず。

基督教は人を救ひ入るゝ爲めにあらずして、救ひ出す爲めなりとなすも亦之と關連せる謬想の一なり。彼が罪より人を救ひ出さんが爲めに來りし事は眞實なり。されども是れ其初步のみ。其最高目的は基督教の親しく接せしものと然らざるものを問はず凡て成人なる罪人を救ふにありとせる普通の見解は、救の最も廣き意義を距る事



遠し。蓋し人をして罪を犯さざらしむるは、罪より之を救ふよりは遙かに意義ある事業なり。基督は年齢と罪科の如何に拘らず、屢罪を犯せるものを其罪より救へり。燃ゆる木を火中より取り出すは頗る壯烈なる事業なり。されど人をして全然其心を残害する罪の勢力感化を受けざらしむるは、比へん方なく遙かに大なる事業なり。イエスは神が人類を創造せし時、其知慧と善の目的とせし所に救ひ入れん爲めに、先づ罪より其民を救ひ出さんとて世に來れり。罪の赦は救の始にして其終にあらず。

此誤謬と密に相關連して教會の思想と政策に甚だ大なる影響及ぼせし他の誤謬あり。即ち多年罪の習慣に染まりし人の悔改を以て、救の最大意義を全ふせる者なりとなす事是なり。此見解の眞理を離るゝ事遠きは經驗の明かに教ふる所なるに、多の善良にして精勵なる人々の尙此見解を持するは予の怪訝に堪へざる所なり。而も此見解は猛烈にして従つて稍極端的なる傳道を起し、世を救ふ神の目的と力の眞實なる範圍と其實行の唯一の正確なる方法に關し、不十分ながら教會の意見を鞏固にするに與つて力ありき。成人の悔改は最大最善の救にして教會の重なる事業なりとの見解を固執する傳道方策を以て、世に害ありと爲すは一見酷論なるが如し。而も眞實なり。よしや高く且廣き利益を逸して、多くの特種なる狭き利益を起せる事實ありとも。予が此言をなすは成人を目的とする傳道は一切廢せらるゝか、又は暫く中止せらるべきものなりとの意を諷せんとするに非ず。成人傳道も正しく用ゐられたらんには、宛かも落穂を拾ふ事の舊時の農耕に收穫の一部たりしが如く、心靈收穫の大業の貴むべき一部分なり。斯は慥かに心靈救拯に於て甚だ重要な位置を有し、且長く有すべきものなり。されども世に斯程濫用せられたるものあらず。成人傳道の過度の依頼は量るべからざる不幸を世に齎せり。而して其依頼の續く間は其不幸も亦續かざるべからず。斯は獨り巡回傳道に於て然るのみならず、定住的若しくは牧會的傳道に於ても亦然り。人をして専ら成人の悔改若しくは牧養

なる範圍と其實行の唯一の正確なる方法に關し、不十分ながら教會の意見を鞏固にするに與つて力ありき。成人の悔改は最大最善の救にして教會の重なる事業なりとの見解を固執する傳道方策を以て、世に害ありと爲すは一見酷論なるが如し。而も眞實なり。よしや高く且廣き利益を逸して、多くの特種なる狭き利益を起せる事實ありとも。予が此言をなすは成人を目的とする傳道は一切廢せらるゝか、又は暫く中止せらるべきものなりとの意を諷せんとするに非ず。成人傳道も正しく用ゐられたらんには、宛かも落穂を拾ふ事の舊時の農耕に收穫の一部たりしが如く、心靈收穫の大業の貴むべき一部分なり。斯は慥かに心靈救拯に於て甚だ重要な位置を有し、且長く有すべきものなり。されども世に斯程濫用せられたるものあらず。成人傳道の過度の依頼は量るべからざる不幸を世に齎せり。而して其依頼の續く間は其不幸も亦續かざるべからず。斯は獨り巡回傳道に於て然るのみならず、定住的若しくは牧會的傳道に於ても亦然り。人をして専ら成人の悔改若しくは牧養



の事業にのみ依頼せしむる間は、一層合理的に、又聖書的に、且有効なる人類救拯の方法の世に出でんことを望むべからず。

人或は基督と使徒は専ら民の中なる成人にのみ語り、成人たる群衆の悔改を求めしに非ずやと言はん。されど之に答へん事難からず。彼等は正に眞理を宣揚するに依つて神の國の基礎を置きつゝありき。彼等は未だ當時の兒童に對する任務と相觸るゝの時機に至らざりき。彼等が教へし眞理は直接に之を兒童に傳ふるに由なかりき。是れ恰かもモーセの律法が成人に托せられ兒童に與へられざりしが如し。而して之を受けしものは懇ろに兒童に教ふるの責任を有したりき。初はシナイの山響き且震動せしが、靜平にして甘美なる家庭教訓之に繼ぎ、第一の時代に於て律法は耳に植ゑられ、第二の時代に於て心に時かれたりき。吾等の主と使徒の事業に於ても亦然り。加之彼等の傳道は後世に復見るべからざるものにして、奇跡てふ大なる力の援助ありしにも拘らず、僅かに所在に神の王國の種子を植うべき場所を見出し

得たるに過ぎざりしにあらずや。イエスが幾度か其最良なる聽衆に向つて、嗚呼信する心の鈍きものよと言へるは獨り當時の人に對して語れるのみならず、實に時代を通じて易らざる普遍の眞理を道破せるなり。即ち此語は年長じて後始めて眞面目に心靈的眞理を思考せんとする一切の人に適用せらるべきものなり。今やペテロがカリヤ湖邊に於て第二の召命を蒙りし時に知りたらんと思はるゝよりも、遙に實際的に且理論的に救の經綸に關する智識を有せる比較的年少なる幾千々の兒童、基督敎國に存せり。

使徒時代以來の凡ての傳道的大運動は皆同一の確信を與ふ。即ち如何なる時代の傳道的活動も、其時代の大部分の民に達せず、且之を改むるの力なかるべきこと是なり。若し人類にして救はるべくんば、基督敎の生長力を經濟的に活用することに由りて來るべくして、成人傳道の大運動も決して此力を充分に發揮する能はざりしは經驗の明かに示す所なり。



此場合に於て一の希望は嚴なる一事實に其基礎を有す。此事實は百年に自然は三度地上より其住民を拂ひ去り、之に代るべき新しき民を齎し來る事是なり。著者は齡百九歳にして今尙生ける一隣人を有す。彼の此世に生れしより以來四十億の民は死して、それよりも一層多數の民は生れたりき。此事實と共に基督教は二千年の終に於て五億に過ぎざる、即ち世界住民の三分の一に足らざる基督教徒と稱する民を有するてふ事實存す。若し基督教の進歩今日まで同一速度ならば、紀元六千年比に人類は悉く基督教徒と稱するものたらんこと期して待つべきが如し。而して吾人若し使徒時代以來初めて最も多數にして保守的なる國民の舊き迷信と恐るべき接觸をなせりてふ事實を姑く度外に措き、又過去に於て起りし如き失敗未來に於て起ること無しと假定せば此期待は誤らざるべし。而も吾人は此言をなすに當つて異教主義の復興直ちにコンスタンチン帝の時代に次ぎ、膨脹的教會歴史の頂巔たりしシヤレマン帝の死は、暗黒時代の始なりし事を記憶せざらんとするも能はざるなり。

今や世は世界的政策の時代となり、普通人民と雖も國民文明、外交同盟等其他類似の語を用ゐること頻繁なり。而して是れ單に夢にあらず。又空しき理想にあらず。實に列國民を以て組織せる家族平常の問題にして、人の實際的生活に影響す。小き商人と貧しき消費者は、商業の國民的萬國的事情の結果を感せざる能はず。彼等は遠隔の地に行はるゝ大なる商業的運動は勿論其政治的運動の影響をも受くるなり。且又四海同胞の感覺の次第に生長せるあり。愛國心は大きくして智慮あるものとなり、淺せ行くことなくして廣められたるのみならず、異なる國民の間に共同的愛國心生じ來れり。此感覺は擴張せる商業と相結んで國民的專業に一種の共同的利害を生じ、獨り近日の出來事に於て之を見るのみならず、屢國民的運動に直接にして之を左右する勢力を及せり。

此等世界的觀念は二三者の多數人民に鼓吹せるものにあらず。長き歴史の生産なり。數世紀の發達なり。總量は其中に包含せる單位の如何に由るが如く、一切の文



明は唯之に含まれたる個々の生命に依つて定る。而して正當なる社會的單位は家族なり。満足に家族的ならざる人は社會に眞に生けりと謂ふべからず。正當なる意義に於ける人は家族の人なり。是を以て群衆の倫理は畢竟其單位たる家族の倫理なり。而も家族の倫理は之を集めて直に社會的倫理を成すにあらず。蓋し社會倫理の家族の倫理より出で来るや、一種化學的作用に類し、複雑なれども明白なるを失はず。故に國民の家族生活を研究し之を正しく指導するは勞少くして功多く、眞に手腕ある經世家の當に務むべき所なり。現時の教會の前に存する最大問題の一は、神の王國の市民は内に養成するを主とすべきか、外より捕へ來る事を主とすべきかにあり。即ち二人の有力なる著者の言へる如く(一はブシネルにして一はザ)教會の經綸方略は専ら教養に由るか將た激變に由るか、進化に由るか將た革命に由るかにあり。吾人若しイエスが神の國の譬喩として自由に用ゐし植物界に譬喩を取らば、此問題は移植と種よりの生長と二者何れを取るかにありと言ふを得ん。

## 第二章 王國の概観

予は此章に於いて主耶蘇の語り給へる一の譬喩を研究せんと欲す。此譬喩は他の譬喩に勝りて其王國の由つて來る勢力を示し且教會が其王國の事業を經營するに當つて意を用ゐるべき方針歷程を其中に含むものなり。而して予は其研究を成さんとするに當り先づ人間世界に神の王國を建設するとは何ぞやてふ問題を提起して之に答へざるべからず。

基督の建設せんとせる王國は、そが全ふせられん時世代を通じ天下に求めて處々より集められたる選良の市民より組成せらるべきものなりしか。悔改と信仰に依つて彼の友となり、神的教養に依つて天の王國の民たるに適はしき比較的少數のものを集むるは基督の目的なりしか。換言すれば地上より地上ならざる王國の要素を選抜せん事は彼の意思なりしか。將た或は彼の計圖は人類を其臣民とせる義の恒久不變



なる帝國即ち眞の神政を建設せんとするにありしか。

第一の見解が今日に至るまで教會の實行的見解たりしは争ふべからず。斯は教會の從來爲せし所と爲さざりし所に依つて見るべく、又其用語と傳道の組織に於て見るべし。此見解の人の思想に浸染するの深く、且人心に地歩を占むるの大なるや、神の國は天使の中にあらずして、人の中に建設せらるべきものなりとの眞正なる意見も、人心に入るに餘地なきの觀あり。

子の見る所を以てすれば此見解は全くイエスの教と一致せざる者なり。斯る選良的王國が基督の理想の部分的實現として存せしこと決して否むべからず。然れども吾人が今研究せんとせる問題は或時代に於て此世に於ける神の王國として認めらるべきものは何ぞやてふ事にあらずして、實に理想的にして終極なる神の王國に關する基督の教は何ぞやてふ事にあり。

此問題の正しき見解に達せんには、萬有の父たる神の性質、其王國の主たる基督の

力と其方策、人の罪惡より來る要求の範圍及び其王國の最後の發現たる神の榮光を商量せざるべからざるは、何人も異議なき所ならん。此等の要素を見つゝも尙此王國が地理的には言ふまでもなく、一切の方面に於て人類全體を包容する者なりとの結論に達せざらんとするも得べからず。基督は「惡魔の業を毀ち」(約三)「萬物を其足下に服し」(希二) 萬民を引き連れて彼に來らしむるもの(約三二)と謂はれ、彼は呪詛のある所に其恩寵を溢れしめん爲に來れりと稱せらる。神の王國は其成就せん時、人類の一切の關係を包擁し、人類其物は神の住み給ふ神殿たるべしと啓示せらる。世或は斯は年月を要すること久しく且困難なる計圖なりと言ふものあらんも、予は答へて言はん、曰く人類の無窮の運命と神の榮光共に繋りて此一事に存せば、其經營如何に困難に、且長き年月を要するとも之に與かれる凡ての人物機關の活動を値するものに非ずやと。第一の見解に従へる神の王國の建設に要する事業の手續と、第二の見解に従へる其との間に大なる差異の存すべきは、容易に看取せらるべし。



イエスは固より此種の問題に關する唯一の權威なり。神の王國は如何にして來るべきかてふ吾人の講究せる大問題に付き、眼をイエスの教訓に轉せば吾人は唯一の教説を見る。即ち生長の教説是なり。神の王國の進歩發達を表はす所の一切の譬喩は、個人的に信者の心情に關しても、總體的に神の王國に關しても、皆等しく生長の譬喩を以てせるは頗る注意すべき事實なり。而して麵酵の譬喩も其働きまた生長の形を有して此類に入るべきものなり。

神の王國の譬喩の重なるものに、世に「漸次に生長する種の譬喩」と稱せらるゝものあり。斯は古今の註解者にも説教者にも甚だ等閑視せられたる者にして、福音書にも唯馬可傳にのみ傳へらる。曰く「神の國は人種を地に蒔くが如し。日夜起臥する間に種はえいで、生長てども其然る故を知らず。夫れ地は自から實を結ぶものにして、初には苗、つぎに穂いで、穂の中に熟したる穀を結ぶ。既に熟すれば收穫の時至るに依つて鎌を入る」と。(馬可四〇二)

此譬喩の含蓄廣くして他の譬喩の有せる多くの眞理を包括するに足り、且之に加ふるに意義最も大なる獨創的觀念を以てせるは、少しく意を用ゐれば明ならん。播種者の譬喩は先づ地味の多様と生育の種々の状態を示すを以て首とし。稗子の其れは王國の田圃に共に生育する善きものと悪しきものとの關係を表はし。芥子種の其れは小に始まりて大なる生長をなす事を教へ。麴酵の其れは其置かれたる凡ての地位境遇に於て、神の國の發展進歩する事を示せり。

「生長する種の譬喩」は種を蒔く所の人と、蒔かれたる土地でふ語にて容易く播種者の譬喩を包含す。其中に種の多種と生育の凡ての状態を容るゝの餘地あり。而して又等しく芥子種の譬喩に依つて教へられたる種の萌へて育つ力を細かに表はし、且稗子の譬喩の稗子麥と共に蒔かれしならば共に成長し専ら、蒔かれしならば専ら生長することを包含せり。

此譬喩は全然一般的にして其自身の範圍に於て頗る適切なり。他の譬喩の如く特種



なる出來事又は社會若しくは階級に關せずして、普通の法則と之に對する人の關係を教ふるものなり。其用語に尋ぬるも亦以て見るべし。即ち農夫 (Georgos) とせずして人 (Anthropos) とせる是なり。此語は地上の活動者の最も廣き觀念を包括せり。而して蒔かれたる物に於ても同様なる一般の範圍を見るべし。種即ち (Sporos) なる語は種子に關する最も一般的の語なり。元來此語は種類の何たるを問はず蒔くことを意味す。されば收穫の性質は蒔かれたる種子の特性に依つて定まるべく、苟も生長の法則の下にあるものに等しく適用せらるべし。

蒔かれたる場所も馬太傳の芥子種の譬喩の如く其人所有の圃にあらす。又路加傳の其人所有の園にあらす。單に土地なり。文字通りに言へば土なり。

是實に植物界の譬喩なり。種の漸次の生長は甚だ美しきものにして且其初には苗、次に穂出で、穂の中に熟したる實を結ぶと言へる語の中に於て適切に表はされたり。是れ唯地より生じ、收穫の時まで絶

えず働く生命的大活動の、人目に映せる隨伴的狀態たるのみ。予の見る所を以てすれば蓋し此譬喩は植物界全體に現はれたる自然の生産力を以て、複雑多様な働に依り人を義に進ましめ、神の至き王國を現出せしむるの收穫に至るまで其活動を息めざる心靈界の一層大なる力の類例とせられたるなり。

教授ブルースは其「神の國」なる大著述に於て、二度まで此譬喩を用いたるが、予の見る所にては一は其意を錯り一は其義を盡さず。然れども彼は其脚註に於て頗る意義あり且暗示に富める一の觀察をなせり。彼曰く「上に引用せられたる譬喩は生長の法則が神の王國に於て有せる真理の新約聖書中最も明白なる記述なり。個人と團體兩者に關する此真理、なべて使徒教會は言ふまでも無く、使徒等も之を了解せしや甚だ疑はしく、保羅と雖ども然り」と。彼は又其著「基督の譬喩的教訓」に於て此譬喩に基きて長き論述をなせり。彼は其中に此譬喩の純正にして獨創的なること、即ち其イエスの口より直ちに出でたるものにて馬太若しくは路加が傳へたる他



の譬喩の改造變形にあらずとの彼の信念を明言せり。彼は又フオルクマー、ホルツマン、ニアンデル、ブライデレル等の言を引用し、彼等も亦彼と意見を同じうせる事を説けり。

教授ブルースは此譬喩の説明に於て幾分かは予が其心髓なりとせる點を認識せり。然れども彼は不幸にして第二義を捕へて第一義とせり。彼曰く「此譬喩は神の語の第一の播種者たる基督のみならず、其心の田地に真理の種子を蒔かれたる人々に受動主義を示さんとするにあり」と。彼又曰く「信者の益の爲めに此譬喩は第一層正しき解釋の願はしきもの稀なれども、また是れ程不完全に説明せられしもの少し。予が此言をなすは暗に他を貶して自から薦むるが如き倨傲不遜の誹を免れざらん。然れども聖書の或部分を説明する人の能力は専ら其人の宗教的經驗の特色に依る。吾等は實に吾等自からの齎らすものを自から見出せばなり。試に思へ、一人の基督信者あり、其人の經驗は彼をして熱心に願へども長く許されざりし願の爲めに、神

を俟望むてふ大切な真理に熟達するに至らしめたり。此經驗の自然の結果は彼をして聖書の中なる同じ教訓を教ふる多の言葉に對して其眼光開け、直ちに其意義に透徹するに至らん。予自身の如きは即ち其れなり。是を以て此譬喩は予に取りては、古の詩人が歌へる、我言ふ主を俟ち望めとの教訓が、譬喩的形狀にて繰り返へされたるものと解せられ、多年予が思想の好題目として、又慰藉の豊富なる源泉となせし所なり。吾人は斯く此譬喩を見たりし。凡ての方面に於て神の國の生長の進歩は漸次にして緩徐に且定まれる法則の存するを以て、俟つを要すべきものなりと云ふは、此譬喩の歸結にして又其眼目なりと覺ほし」と。

予は教授ブルースが他人の所説に對して爲せし如く、彼の所説に對して甚しく當惑せり。彼が他人に對する當惑は何の爲なりしにもせよ、彼に對する予の當惑は一層大なればなり。而も予は聖書の解釋に於て吾等は吾等の齎らすものを見出すてふ金言の、甚だ危険なるものなるを言はざらんとするも能はず。是れ真理の發見の爲



めには屢全く之を超脱せざるべからざる個人的経験の偏見を奨励せんとするものなればなり。況んや之に加ふるに聖書の解釋に影響すること甚しき他の一事を以てするをや。即ち其養成せられたる神學の教理より來る影響是なり。教授ブルースは彼が此譬喩の重なる思想なりとする受動主義の、殊に俟つて彼の経験と一致する事を説けり。然れども個人的經驗に屬する事柄に於て主の善とし給ふ時を俟つてふ言説は、又人の態度と活動を閑却無視する神の主權てふ教理の痕跡を有するにあらずや。

教授ブルースは此譬喩の第一の目的は、總体としての神の王國の生長を説明するにあるを言へること一再に止まらず。而も彼は其「神の王國」基督の譬喩的教訓に於て、重に個人の心情に於ける神の王國の生長の漸進的なること、又其緩徐なることをも説く爲めに用ゐたり。予は主イエスが此譬喩を語りし時、其心に斯る思想の存せしかを甚だ疑ふ。實際此譬喩には斯る思想の存せざる徴證多し。

此譬喩を個人の事として解釋し、生長の漸進と緩徐を其教訓の重なる點なりとなすものは、農夫に關して大なる困難に陥るなり。何れの處にも懶惰は災害を生む。而して此譬喩中の農夫の懶惰は個人の事なりとする註解者に少なからざる困難を生めり。少なくとも彼等の一人は此困難を逃れん爲めに、棘荆其他神の語を塞いで其生長を防ぐるものを刈除するの勞作を農夫の爲めに發見するに至れり。此の如き勞作を取るの必要實際存せざるなり。

神の王國の生長の漸進的なるは、常に眞實にして且吾人の注意を喚起するに足る程に重要なりと雖も、此譬喩の主眼なる要點にはあらず。農夫も亦種を蒔きし後は不要なるものと認められたり。彼は此譬喩に説かれたる眼目たる大事實即ち種をして實を結ばしむる自然の活力の作用を理解する能はず又進行せしむる事も能はずればなり。是を以て彼は暫く閑却せられたるが、僅に收穫の時譬喩の照應を全ふせんが爲めに、再び引き出されたるのみ。



博士マイアー曰く此譬喩の教訓は是なり。即ち宛かも人が播種を終へし後は其發芽も生長も凡て土地の力に任せて復之に干渉することなく、成熟の時に至つて之を穫り入るゝが如く、主イエスは彼の言葉が人心に生ずべき道德的結果と生命の新發展を、此等の結果が自然に生じ來るべき人心の道德的自働に任せ、神の王國の建設の時至るに及び義人(Dikaios)を集めしむるの意なりと。

「人心の道德的自働」を以て此譬喩の主眼たる真理なりと主張せるマイアーは、明かに教授ブルースより一步を進む。然れども彼亦思想の混亂を免れざるが如し。彼曰く主は其王國建設の時至るに及び義人を集むべしと。彼が譬喩中の王國として其心に描けるものは速かに形式的に建設せらるべきメツシヤ的(メッシーヤック)王國なるが如し。且彼は進んで義人は天使に依つて集めらるべしとて、地上の王國擴張して天の王國に其の民を移す時起り來るべき状態を説ける馬太二十四章三十一節と同十三章三十九節を引用せり。然れども此譬喩の王國は前兩者の何れにもあらず。蓋し茲に

説かれたる王國は基督の事業と其教會の樹立を以て始まりたるものにして、天の王國に其果實の最後の運搬をなすに終るべし。而して此譬喩の主とする所は實に此二大事件の間なる生長期にあり。

大監督トレンチは其著「主の譬喩」に於て此譬喩を説明するに當り、若し其眞實の意義に捕捉し得ば毫も存せざるべき困難を説明せんが爲めに、此譬喩に與へられたる殆んど全紙面を費せり。彼の困難は専ら農夫に關する説明よる生ず。農夫は予が曩きに説ける如く彼の唯一の大切なる播種をなせし後、不要なりと認められたるものにして、此譬喩の主要的要素として遇せらるべきにあらず。さればとて予は農夫を單に一個裝飾品と化しんとするにあらず。彼は此譬喩の教ふる大なる真理に關して重要な地位を有せり。而して其地位は播種者なる地位にして收穫者の其れにあらず。後者は唯前者より來れる隨伴的職掌たるのみ。大監督トレンチ曰く吾人が最後に引用せし「地は自から實を結ぶ」てふ語に代へて「種子自から生じ且育つ」



この語を見ざるは、人をして驚駭を禁ずる能はざらしむべし。嚴密に語れば是れ主が茲に主張せる要點なればなり。若し地は人の心情を意味すとせば、其然るは言ふまでもなし。活ける力の存する處は地にあらずして、そが受くる所の神の言葉にあり。予は博學なる著者に對して尊敬の心を失はざれども、乞ふ予をして「嚴密に語れば」斯は主が茲に主張せる要點にあらざる事を言はしめよ。大監督にして少しく考察せば種子は自から生長すべき力なきを知らん。發芽は其機能の極度なり。而して子葉を包める稍細かなる土あるが爲めに發芽す。種子は時に土に觸れずして發芽する事あり。然れども左る場合にても、土中に於てする場合にても、唯土のみ供給し得べきものに依つて其生命の保たるゝにあらずんば、直ちに死し始むべし。されば大監督の此説は予の見る所を以てすれば彼の平生の明敏を示すものに非ずして、淺薄にして的を外づる、事遠しと謂ふべし。イエスは今正に「種は萌へ出で、育つ」と言へり。種子は自から生じ自から育つと言はんは寧ろ自然の順序なるが如

し。されど彼は適當なる事情の下に存する人の熟知せる性質を種子に歸し(石には之れ無し)進んで人の注意を種子より唯土地にのみ存する性質と力に轉せしめんが爲めに全く異なりたる思想に説き及ぼせり。トレンチが之に關して爲せる重なる貢獻は、挿句ながらも力を込めて言ひ表はされたる此譬喩は全く一般教會の生長發達に適用せらるべきものにして、個人の靈性の其れに適用せらるべきものに非ずとの意見にあり。此點に於ける彼の斷言は甚だ價值あり。而して曩きに引用せられたりし教授ブルースの暗示と一致するものなり。予は思ふ、此譬喩は之を總體としての神の王國に適用し、其教ふる所の一大特質を領會せば全く何の困難もなきを。予は總體として見たる神の王國の譬喩に、偶個人の心情の其れに適用すべき多の眞理あるを思はざるにあらず。而も人類の中なる王國の如き大にして且複雑なる團體を論ずるに當つて、個人に應用すべからざる或要素の存するを知らざるべからず。註解者が此譬喩に於て遭遇せし困難の多



くは、そが須く有すべき大なる社會的範圍を之に與へざりしより來れり。一局部の地上の王國すら、個人より組成せられ、其特質は重に彼等より成るも、尙個人を以て論ずべからざる多くの事物存せり。忠義と愛國は市民には大必要の性質なり。されど個々の市民の此等の性質を保有したりとて必ずしも王國を造くる能はず。此等の性質は固より重要なれども政治家の手腕は實に此等以上に有るが如き亦以て見るべし。若し神の王國なる言葉個人の心情の内なる王國なりとせば、吾人が先きに論せる如く如何ともし難き多の困難起り來る。殊に農夫に關する困難は其最なるものなり。吾人又若し之を地上に於ける神の王國の端緒、即ち舊社會に對する基督教會なる新社會世に來りたる事なりとせば、吾人は二の容易ならざる困難に遭遇す。即ち生長の漸進的なる事と、收穫の性質と時と是なり。されど吾人若し神の王國とは基督の教訓と傳道に始り、人類救済の全歷程を通じて繼續せる人類の中なる神の支配の意なりとせば、困難は漸く減じ行き、其真理の第二義と第一義の適當なる配

合に依つて、遂に全く消滅すべし。此譬喩の大主張四あり。

一、播種をなすもの。一人の人は是れ眞の種子の栽植培養の爲めに一切の有益なる地上の勢力を利用する所の、王國の主たる基督を代表するものなり。預言者、使徒、牧師、兩親、教師、教會、國民、文明は皆此目的の爲めに彼が機關として用ゐる所のものなり。

二、蒔かれたる物。種子即ち神の王國の眞理。是れ固より第一には神と人との關係に關するイエスの教訓と、第二には人と人との關係に關する之に附隨せる千百の教訓を包含す。然れども尙之に加ふるに、苟も人をして神の知識に長じ、其喜び給ふ奉任に進ましむべき、人類の達し得べき凡ての神の眞理を包含せる事疑ふべからず。世人若し心理と商業の法則も正しく理解せらるれば、引力の法則及十誡の如く神的中なる神の國の發達に資益するを知るに至らば、幸ならん。



三、王國。即ち其播種の境域。人類其物は此譬喩中の土地なり。而して播種者たる人は又種子を受くる所の土地なるは差したる困難にあらず。播種者の譬喩に於ても亦然りの人は己自から己れに種を蒔く事を得るを以て、兩者實際に於て同一人たる事ありとも、兩者の區別判然として毫も混亂を生ずる事なし。人即ち種子を受くる土地たる心と情と生命に就て「地は自から實を結ぶ」と言はる。茲に用ゐられたる「自から」てふ文字は Automate (自から) なり。此語は新約聖書の他の場所にて唯一度用ゐらる。天使來りペテロを獄舎より救ひ出し市の鐵門に達せし時、市門自から (Automate) 彼等の爲めに開けたりと。斯く記されたりとも誰も文字通りに自動したりと云ふもの無き如く、識見ある人若くは眞實なる科學的精神を有するもの、誰かは地其物に生産の力ありとするものあらん。斯は假りに第二原因を第一原因とせるものにして、農夫以上種子以外土地を経て種子に働き、植物界に實を結ばしむる勢力ある事を示せり。

四、收穫。是れ種子は其類に従ふて實を結ぶとの神の定めたる律法より來る者なり。其發芽の時より成熟の時まで働く所の此普遍なる生長の法則は、此譬喩中の最も暗示に富めるもの、一なり。是れ雷に希望の天地を與ふるのみならず、完全なる王國の必然現はれ來るは不變の法則に依つて定まれる事を示すものなり。而して收穫の性質は一に之を蒔く所のものに依つて定るなり。茲に指示せる收穫は耕作に於ける正當の順序なり。夫れ人は蒔き人は刈る。人は常に變ずれども事と業は常に變せず。而して實を結ばしむるものは神なり。作物の多種多様なるが爲めに一の播種と他の收穫は相接して來る。神の王國てふ團結的生活に於ても亦之に同じく、播種と收穫は絶へず去來し、蒔くもの刈るもの常に活動して毫も怠惰の餘地を存せず。

加之神の國てふ團結的生活には他の社會に於けると同じく、個人的範圍を超越して個人を以て言ふべからざる播種と收穫あり。固より個人的利害其中に存せりと雖



ごも主とする所は團體的利害にあり、是れ吾人の注意せざるべからざる所なり。思想時かれて社會、制度、經濟政策の狀態革新の收穫あり。アブラハム信仰と服従の種子を蒔きてユダヤ教會と選民の收穫あり。モーセ律法の種子を蒔きて、其子孫古代の最大共和國たる收穫を得たり。レカブの子ヨナダブ全き自制てふ種子を蒔き、人心着實なる幾代を收穫し、イエスと其弟子愛と平和の種子を蒔き、家族と國民と社會は其收穫を得て喜べり。個人たる人は勞作して而して死す、されど人類たる人永久へに死せずして神の王國は生長す。

「地は自から實を結ぶ」てふ此譬喩の主眼たる眞理の實際は、年々歳々地球の全面に於て人の目撃する所なり。春來れば樹々の木の芽は緑なし、平野には百穀生ず。夏は生長し、秋至つて豊なる收穫あり。其大測るべからざる活力は、微妙にして見るべからざれども、漸次に之を生長せしむ。苗あり、穂あり、穂の中に實を結ぶと云ふ如き順序は、唯局限せられたる人間の眼を以て自然の斷へざる働を測れるの

み。宛かも此進化と無機物より生命の出で來る歷程は、土地の背後に存せる無限の勢力の不息の推進に依る如く、人の中なる神の王國は其天性を美化し、之を全ふる爲めに、人を通じて人に及ぶ所の神的生命力に其基礎を有す。是に於てか此譬喩の大思想は、少なくとも予に取りては植物界に於ける生長力に關するものにして、義の王國に活動せる勢力の明白なる觀念を與ふるものなる事瞭然火を見るよりも明なり。

此偉大なる勢力の寧ろ驚くべき例證近く吾人の邊にあり。以て此譬喩の研究を結ぶに足らんか。播種者の譬喩に於て善き地は三十倍六十倍百倍の三階級に於て實を結ぶとせらる。其大なる比ぶるに物なき野と森の自然の生長は暫く措き、予は此譬喩に記載せられたる最小と最大の二の増加率につき世人の注意を喚起せんとす。三十倍は正に小麥の増加率に甚だ近く、百倍は玉蜀黍の其れに相當す。此二者は實に世界に於ける麴



粉の二大原料なり。而して小麦の一ブツセル(一ブツセルは昔は二斗一合余)を以て三十ブツセルを得るは珍らしき事に非ずして、玉黍麥の一ブツセルより百ブツセルを産するとも決して豊作にあらず。

吾人をして先づ小麦に付て思はしめよ。予は徒らに數字を羅列して紙面を塞ぐことを欲せず。唯單に其結果を擧げんとす。試に小麦の一ブツセルを取つて之を蒔き、毎年其凡ての生産を蒔き二十年に及ぶとせよ。第二十年の終に於て幾何の收穫を得べきか。甚答案は其率三十にして其項二十なる幾何級數の最後の數なり。少しく數學の心得ある人は斯くして出で来る數字の如何に宏大にして之を貯藏せん爲に如何に大なる多數の倉庫を要するかを知らん。直徑八千哩なる地球を假りに中空とせば、其中にブツセルの三十一セクスチリオン(セクスチリオンは百万の六乗にして一に三十六個の零を付したる數なり)以上を容るゝに足る。地球一個の容るゝ所の容積甚だ大なりと謂ふべし。而も上に擧げたる生産を蓄ふる爲めに一千九十九萬五千九百八十九の地球を要し、尙殘れる比較的少

量なる剩餘にて人口増殖の現在の度ならば數百萬年の間人類を養ふに足るべし。吾人若し又玉蜀黍を取り、其増加の自然の度は暫く措き、百倍の率を以て計算せば二十に代ふるに十五を以てするも、其生産の高は地球大の三千一百五十三萬六千八百八十八の箱を充し、其殘れる剩餘を以て、地球大の箱を充たすに足らざれども尙現在人類の消費高を以てせば數十億年を支ふるに足る。

吾人は容易に自然の生産力の風力、水力、蒸氣力電氣力の如き凡ての勢力に遙かに超越し、其懸隔の度意料の外なるを知らん。此沈黙せる而も量るべからざる勢力の偉大なるや、若し死と滅亡が生活機關に設けられざりせば、其組織は自己の生産の重みの爲めに忽ちに破壊せられたらん。

吾人が此生産力の譬喩の研究に比較的多數の紙面を用ゐたる所以は、人類の中に來るべき神の王國を全ふすべき根本主義の觀念を得ん爲めには、此譬喩の眞意義を發見するにあるが故なり。此譬喩を正しく解して、始めて教會は此神の王國てふ聖な



る企圖に最善の貢獻をなし得る活動の方法を理會すべき正しき態度を得ん。  
次章に於て予は正しく其條件を具備せば人類をイエス、キリストの慈仁なる支配の  
下に齎らし得んこと疑なき基督信徒の信仰に存する生長力に注意を喚起せんこと  
欲す。

### 第三章 基督教の増殖力

心を用ゐて基督教を研究するものは、基督教が生命としては言ふまでもなく、一個  
の教義としても、尙如何なる宗教如何なる學說にも之れ無き活力と發達の要素を  
有するを見ん。基督教は其増大力即ち進歩の率遙かに他宗教の其れに優り、其信  
徒にして自から其正當なる生長の法則を守り、又其子孫をして之に従はしめだにせ  
ば、其最後の勝利確實疑ふべからざる生産力と膨脹力を有す。

人類の勢力たる基督教の發達に二の系統若しくは境域あり。此兩者は本來相關連せ  
りと雖も亦自から異なる所あり。相離して箇々に考察すべきものなり。即ち一は  
直系生長と呼ぶべきものにして、一は側系生長と稱すべきものなり。前者は家  
族を基として直接に内部より生長するものにして増殖と名けらるべきものなり。後  
者は外部よりの附加又は廣き意義に於ける征服に依れる發達にして、基督教的思想



及び生活の社會人心に及ぼす透徹力と、特に神の語の活用により人を通じて未信者に働く聖靈の力に依つて来る。而して此種の發達は専ら傳道と信仰復興に依るものにして、布教の名は頗る之に適せり。

今を去ること五十餘年前ホレイヌ・ブシチル青年の宗教々育と之より來る神の王國の擴張に關し一書を著はせり。(此書名けて基督)其書議論精到にして肯綮に中り、同じ思想の野を横ざらんとする後の論者をして彼の足跡を追はざる能はざらしむるものあり。就中基督教の増殖力に關する一章最も暗示に富めり。其叙述の明白にして例證の豊富なる、最も能く進歩發達の元則を表はすに足るものあれば、予は茲に其要領を抄記すべし。

「茲に知る基督教は神的種子を供給する力を有せる事を、當に人心を一變せしむるに依つて世界に其感化を及ぼすのみならず。一層強大にして且依頼するに足る所の沈黙せる力を有す。其動くや宛然一種の宿運の如く、個人的任意の不定なる活

動の背後に在つて、漸次に神の恩恵に成長せしむることに依つて、之をして世界の大なる人口増殖の母たらしめんとす。此確信こそ實に吾人をして意を強ふせしむるものなれ。

「人種若くは種族の増殖力の、そが到達せる個人的又は宗教的性格の度に從ふは、世人の熟知せる事實なり。善良なる主義、習慣、智能の修養、家庭の道德、勤勉、秩序、法則、信仰の如き、皆直ちに増殖の力と其率を高むるものなり。是等は人種をして單に軍事上の意義に於て有力ならしむるのみならず、百年の長き間繼續する人口の増殖力に依つて、黙々の中に何時しか武力をのみ頼む所の競争者を壓倒するに至るべし。若し甲乙二種の民あり、相混じて生活せば、假令ひ其他に於て凡て嚴密に同等なりとも、兩者の何れか幾分か生理的に於て他に卓越する所あらば、優者は劣者を壓倒し、遂に之を亡ぼすに至る事確實なり。劣等なる人民は早く優者に同化するの外他に救はるべき道なし。



「アブラハムへの神の約束は疑もなく此事實に依つて成就せり。神は己を之に與へ、斯くしし個人の生命の一層高等なる調子を鼓吹し、之に依つて彼の眷族を他に勝りて増殖せしめたり。されば此種族が顯著なる繁殖力を表はせしは、驚嘆すべき宗教的**大事**なり。餓に迫りて埃及に下れる彼等は、殆んど四百年にして廣大なる埃及王國に溢れんとするに至れり。イスラエルの子孫饒く子を産み、彌殖え、甚しく大に強くなりて國に滿つるに至り」遂に王の嫉妬を引起し、王は「見よ、此民イスラエルの子孫我等よりも多く且強し」と言ふに至れり。

「此後小きパレスチナは恰も蜂の群の如くなりき。大なる都市建設せられ、大なる軍隊起され、年を追ふて人口に富める大帝國たる凡ての徴候を表はせり。當時の他國民と比して斯る大なる人口の増加は、よし其信念部分的にして未熟なりしにもせよ、獨一神教を奉せるより來れる一層高等なる人格に因れるものなり。」  
 「時代下りて國民瓦解し、幾千の民捕虜として遠くペルシヤに移さるゝや、吾人は

ペルシヤの大王一度ユダヤ人滅絶の命を下し、後之を取消さんとするも、**淪言汗**の如してふ笑ふべき格言に泥みて之を爲す事能はざるや、立つて自から防衛するの權利を之に與へ、其完全なる特權を保證するに足る他の命令を發せるを見る。以士帖書に當時の狀況を記して曰く、「彼等は何れの州、何れの邑にも集りたれども、誰も彼等に抵抗するもの無かりき。是れユダヤ人を恐るゝの心人々に起りたればなり」と。見るべし、捕虜の民短き時の間に驚くべき増殖をなし、ペルシヤ王の大王國至る所に蔓延せしを。

「吾人をして尙下りて一層近世の例を基督教と回々教の歴史の比較に取らしめよ。基督教の發達は回々教の其れに比して其時代舊し。一は道徳的宗教的感化に依れる膨脹にして（少なくとも其一部は）一は武力に依れる擴張なり。兩者共宗教的觀念と目的を有すれども、其最も異なる所は一は自由なる個人の心靈に訴ふる所の宗教にして、他は運命の強き把握たる宗教なるにあり。預定てふ恐るべき劍



に依つて擴張せる後者は、一時恰かも林を燎く火の如く一舉して世界を従へん  
 する勢なりき。されど時を経るに従つて一は人を造くり、一は人を造らず、一  
 は偉大にして力ある品性を鼓吹し、一は儀式に沈溺して種族の精神的調子を卑く  
 し、遂に一は偉大なる文明と力ある國民を造り出す所の人口の大潮を起し、他  
 は弱くして住民半絶え、頽勢滔々支へ難く、亡國の非運遠からざる衰弱國を生ぜ  
 り。此等世界の二大宗教は各々初より自家の増殖法を有し、基督教は遂に回々教  
 を壓倒し、全く之を世界より除き去る事の全く確實なりしは言ふまでもなし。而  
 して十字軍に次ぐに十字軍を以てし、俠武なる歐羅巴人の數百年に涉れる軍旅は、  
 彼等を征服する能はざりしかども、基督教信仰と教養より來る壯大なる増殖力  
 は、音なき點滴の如く何時しか世界より之を追はんとせり。

「清教徒より出でたる此國(北米合衆)の増殖力と、劣等にして迷信的に、半基督教  
 的なる南米諸州の夫れとの比較に依つて、吾人は同一の大教訓に接すべし。而し

て其差違の因つて來る所は、前者に存せる一層多大に、一層充實に、一層開創的  
 なる力を有せる基督教の、遙かに勝れたる増殖力にあり。

「此有利なる勢力の如何に増加し且將來に於て現時よりは遙かに力強く現はれ來  
 るべきかは、之を見る事難からず。基督教徒たる兩親の兒女をして、眞實なる基  
 督教徒に相應はしき神の恩寵を父母より受け繼ぎて生長せしめよ。而して其生長  
 せる兒女は家をなして又多くの兒女を生み之を基督教的に養育すべし。斯くて家  
 族増加の方法は教會の中に於て大なる勢力となるべし。加之基督教以外何れの  
 處にも存せざる増加の原因と事情ありて教會内に活動せり。

「例令へば他より一層強き健康の勢力存せる事なり。他の社會に於ては多數の人絶  
 へず悪習と亂行に依つて滅亡しつゝあり。而して彼等自身亡びずとも彼等は必ず  
 其父母の體質を受け嗣ぐ其子女に其放蕩の悪結果を殘しつゝあり。されど眞實  
 の基督教者生活は能く節制を保ち、情慾を制し、強健なる心の平衡と勇氣あり。心



靈の全体一層密に神の法則秩序と調和す。是亦健康の道にして、大なる増殖の法則其中に存す。

「富も亦他より一層速かに基督者生活の下に於て現はれ来るべし。生活の普通の要求を豊かに供給するに足る富は、又人口増殖を助くる所の一原因なり。眞實の信仰は直ちに是れ産業の原理にして、實務に適用せらるべきものなり。信仰は虚榮を愛するの念と亂行に傾かんとする心を抑へ、秩序と經濟を破らんとする放縱なる慾情を支配す。信仰は信用の基礎なる忠實を生む。忠實は繁榮の基礎なり。新英州の辛嚴にして陰鬱なる空と、岩石多き硬土に、斯る大なる繁榮を生じ、物質的の幸福と文物を見るに至れるは是が爲なり。而して富は信仰の存する所に分布せられ、斯くて眞實なる基督者の社會は己自身の習慣と主義に従ふて礦山を開掘し、年々歳々加はる所の富は生産企業教育殖民等各方面の勢力となり、隨つて又人口増殖の勢方となれり。」

「基督教は又大に人の才能の發達を助くるものにして、才能は至る所に事業の舵機を取れり。基督教の信仰は直ちに是れ各方面に心靈の容積を擴張する所の一種の聖なる開發なり。且又基督者の家庭は特に子女の知能の覺醒を助くる諸種の勢力充てり。宗教其物既に思考するものなり。宗教は兒童の心を直ちに未知の世界に運び、壯大なる問題を以て悟性を充たせ、其想像を遠く天使の翼も疲れぬべき所に送る。斯くして基督信者の家庭の子女は夙くより心の活動を始む。是れ亦基督教主義の健全にして生産的なる勢力より來る者なり。而して又信仰ある心靈は神との結合に依つて高められ、強めらる。其判断は明になり、其理性は眞理と調和し、其感情の容量高まり、想像は其信仰の對象に依つて燃ゆ。教會は畢竟神の大學校なり。教會が能く凡ての能力に力を與へ、才能あり且有力なる人種を造り出すは、實に本來其靈的生命の學校たるが爲なり。」

「茲に又大なる多の眞理あり。人生に關する最も偉大にして最も豊富なる觀念其中



に存す。科學と發見と發明茲に生し、偉大なる書籍著はされ最高最崇最鋭なる品性形造らる。民の由自と人の權利は之に依つて確められ、商業は亦之に依りて起らん。是れ世界的交通を結ばしむることに依つて基督教的愛の前曲を奏するものなり。

「上來説き來れる如く吾人は勿々基督教社會の財産目録を瞥見して、其組織を美はしくし、其力を強くし、容量を膨脹せしめ手段を多くし、基督者團體の力を大ならしむべき、凡ての原因其中に包含せられて存するを見たり。基督教社會の他の團體若しくは宗教の中にあるは尙アングロサクソンの如き進歩せる人種の、遙かに微弱にして粗野なる土人の中にあるが如し。彼等が彼等を屏息せしめ、之を弱め、之を壓倒し、其人口増殖の大潮を彼等の上に漲らし、恰も一種の運命の如く徐々として彼等を拭ひ去ると等しく、基督教會の中に世界に蔓延して之を席卷する増殖の大勢力大法則あり。蓋し軟弱にして劣等なる人種の改良せられ且高めら

れつゝあるかは今日に於て甚だ疑ふべき問題たり。神の計畫は善良にして優美なる材料を以て世界を充たしめんとするにあらば、劣等なる種族の運命亦知るべし。吾人は思ふ儘に希望を描き想像に耽り得れども、基督教國民の間に他を壓倒する所の勢力の巨濤あり。若し基督教以外の民にして一日も早く遙かに昂き力に依つて高めらるゝにあらざれば、其巨濤の爲めに渦巻き去られて永久へに葬り去らるべきは、斷々乎として疑を容れず。基督教國の人口の増加と其殖民——若し吾人をして忌憚なく言はしめば、是れ至る所に其殖民を撒布し、風土の如何を問はず、凡ての土地を占領せんとするものに非ずして何ぞや。此増加の運命てふ手なくして切られたる石は、極めて特種なる生長する所の石にして、忽ちにして大なる山となつて全世界を充たさんとせり。(マニエル幻象中の一にして但)

内發的膨脹に依れる直接生長の外に、先きに既に言へるが如く側系生長と名づけらるべきものあり。是れ他宗教との接觸衝突に依つて基督教の勢力を外に及ぼすもの



にして、之に依つて内部の欲損を補ひ、眞接膨脹の率を維持する事を得るなり。側系的生長とは基督信徒ならざる人々の思想と政策に影響する所の、基督教より出づる透徹的勢力の謂なり。此等の影響は其勢力の因つて出づる所の教の爲めに勢力擴張の道を備へ、非基督教的社會と人民の中に基督教に對する好意を起し、基督教的信仰擴張の道を開くものなり。例へは一夫一婦制を基礎とせる家庭は、顯著なる基督教の所産なり。而して其影響の美はしくして力あるや、基督教國に於ける非基督教的社會をして尙其維持に力めしむ。而して彼等は直接に其子女を基督信徒たらしむる事を求めずとも、尙喜んで日曜學校に入れて適當に教育せられん事を欲せり。是れ眞實にして膨脹的なる基督教に最も大なる一の機會を供するものなり。而して實際の計算に於て現在日曜學校名簿に存する數百萬の兒童は此階級に屬せること疑ふべからず。此等の少年は斯くして教會に依つて養成せられ、其一部は基督教を信するに至り、應ては基督者家庭の製造者となり。又轉じて宗教擴張の勢

力中心となるなり。矯風事業も亦基督教勢力の爲めに一の大なる機會を供するものなり。近時の矯風主義は實に基督教主義なり。嘗ては亞米利加に在つて其主義の機關は、教會と僅少なる教會に關係を有せる矯風會のみなりしが、其主義忠實に説かれ、且其實際的價值宗教家にも世人にも明かに認識せらるゝに及び、今や其數と其勢力を以て社會の風俗習慣を強制するに足るべき、最も強大なる勢力となり、矯風會は教會より獨立し、人をして復其事業の教會と相結べるを想はざらしむる程にまで至れり。此等基督教の勢力擴張の機會を與ふるもの、中最も優れたるものは、近時の大なる鐵道事業なり。此等の會社は少年と青年を用ゐて事務に熟練せしめ、且公平穩當なる方法を以て漸次其位置を高むるの政策を取れり。而して此社會に於ては忠實と力量は恒久にして大なる成功の二の條件なり。各社の業務殆んど皆悉く健全なる身体と強健なる神經と明白なる頭腦を要す。而して強烈なる飲料は此等の最も恐るべき敵にして、亂酒は鐵道員の希望と斷じて相容れざるものなり。是れ獨り鐵道事



業に於て然るのみならず。殆んど重なる一切の商業皆然り。近世の事務組織の眞面目にして強き人格を造くる爲めに、世に與ふる影響は實に量り難しと謂ふべし。而して又正直と互の益を圖ると他人を愛するの諸徳共に相働きて事務を一層堅確なる基礎の上に置き、其範圍を廣め、此等の主義の因つて來る基督教を一層充分に受け入れしむる爲めに、各種の方面に人間の狀態を改良緩和するは一點の疑を容れざるなり。基督教は靈的救拯をなすに當り、常に先づ個人を救ひ、下より始めて團體、社會、國民と次第に上に進むと雖とも、又頂上より始めて下に及ぼすことあるは、吾人の注意せざるべからざる所なり。例令へは日本國民が西方基督教國の中に存する富國強兵の源を尋ね初めしより年を経ること未だ久しからず、彼等は其源の吾等の宗教と之に基ける教育組織に存せる事を了解せり。彼等は直ちに彼等が見て以て最善となすものを其國民的生命に攝取せり。而して幾何もなく内治と教育と工業に國民的革新をなせり。此西歐文明研究の始まりしより一世紀の四分の一を出でずして

日露の大破は戦裂せり。此戦争の間に日本國民は大なる度量と深き思慮と眞の愛を自國兵のみならず、敵國兵殊に捕虜と傷病兵を遇するに當つて現はせり。是れ彼等が面目と義務てふ基督教的觀念を受け容れたる事を、事實に於て證明するものにして、基督教的感化を受けたる日本の新歴史に於ける、此國民的精神の發揚と其記録が各箇人の上に如何に大なる影響を及ぼすべきかは問ふを要せず。而して吾人若し日本人が第一に基督教の印象を得たるは、其無私と愛と他國民の幸福の爲めに心身を致す博愛義侠の心を以て日本國民を献身犠牲の徳に導き、且其盡力に依つて幾千人を眞實に悔改めて基督を信じ、基督者の生活をなさしめたる男女の十字架の使者に依る事を思はば、吾人は下よりも、又上よりも働く所の二の勢力、聖靈の導と力に依つて、遠からず日本國民を第一等の基督教國民と變すべきを疑はざるなり。尙亦吾人をして平和説の品性と相互の關係に及ぼす勢力を思はしめよ。基督教は個人の品性及び其關係の條件として平和を必要なりとす。而して平和は個人より團體



に、團體より國民と世界に及ぶべきものなり。是を以て凡ての強大なる基督教國世界平和説の保障となり、一切の人間の利害之に繋れり。此主張は過去に於て自ら基督教徒と稱するものに依つて多くの危険なる破壊のなされたりしに拘らず、全く基督教の所産なり。其思想人類の中に深く浸透し、遂に平和會議の提案世に出でたるは全く近代に屬す。其會議の結果或程度まで戦争の慘酷を緩和するに過ぎずして、實際的に未だ成功せる所多からずと雖も、此思想を廣く世に布き、世界の人類をして大と小とを問はず、凡ての國民の名譽と商業的安全とを調和すべき、一般的なる且恒久なる平和の成功期して待つべき事を確信せしめたり。而して過去二十五年間に英露二大基督教國の弱國と干戈相見るに至りたれども、兩國の最も思慮ある且開創的勢力を有せる國民中の大市民が、強く其戦争に反對せしは注意すべき事實なり。平和主義は遂に世に行はれん。斯くて基督教者は側系的即ち間接の方法によりて基督教の遂に地上に至るべき支配を及ぼすに至るべき重なる條件の一を成就せん。

基督教の生長力に關し尙一の特記するに足るものあり。傳道的精神是なり。基督教は海を渡り陸を越へて苟も風の吹く所に飛び行く翼ある種子を有する世界唯一の宗教なり。斯は其中心的刺激愛なるにあり。即ち其最善なるものを之を要すること最も切なるものに分つ事に依つてのみ其最上の満足を得る所の與ふる愛情より來る。基督教は其所有を絶へず與ふるものをして益富ましめ、惜しみなく注ぎ出すものをして彌充たしむる世上唯一の信仰なり。而して新しき團體、社會、國民を求めて新たに其種子を蒔き付くるは日々之の出來事にして彼等の各個は又轉じて新しき傳道の中心となり、斯くして神の王國は年々人類の生命を支持する麵麩を保證する所の法則の如く、其活動に於て確然動かす、且避くべからざる法則の下に、凡ての地方凡ての社會に秩序的に發達するなり。

側系的生長の最も重要なる最後の勢力は、所謂新教の復興力と稱する者是なり。其生産力に於て固より内部よりの神の王國の發達に現らはれたる生長法の、一層正し



く且靜なるものに比すべくもあらねども、是れ亦驚くべき價値ある要素なり。此正當普通なる法則に對する關係は、甚だ自然界に於ける雷電の空氣と電氣に對する關係に似たり。最も純粹なる宗教的覺醒は單に之を事實として見るも、最も壯大なる力の表現なり。是れ實に道德界の閃電鳴雷なり。其状態と作用と結果の自然界の雷電に酷似せるを見よ。其眞實の起源隠れて現はれず。其時豫め知り難く、寂然たる沈黙の一變して轟然たる鳴動となるや、人をして頗る莊嚴の感を催さしむ。見るべからざる勢力は沈滯を破り、空氣を變じ、毒氣を燃やし盡くし、人の呼吸を強め血液の循環を活潑にし、生氣と強健を與ふ。其轟然として動き來るや、凡ての階級の人を絶對者の前に一にし、之れ無ければ全然不可能と見ゆべき運動を容易にして、且自然ならしむ。迅雷轟き疾風至る際には最も大膽なる人隠れ家を求めて走るも決して不名譽ならざる如く、リバイバルの絶頂に達するや、其身を寄せ來る最後の人ならんと思はれしもの却て魁することあらん。而も堅實穩當なる事を失はざりしと

の感想を以て之を爲すあり。或は又己の心事を表はすを避くる人も、他人が風波(精神的)を経て安全の地に着するを見る時は一種安堵の心を起すべし。而して此感覺は彼等自身亦同じ風波に包まれたりとの事實無くんば起るべからざるものなり。世には精神的雷電轟き電流撃つにあらざれば、眞の關係と眞の状態を覺知する能はざる程に、道德的に硬固せる人あり。されどリバイバルの時に於て未だ左程に頑硬ならざるもの、又は眞正なる基督者も之に觸れて覺醒するは、吾人の忘るべからざる事實なり。

吾人若し眞實のリバイバルに動く所の力は、普遍にして透徹し、且力ある聖靈の力なる事と、其利器は靈の接觸に依つて生ける且命令的なる神の語なる事と、其力の流れ注ぐ水路即ち機關は、其最も重要なる任務を盡さんが爲めに靈に照らされ、且大なる使命を受けたる教會なるを知らば斯る結果は毫も驚くに足らざるなり。是を以て吾人は宗教の復興より生ずる所の多の大にして且喜ぶべき結果ある事を怪まざ



るなり。罪に依つて破壊せられたる品性は新にせられ、改められ、荒れ果てたる家庭は變じて祈禱と讚美の家となり、社會の生命を蝕ふ所の怨恨醫され、誘惑と犯罪の機關滅せられ、生活と其目的の道德的狀態變じ、社會組織の多の要素、終極の善を來たらせん爲めに一層密なる統一を來し、教會は其目的の一層高くして廣き見解に達し、其生命は深くせられ、其同情は廣くせられ、其信仰は教會の首なる基督の敵に勝つを見て一層強めらる。

此活動に依つて善良なる道より迷へる幾百萬人は、絶大なる力に依つて神の國に掃き入れらる。而して彼等の多數は其信仰熱心にして、其或者は偉大なる者となり、皆基督教的家庭を造くる事に依つて、聖なる種子を増す事に多大の貢獻をなすなり。

教會の最大リバイバルは過去にあらすして未來に存する事は疑ふべからざらん。而してそれは教會の會員重に幼時より主の教養に依つて養成せられたるものより成る時に來るべし。此時聖靈の利器たる神の語は、信者の生命に同化せらるゝに依つてのみ存する不可思議なる深き方法にて理解せられ、信者各自の心情に存し、教會は道理上抵抗すべからざる證明の力を有すべし。斯くて教會は聖靈が救はれざるもの、

心中に達する廣くして且生ける機關たらん。電雷は壯大にして且活力を與ふる價あるに拘らず、生活機關に於て至る所に要せらるゝ電氣の源とならず。且人が「神秘なる流」を工業に應用するに當つて、之に依頼する能はざるが如く、リバイバルの力は神の王國の繁殖の爲め、又靈的生命の範圍に於て神の定めたる生長を得る重なる手段として之に依頼すべからず。

是に於てか知る、基督教は丈夫的性格の品性あり且強健なる要素の不斷の生長に依つて、之と競争せる他のものに勝り、基督教信仰より必然來る所の克己、節制、勤勉、儉約、卓越せる智識的創開、殊に遂に完全に達すべき人間の正當なる尊重(是れ皆基督教的信仰より必然生じ來たるべきものなり)は拔群なる生長増殖の力とな



り、時至りて其全き勝利を得べきは數理的確實なるを。而して教會以外の機關に依つて宣傳せらるゝ家庭及び社會の純潔、矯風、平和と神と人との愛の教義の側系的、即ち間接の基督教の發達、及び其傳道的運動リバイバル的勢力に依つて其根幹の内部の生長を強め又其種子を下すべき他の土地を準備し、遂に其神聖の現實と其果實を以て全世界を充たすに至らん。

#### 第四章 兒童と王國に關する基督の教

「王國の概観」を論じたる章に於て余が主張したる所は神の王國の普遍的なる事なりき。詳言すれば其社會全般に貫通透徹し、遂に其支配の内に全人類を包擁すべき事なりき。此結果の生長發展の道に依つて來り、神の眞理の種子を播きて遂に神的文章に達する基督者の品性の收穫せらるゝ事なりき。而して是れ皆人の内に、又人を通して活動する所の神的勢力に依つて來る。吾人は耶穌が其王國を來らす歷程を常に生長の譬喩に依つて示せるを見る時、此歷程が何時個人の生命に始まるべきか、又如何にして最も善く導き得らるべきかを尋ねざらんとするも能はず。

此問題に關し世上唯二の概論あり。即ち予が前に説きし如く、一は激變、革命、移植説と稱すべきものにして、一は教養、進化、又種子よりの生長説と名くべきもの



なり。前者は王國の市民を造くる第一の手段として成人傳道を取る所の説にして、後者は神の智識と正しき生活の習慣の中に兒童を訓練教育すべしとするものなり。此問題を決するに當り唯一の最後の權威あり。それは言ふまでもなく神の思想なり。而して神の思想は人性の組織と耶蘇の言葉に現はる。人性の組織に關する問題は暫く之を後章に譲り、今は其王國の臣民と之に入るの道に關する耶蘇の教訓を簡單に講究し以て充分に論明する所あらんとす。

予は此研究に入るに當つて先づ耶蘇彼自身は普通の意義に於ける傳道者ならざりし事を一言せざるべからず。其傳道の僅なる歲月は専ら其王國の教義を教ふる事と、將來長く其教義と共に存すべき組織團體の鞏固なる基礎たるべき恩寵の聖業を成すに用ゐられたりき。而して彼は屢成人に關する尺度を示せり。吾人は是に依つて彼が靈的王國の材料として如何に成人を見たるかを知る事を得。其簡單なる研究は兒童に關する基督の教訓と對照して一層充分に之を理解するの便たるべし。

播種者の譬喩は疑もなく成人に關する譬喩なり。此譬喩は唯些細なる不同を以て共觀福音書(馬太馬可路加の三)記者の共に傳ふる所にして、耶蘇は之に依つて世間的非靈性的生命に屬する思想と行爲の習慣に固定せる民を遇する事の、如何に困難なるかを示せり。耶蘇は其弟子の求に應じて之を説明したれば其適用に疑を挿むの餘地なし。此譬喩に依れば彼の教を聽ける衆に四の階級あり。

第一の階級は聽けども之を了解せざる路傍の其れ等なり。耶蘇曰く惡しき者來りて心情に蒔かれたる種子を取り去ると。斯は惡魔の常に神の眞理を妨げ易き事、殊に之を愛せざるもの、心情に蒔かる、時の然る事に吾人の注意を喚起せるなり。而して天下至る所に斯る階級に屬するもの、多きは嘆すべし。

第二の階級は磽地に其種子を受けたるものなり。彼等は神の言葉を聽き直ちに喜んで之を納る。されど彼等に根無ければ試鍊來る時忽ちに仆る。世に一時の感情の刺激に依つて眞理を取り、或は有力なる説教を聞て智識的興味を動かさるゝも神の眞



理の世人に好まれざるか、又は之が爲めに何物かを犠牲とせざるべからざる社會若しくは境遇に入るや、忽ちにして之を棄て去るもの、如何に多きや。

第三の階級は荆棘ある土地に依りて代表せられしものなり。彼等は教を聞ども此世の心勞と、貨財の惑、及び其他の貪慾神の言葉を蔽りて實らざらしむ。吾人は此諭警を思ふ時、生活の心勞に壓倒せられてよしや彼等の或ものは正しく貴むべき憂なりとも人を救ふ眞理に正しき考慮を興ふるに不適當なるものとならずんば、之に對して全く其心の傾向なきものとなれる幾百萬生長せる民吾人の眼前に映し來る。彼等に次で吾人の眼に映するものは營々として富の影を追ひ、靈的生命の爲には時をも趣味をも有たざる他の幾百萬の民なり。而して最後に世間的肉体的欲望の下にあり、神の王國に入らん爲めに之を制する事を欲せざる多數と、肉感の快樂に醉へる無數の大衆あり。

第四の階級は善き地に依つて代表せられたるものなり。彼等は神の言葉を聞き、之

を善良にして正直なる心情に受く。而して三十倍六十倍百倍の實を結ぶ。此階級と雖ども尙三種に類別せられたるは吾人の頗る注意すべき所なり。如何なれば一様に凡て百倍ならざるか。予は此譬喩の適用を強ひんと欲するものにあざされども農家に生長せる予は、最良の地質も多少の磽确を雜へ、又はよし密生せずとも幾分か荆棘あり、若くは其耕耘の足らざりし爲め土薄き等、種々の事情相混じて甚しく土地の生産に影響する事を思はざらんとするも能はざるなり。

予は茲に記されたる四の階級の三が神の言葉をして實らずして死せしめたる故を以て、教を聞く成人の四分の三は眞理を受け容れずと言はんとするものにあらず。而も此譬喩を以て何れの時代を問はず、無宗教なる成人の多數能く福音の力に依つて救はるべしとの據り所とする人々の、如何に大膽なる解釋者なるかを思はずんばあらざるなり。耶蘇はユダヤ人の中にて最も宗教的なる階級に屬する學者とパリサイの人を偽善者と呼べり。而して彼は其意義の廣く且簡潔にして力あること比ふべ



きものなき「白く塗りたる墓」てふ比喩を以て其彈劾の言を結べり。彼等は實に之より前數月洗禮者ヨハナが蟻の裔と呼びたる者にして、耶蘇も屢此語を襲用せり。耶蘇十人の癩病を潔め、其中の唯一人救はれたるを感謝せん爲めに歸り來りしや彼は彼等の忘恩を嘆じて曰く潔められしものは十人にあらずや其九人は何處に在るか、この異邦人(サマリヤ人)の外に神に榮を歸せんとして返り來りたるものあらざるかと(路加一七〇)耶蘇をして孺子教ふべしとの想を懐かしめたる富める若き幸は、耶蘇の嚴格なる要求を聞くや、忽ち身を轉じ、哀み愛へて去れり。(馬可一〇一)予が此等の例を引用するは固より多數の例證を以て予が論據を強くせんとするにあらず。唯彼等は同じ事情の下なる何れの時代の人にも普通なる心情を代表する者なればなり。

ガリラヤ湖畔に於て耶蘇は彼に従へる最も多數にして且望多き群衆に向つて、汝等の吾を尋ぬるは休徴を見し故にあらず、唯パンと魚を食して飽きたるが故なりと言

へり。彼は其民の靈的事物に對する盲目を悲しみ、噫エルサレムよエルサレムよ、預言者を殺し、汝に遣はさるる者を石にて打つものよ、母鶏の雛を集むる如く我汝の赤子を集めんとせしこと幾度ぞや、されど汝等は好まざりきとて、エルサレムの爲めに泣けり。(馬太二三)事の斯る有様は多の苦痛を彼に與へしと雖も、而も彼は預斯せる收穫を得る能はざる失望なかりき。彼は初めより一種の思想と行爲の習慣に固定せる時代が、高慢にして自から足れりとせる者に對する彼の福音の嚴格なる言葉を容るゝ能はざるべきを知りたればなり。

世上或はペンテコステの來ると共に異りたる時代始まれりと言ふものあらん。吾人亦聖靈の賜の大に悔改者の數を増加せし事を否まず。而も吾人は其聖なる集會と其驚嘆すべき結果を思ふと共に、尙吾人は上來説き來れる眞理を主張せざるべからざるを見るなり。乞ふ吾人をして其處に集まれる人々の、必ずや全世界の中に見出さるべき最も宗教的なる數千の人なりし事と、此時人類の歴史に於て最も驚くべき多



くの出来事の其団体の中に取りし事を記憶せしめよ。況んや之を思ふて其神聖の確信を得ざらんと欲するも能はざる出来事のありしより幾何の時をも經ず、且焔あり響あり、神の神秘にして威嚴ある現在の感覺を以て人を震撼すべきもの之に伴へるをや。此異常の出来事は以て一般の例となす可らざるなり。且其異常なる日の最も著しき結果は三千人の悔改にてありき。假りに其日より今日に至るまで同じ結果を有せるペンテコステ繼續せりとせよ。日々三千人の悔改者にては現在地上に生息せる人類を悔改せしめん爲に一千三百七十年を要すべし。一時代の民を悔改せしめん爲めには四十の斯るリバイバルの中心あり、何處にても一日に三千人を悔改めしむるとして三十三年の久しきに渉るべし。而して其時の終りには運動の始に於てありしよりは一層多數の民其順番を待ちつゝあらん。固より激變的救拯説も其適當なる位地に於ては神聖の權威を有すること否むべからず。且一層善良なる境遇を得ざりし多くの人々の爲めに希望の基礎を興ふるものなれども之を以て救の重なる方法

なりとする人々の、基督教の一般の結果に失望し、大膽にして而も敬虔なる厭世主義に沈み、神の力の洪水の汎濫するが如く一時に現はれ來りて斯かる有様の終結を告げん事を望むに至るは深く怪しむに足らずと謂ふべし。此時耶穌は之を以て其王國の鞏固なる基礎の上に建設せらるべき歷程を例示せんとせる一の事業に身心を委ねられたり。そは訓練—即ち十二使徒の訓練是なり。福音書の聰明なる讀者は何人も耶穌が其傳道の間絶えず其王國の要素に於て十二使徒の教訓に餘力を剩さざりしを看取するに難からざるべし。此教訓は公の説教に依り、群集より離れし時の日々の會話に依り、奇跡に依り、偉大なる性格の斷へざる顯章に依り、義務に身心を献する間斷なき實例に依りて成されたりき。人類の歴史に斯る訓練を受けし他の十二人斷じて之れ無し。耶穌が十二人を選ぶに當つて其境遇、位置の供給せし最良の材料を選びたる事疑ふべくもあらず。而も其心の頑硬にして其有てるものを棄て、耶穌の興ふるものを受くる心の遲鈍なるや、其師の生涯



の終に於てすら其無限の忍耐も殆んど堪へじと見ゆる程なりき。三年の間神的指導を受け特別に訓練せられたりし十二人の弟子の中にも、二人の耶蘇の生涯の終に於て容易ならざる背反をなせるあり、其一人は遂に其師を敵に賣れり。

耶蘇と其直弟子の公の傳道に依つて天上の王國に如何なる結果を生ぜしかは吾人の知り得る所にあらざれども、地上の王國か全く耶蘇の十二人を訓練せし無限の忍耐と熟練とに負へる事は容易に看取し得べし。聖書の記事に其教訓の跡を追ふ所の人、殊に「十二使徒の訓練」と題する教授ブルースの大著によりて光明を得たるものは、耶蘇の遭遇せる重なる困難は彼の教育せる弟子の容易く其觸るゝ所の勢力に順應し、其生命一變して其心全く整ひ其力衰へざる屈折自在なる植物にあらずして、節多き樅若くは香柏なりし事にありしを知らん。

小兒に關する耶蘇の教訓と實例

耶蘇は最高の意義に於て兒童の爲めに戦ひし勇士にてありき。此點に於て彼は全く

他の偉大なる人類の教師と異り。彼等は人間の兒子の長く頼無きことに存せる神の目的を、よし全く知らざりしに非ずとするも、知ること甚だ少なかりき。されど耶蘇は其の中に靈的王国の重なる機會を見たりき。而して此問題に關する彼の言葉は多からずと雖も其教ふる所眞に革命的にして、基督教の時代は之を小兒の時代と稱するの可なるを見る。

耶蘇は小兒の如くなるべき事につき。又小兒と彼及び其王國との關係につき、僅に九度短かき言葉をなせるに過ぎず。然れども精密に之を研究すれば其包括する所廣くして、全体に涉り疑義と迷謬の一の餘地を残さざる神の意思の充分なる啓示を見る事を得べし。

一、改まりて嬰兒の如くならずば天國に入る事を得じ。吾人の考ふべき耶蘇の言葉の第一は神の王國に入るの許容に關するものにして、實に其民たる事一切の問題を包含せり。彼は其齡既に長じ、少なくとも神の王國の眞理に付て一部の教訓を受



けたる其弟子に向つて、汝改まりて嬰兒の如くならざれば神の國に入る能はずと言へり。(馬太一八〇三、可十)而して此語は弟子の中に誰か神の國に於て首たるべきかてふ争ありたるが爲めに語られたり。彼等は此時幼時より人生の靈的方面の知覺に訓練せられざる成人に有勝なる不徳を曝露せるなり。彼等は思想の固定せる習慣と、自我心の奴隸となれるなり。此等先入の習慣耶蘇の眞實なる弟子となる第一要件たる無我の精神を理解する能はざらしめたるなり。是を以て彼は教へて曰く誰にても我に従はんとするものは自から己を棄てよと。信仰の路程は一度空虚となり、斯くて再び充實するにあり。

小兒の如くなれてふ言葉によりて耶蘇は眞理の王國に入る大法則を教へられたり。是れ獨り靈界の大法則たるのみならず、實に其以下の一切の境涯を包括せるものなり。其研究の領域に於て一世の認めて權威とせるハックスレー氏の、科學は神の意思に對する至き服従てふ基督教思想に體現せられたる大眞理を、最高最強の方法を

以て予に教ふ。凡ての先入の見を棄て、小兒の如く事實の前に坐し、謙りて何處にも、如何なる深淵にも自然の導くまゝに従ひ行け。然らざれば汝は何物をも知らずして已まん。予は如何なる危険をも恐れずして然かなさんと決心せし以來、初めて心の満足と平和を知るを得たりと言へるは怪むに足らず。

ハックスレー氏の言果して眞ならば、彼が之に依らんと決心せし道こそ、眞理の探究者の願慮せる凡ての危険を逃るべき唯一の道なれ。吾人は此道を追ふ事に一の危険あるを見ざるなり。

予が茲にハックスレー氏の證言を取つて予の所論に用ゐんとする點は極めて單純なり。されど甚だ重要なり。若し小兒の如き態度事實界の眞理の發見の爲めに必要ならんには、其研究の基礎となる材料遙かに隱微にして、利害の及ぶ所甚だ廣濶なる靈界の眞理に於ては一層然らざらんや。ハックスレー氏の名言は最も適切なる語を以て、世人の齊しく認めて人をして眞理の王國に入らしむるものとせる小兒の如き



性質に關し二の要件を言明せり。一は凡ての先入の見を棄つる事にして、一は謙りて自然の導くまゝ、即ち眞理の導くまゝに従ふの精神なり。此等は正に神の國に入らんとするものは小兒の如くなれてふ要求の指示せる缺點なり。蓋し成人の困難は其先入の見にあり。偏執にあり。謙遜と喜んで導かるゝ心の欠けたるにあり。ハツクスレー氏の言へる如く科學界に於て大にして且信憑すべき智識に達するものゝ世に甚だ僅少なるは、成人が小兒の如くなる事の困難なるが爲なり。而して幼き時神の王國に入らざる多數の遂に之に入る事能はざるは（少なくとも神の王國と目に見ゆる教會の同一なる場合に於て）同じ理由に基くなり。

されど宗教の教師は此點に於て基督の言葉の眞髓を没却せる大なる誤謬に陥り、教會の多數は今尙此誤謬を固執して移らず、此誤謬の依りて來れる所以は、耶蘇降誕の時は、成人の時代にして、兒童（特にユダヤ國以外の兒童）は成人たるに先だつ所の已むを得ざる害惡と認められ幼年は眞實の存在者たる位置に達せん爲めに是非

とも忍んで通過せざるべからざる路程なりとせられたりき。使徒等は傳道に従事するに當り先づ成人を悔改めしむる事を以て目的とせり。基督信徒たる小兒ある前に先づ基督信徒たる父あらざるべからず。是れ已むを得ざる順序なり。されど彼等は之を爲すに當り初めより多の障害に遭遇せり。先入、偏見、習慣の固結せるを見たり。彼等が此困難に際會して神の國に入らんとするものは嬰兒の如くならざるべからず。耶蘇の言葉を取つて其教訓の利器となせしは當然なりと謂ふべく、斯くて幼年は單に教訓の譬喩類例なりとせられ、兒童自身新王國の實際の會員たる事忘れらるゝに至り、教會をして今日に至るまで兒童は如何にせば善良なる成人たるべきかを教ふるよりも、成人に如何にせば善良なる小兒となるべきかを教ふる事に多の精力を費さしむるの勢を馴致せり。彼此共に必要なれども後者の爲めに前者を忘れ、従つて之を閉却するに至れるは大なる禍害なりと謂ふべし。

耶蘇が嬰兒の如くならざるべからずと其弟子に語り、弟子に依つて後の神の國に入



らんとする凡での成人に語れるは、暗に小兒たる間に小兒の事をなすと、既に長じて人となり其思想習慣固定せる後改めて再び小兒となると何れか易きとの問題を提起せるにあらざらんや。よし數歩を譲るとも耶蘇の此言葉より生じ來るべき結論は、小兒らしき事神の王國に入るに必要欠くべからざる要件なるが故に、幼時は之に入る最も確かにして又最も善き時なりてふ事にあり。

二、神の國にて大ならんとするものは、何時までも小兒の如くならざるべからず。予が既に前に説きし如く弟子等は互に誰れか神の王國に於て大なるべきかと争へり神の王國に關する彼等の見解よりすれば其争の起るは當然なりき。されど耶蘇の見解に依れば決して然らざりき。是の故に彼は弟子等に告げて曰く、されば凡そ此嬰子の如く自から謙るものは天國に於て最も大なるものなれと(馬太一)

神の王國に入る事も其中に生長する事も、共に同一の法則に支配せらる。小兒をして神の王國を受くるに適せしむる性質は、又人をして發達進歩せしむる法則なりて

此法則を無視するものは唯り生長せざるのみならず、既に得たるものをも失ふの大危険あり。

使徒パウロが童兒の時童兒の如く語り、悟り、且論じたれども、人となりて童兒の事を棄てたりと云へるは、神の王國に入るに必要な性質を棄てたりとの意にあらず。謙遜、尊敬、順良、淡泊、信任、人を疑はず且之を赦す氣風は小兒らしき性質なり。而して是れ實に最も偉大なる人物の性質なり。パウロ哥林多人に書き贈りて曰く、兄弟よ智慧に於ては嬰兒となる勿れ、惡に於ては嬰兒となれ、智慧に於ては大人となるべしと。ペテロも亦曰く汝等すべての怨恨、すべての詭譎、また偽善、媚嫉、及びすべての謗言を棄て、今生れし嬰兒の乳を慕ふ如く、心を養ふ眞乳を慕ふべし、さらば汝等長たんと。

三、小兒を受くるは基督を受くるなり。

耶蘇天國に於ける偉大は小兒の如き謙遜に依つて得らるべきを説ける後、進んで小



兒自身の事に説き及ぼして曰く、又わが名の爲めに此の如き嬰兒の一人を受くるは我を受くるなりと(太一八〇五。路九〇)世に之より一層強く個人的にして一層美しく戯曲的なるはなし。一切の主義も権利も人格の中に没し去る。誰にても之を受くるは我を受くるなり、誰にても之を害ふは我を害ふなりと。げに嬰兒は宛かも王の王なる基督の使者の如しとや言はん。假令ひ此語のみに就て言ふとも、地上に於て最も微賤にして人に棄てられたる兒童を收養するために、人をして苦心經營せしむるに足りなん。

四、小さき者を侮るべからず。

耶蘇は此階級の人を遇することに關し其弟子に一不注意を容るさうりき。彼曰く汝等此小子の一人をも慎みて輕する勿れと。輕侮てふ語の最も溫和なる意義は價を見下ぐる事なり。而して其最も深刻なる意義は侮蔑を注ぐ事なり。小兒と小兒らしき事を見下げし弟子等の過失は今尙教會の過失なり。誤れる評價は凡ての過失の基礎

なり。卑き評價は罪の種子にして忽略、輕侮、凌辱は之より來る罪の結果なり。兒童と其發達の注意の爲めにせる家庭と教會の設備は、正に二者が如何に兒童を評價せるかを現はすなり。

五、されど我を信ずる此小子の一人を礙かすものは磨石をその頸に懸けられて海の深みに沈められん方なほ益あるべし。

礙かすとは單に其感情を傷くるの意にあらず。之を顛躓せしめ、之を邪徑に導き、容易ならざる關係、殊に基督を信ずる者としての關係に於て之を害ふ事なり。是れ凡べての基督信者の深く注意すべき事なり。

耶蘇の小兒を礙かすもの、刑罰を説くや頗る深刻にして特に人の注意を捉へんとするの状あり。茲に記されたる磨石は人の手に依つて廻はさるゝものよりは寧ろ驢馬に依つて廻はさるゝ大なる者なりき。此大なる磨石を頸に懸けて水に沈むる死刑の方法は全くユダヤ的にあらずして希臘的なり。葬儀又は泣婦に依つて覺束なき慰を



得るの道もなく、急速にして恐怖すべく、且造作なく、刑罰の最も輕侮的なるものなり。重き石は瞬く暇なく罪人を海の深みに引き入る。ザンブと音して一しぶ水沫するかと思へば早や其跡方も残さず。げに棄てられたる小兒は近世社會の頸に懸けられたる磨石なり。

世には之に先んずる語(わが名の爲めに此の如き一人の嬰兒を受くるは我を受くるなり)を、文字通りの小兒を意味せりとするにも拘はらず、此一節の小兒なる語を文字通の小兒に非ずとし、之を弱く賤しき信者を指せりと解する人少からず。而して其重なる理由は『小子』なる文字「我を信する」てふ個人的活動を表はせる文字と相結べるがためなるが如し。

予の見る所を以てすれば斯る見解は其前後の關係を適當に認めざるより來る者なり。先づ第一に此小兒は恐らくは自から歩み得る者なりしならん。耶蘇は之を己が許に呼べり。初代教會の傳説に依れば此兒はイグナシヤスにて後聖徒となり殉教者とな

れりと云ふ。よしや此傳説は信するに足らずとするも、此兒は信仰の能力あり、全く小兒らしき意味にて信者なりし事は疑を容れず。而してよし此物語に於て實物的教訓たりし此兒、其母に依て携へられ、耶蘇が神の國に居るものは此の如きものなりと云ひし幼兒の如く、信者たらんには餘りに年少かりしとするも、「我を信する」てふ句に關する吾人の主張は之が爲めに毫も力を失はず。何んとなばれ幼時は小兒の爲めに基督に獻ぐべき最も安全なる時なればなり。人は此時期に於ては人の爲めに誤らるゝ事なく又礙かざるゝ事なし。されど彼等が稍生長して自から信不信を定むる時に至れば、彼等は危険なる時期に達せるなり。神に於ける自然にして容易なる信仰の道より離れ、最も甚しく心靈の破壊せらるゝ時期にして、何よりも正しき導を要する時なり。予は堅く信す。耶蘇が此驚くべき刑罰を以て之を警戒せるは、然かく神聖にして然かく受感的なる、又然かく有望にして然かく危険なる小兒の時期と其信仰なるを。註解者は何の變化なきが如き幼少の時期に餘りに眼を注ぐに過ぎた



るが如し。されど幼兒と其生長に一度心を用ゆれば、獨り我を信ずる小子を礙かすてふ耶蘇の語の解し得べきのみならず、此場合に此言無かるべからざるを知らん。蓋し嬰兒を受け入る、事と、其生長するに従ふて其信仰を保護することは鳥の兩翼の如く二者相離るべからざるは、小兒の宗教的教育に經驗あるもの、容易に知り得る所にして、後者無くんば寧ろ前者無きに若かざればなり。

此聖書の本文の小兒自身に適用すべき事と、其深遠なる意義は一度思を現時の教會が、其會員の教育と外部傳道の爲に費す其精力の多分は、耶蘇の語れる幼時の信仰の時期に於て正しく導かざりし爲なるに致さば、蓋し思半ばに過ぐる者あらん。小子を礙かす事に關する一節の記事は馬太、馬可、路加共に殆んど同一の語を以てせり。馬太にては小兒に關する引續ける談話の終の語となれり。馬可にては其談話中に起れる出來事と之に關する耶蘇の言葉其間に挿まれり。馬太、馬可兩者共に小兒を弟子等の中に立たせられたりとし、馬可には馬太の傳ふる所と同じ筋道を追へ

る耶蘇の教あり。而して、「凡そ我名の爲に斯の如き小兒の一人を受くるは即ち我を受くるなり又我を受くる者は即ち我を受くるにあらず、我を遣はし、者を受くるなり」と云ふに至り、ヨハ子突然語を挿みて基督の名に依つて惡鬼を追ひながら彼等と同しく耶蘇に従はざる人の事を述べしかば、耶蘇はヨハ子の言に適當なる注意を與へ、且其教を進めて「小子」のみならず、彼の弟子の如き成人に對しても尙彼の名の爲めにせる小さき恩惠も其報を失はざるべきを説き、扱再び前言の緒を續げりとし、馬太には之を引續ける言葉とせり。

路加には富める人とラザロの譬喩に續き、人を礙かす事に就ての教に直ちに接すれば、之を小兒に關することとするは前後の關係より離れて獨立の位置を有せしむるが如し。是れ小兒と、弱きもの即ち小兒の如きものとの兩様の意義に解すべしとの意見の起る所以なり。されど其史料を或人の思ふ如く馬太の語集より出たりとするも、又他の人の思ふ如く馬可の記録より出たりとするも、「小子を」礙かす事の教が



最初直接に小兒の爲めに語られたる事、徴證歴々として斷じて疑ふべからず。是に於てか知る、茲に教へられし單純なる教は是なり。即ち耶蘇神の王國の民たるもの、摸型として小兒を取り、悔改めて小兒の如くなれるものをも其中に包含せしめ、斯くて幼時の單純なる信仰を保護せんが爲に戒を磨石の刑罰に借り、尙進んで軟弱且謙遜にして小兒の如き成人の信者にまで其保護を及ぼし、強きものをして其弱さに乗じ之を壓し、之を害し、信仰より離るゝに至らざらしめんとせるを。予は將に此研究を結ばんとするに當り予をして耶蘇が神の王國に入ることにつても、又其中に育つことに付ても、神の王國の民たる要件を示し、弱きものに對する保護の必要を説くに當り、馬太にも馬可にも小兒を其中に立たしめ實物教訓の實例となせしと雖ども、軟弱卑賤なる成人は未だ嘗て談話の主題とせられたる事なく、馬太十八章十四節と路加十七章十二節の「小子」なる語も、文字通りに小兒より借り來れる事疑ふべからざることを擧げしめよ。

人或は言はん、予が此等の章の解釋を定むる爲めに斯くも勞を厭はざるは何の爲めぞと。是れ其研究は最も重要な論點にして兒童の價值に關し隨つて小兒に關する教會の教訓と政策に影響するものなればなり。若し基督の小兒を用ゐたるは單に修辭上の事にして、彼が弟子の中に之を立たしめしは小兒の有せりと思はるゝ或抽象的性質、即ち神の王國に入らんために人の須らく保有し若しくは恢復せざるべからざる或抽象的性質に注意を喚起せんが爲ならんには、「神の國に居るものは斯の如きものなり」「小子の一人をも侮る勿れ」「誰にても礙かす者は」等の語、單に小兒の性質を言へるに過ぎず。軟弱にして卑しき成人を保護する事を主とせるものにして、耶蘇は小兒と彼及び其王國との實際の關係に就ては何の教ふる所なく、教會の取るべき政策は全く成人傳道にありとの結論に達せざるを得ず。然れども若し此等の言は先づ小兒の爲に語られ、而して彼等の如きものに説き及ば



され、若しくは同じ語を以て別に教へられたるものとせば、吾人は耶蘇の教訓に於て小兒の天國に對する一般的關係の明白なる教と、其箇中に於ける彼等の保護維持と、無宗教なる成人の中に普く存する惡習に傷けられ弱めらるる事なくして其生長を確實ならしむべき彼等の待遇に關する一般的方針を有するなり。

吾人は舊約時代に於て小兒に關する神の制度あり、八歳にしてアブラハムが年長じて成せる如く割禮を受けて教會に入れられ、絶へず家庭に於て律法の教育を受け、十四歳にして教會との關係公式的に全ふせらるるを思ふ時、耶蘇が新時代を開拓建設するに當り兒童と彼の王國との關係、及び其適當なる待遇に就て一言も之に言及ぼす所なかりしとは思ひ能はざるなり。されど若し小子に關する耶蘇の言單に修辭的なりとし、若しくは小兒ならざる成人と神の王國との關係を教ふるものなりとの註解者の説正しからんには、其利害の關係最も重大にして且普遍的なる此の問題に關して耶蘇は不思議なる沈黙を守れりとせざるべからず。

六、嬰子を來らしめよ。

弟子等は己が盲目によつて耶蘇の意に反せり。母は其子に祝福を求めて耶蘇の教を爲せる所に其子を携へ來り、弟子等叱して之を拒みしかども、耶蘇は嬰兒を容して我に來らしめよとて、彼等の爲めに其道を開けり。彼等が耶蘇の許に小兒を携へ來つて祝福を求めしは、其宗教的なる親心より來れるものにして耶蘇は此の心の發露の妨げられざらん事を欲せり。

之と相對照する所の眞理は、耶蘇の生涯に存せる凡ての要素の、主として小兒らしき心情に訴ふる事なり。彼の親切、彼の溫和、彼の公正、彼の單純なる壯大、彼の深長なる同情、彼の己を棄つる所の愛、彼の苦痛の運命、悲劇的死、彼の復活、是等は皆小兒らしき心情の愛を呼び起し、之を己れに引き付けるものなり。されば小兒の最も要するものは指導の責任あり權威ある人々の生活と教訓を通じて來る基督の啓示なり。



七、而して彼等を禁する勿れ。

此命令は兩親、教師、牧師の如き小兒の上に權威を持つものに關す。而して嚴密に此語の依つて起りたる事情に照して之を解せば、此語は先づ教職にある教師と教會に下れるなり。母と其子の來れるとき、彼等を禁めて耶蘇に叱責せられしは弟子等にてありき。是を以て此語は教職的勢力と臭味を存するものに對せる語にして第一に教會への命令として認めらるべきなり。

現時の教會が概して甚しく此命令を破り、自から其災を蒙れるは復讐々を要せず。戰栗すべき怠慢の政策より、殆んど成人の悔改と教養とに其精力を傾け盡せる事により、其禮拜堂の建築と説教に絶へて小兒を念頭に置かざるにより、近年に至るまで兒童教育の適當なる組織を設けず、今も尙之を設くるもの僅かに一部分なるに過ぎざるにより。殊に神意に従ひて家庭を小兒の靈的生命の教養訓練の爲めに用ひざるにより、教會は古の弟子等の如く小兒の耶蘇に來るを禁めつゝあり。而して今

日の基督は當時の耶蘇の如く其怠慢にして短見なる弟子等を叱責しつゝあるなり。

八、神の國に居るものは斯の如きものなればなり。此語の主眼とせる意義に關しても學者の意見區々にして定まらず。ペンゲル。ポウ

ラス、ド、ウエツト、アーノルチ、カイク、ヒルゲンフェルト、マツシエー、ヘンリー及び其他の學者は「斯の如き」とは文字通りの小兒なりとの説を主張すれども、他の學深く識高き多の學者にして斯は文字通りの小兒を指せるにあらず。神の王國に入らん爲めに何人も有せざるべからざる若干の性質を言へるなりとの説を取るものあり。されど余を以て見れば殆んど議論の餘地を存せざるが如し。神の國に居るものは斯の如きものなり」とは其祝福を受けんが爲めに神の國に入る事を許さるゝ理由即ち其適合の基礎を明にせるなり。されば此語の意義 神の國に居る者は小兒の如きものなり、されど小兒は其中にあらずと云ふべきか、將た然らざれば小兒と小兒の如きものなりと言はざるべからず。而して第一説の取るに足らざるは言を待



たす。

教會に依つて主の此言葉に與へられたる第一の解説は信仰、愛、服従など、小兒の如き性質は救の爲めに必要なりと言ふにありき。此主張は眞理なり。されど此説の最も大なる主眼を閉却せるは既に言へるが如し。第二の解説は或事情の下にある小兒は目に見ゆる教會の會員たる事を得べしと言ふにありき。是れ眞實にして且尊重すべき進歩なり。されど決して其意義を盡せるものにあらず。蓋し神の國の民たる最適者は兒童彼等自身なり。基督の理想の教會實現せられんには小兒の教會たるべし。即ち其會員は主として幼時の之に入るに自然にして且容易なる状態にあり、其心靈身体と智能の發達と伴ひて生長し、一切の生物界の生長の法則に従ふて人となるものより成ることは是なり。此解説は一方に於て或は世に棄てられて顧みられざりし爲め、或は自から好んで其幼時の途を誤りし所の成人の神の王國に入るを拒むものにあらず。又他方に於て遺傳的聖徳説即ち神の靈に依つて再び生るゝの必要を輕

んずる見解を藐視するものに非ず。

九、彼等の天使は天にありて天に在す我父の顔を常に觀ればなり。

是れ小兒の價値に關する天の評價を示すものなり。此光景は人をして見るべからざる永遠の世界より落來る光に依つて其兒孫を見せしめんが爲に地上に映せるものなり。此保護の職分は疑もなく特種ある意義に於て神の定に依り天の使に次で保護と指導の責にある兒童の母に存するものなり。

予は此研究を終らんとするに當り若し一度基督が最後に神殿に入りし時小兒の讚美を受けし事に説き及ばずんば、予の研究は全しと謂ふべからず。

路加傳に依れば讚美は耶蘇に従へる弟子の全群衆より來り、或パリサイの人耶蘇に向つて主よ汝の弟子を戒めよと言へるとき、耶蘇は吾汝に告げん、若し彼等黙せば石叫ばんと答へたりとあり。されど馬太に依れば小兒は此讚美をなせるもの、全體に非ずとも、主要なる部分にして、祭司と學者耶蘇を難じて汝此等が言ふことを聞



くやと言ふや、耶蘇は然り、汝は嬰兒乳哺者の口に讚美を備へたりと録されたるを未だ讀まざるかと答へたりとあり。

斯く神殿に於ける基督の事業は小兒の讚美の嘉納、祝福を以て結べり。小兒の讚美の彼が今や之に入れる受難週に大なる慰籍を與へしこと疑ふべからず。耶蘇は固より此讚美の人類の未來に關する意義を充分に知れるのみならず、彼自ら小兒に愛着したればなり。基督と小兒との關係を筆にするもの、多くは彼が小兒に對する様に強き個人的愛情の自から流露せる事を説けるは、頗る興味ある事實なり。博士ツアルトは其著「耶蘇の風情」に於て耶蘇は小兒を取り上げ、彼等を其腕に抱きて接吻せりと説けり。

### 第五章 宗教的教育の主體たる小兒

小兒及び小兒と神の王國との關係に就て上來予が叙述せる基督の教に依つて、彼の意思の在る所瞭然火を見るよりも明なり。而して若し小兒の性質に現はれたるもの彼の言に基ける予の論斷と一點相容れざるものあらば、彼の教訓に關して予が爲せる解説を全然否定するも亦可なり。然れども予の見解小兒の性質と一致し、且成人に重を置て其業擧らず、小兒と青年に力を用ゐて成功せる教會の經驗も亦此見解の後援たれば、吾人の達せる結論は眞に動かすべからずと謂ふべし。

人は他の部分に於て如何に發達するとも、其宗教性も亦教育せられずんば教育せられたる人にあらざること、今や最も卓越せる心理學者に依つて許さるゝに至れり。神の國に對する關係に於て宗教的能力の調和せる且充實せる發達無きは、恰かも思想界に於て充分なる知識的訓練と習得無きが如く到底完全にして男々しき人格たる



を得ず。

吾人先づ生理的能力を主とせる業務に就て之を考察せんに、吾人は其執る所の工藝の適當なる訓練無くば完全なる生産物を出す能はず、且工人をして能く訓練の功を積ましむる事能はざるを見る。而して是れ實に甚だ早き齡に於て初まる所の訓練と習慣に待たざるべからず。

吾人若し進んで一層高き美術界に就て考察せば其理益明なり。若年に於て準備的訓練無くして第一等の音楽家若しくは畫家たらん事は殆んど不可能に屬す。而して其妙境に達せんには其訓練に加ふるに遺傳の力即其傾向を有する血液の援を以てせざるべからず。現今學問技藝の如き最も複雑せる事業の爲めには、二十年より二十五年の歲月を其修業に費すを常とす。而して此長き歲月に於て最も重要なる部分は初の部分なり。幼時に於ける觀察、思想、趣向の悪しき習慣は、之を除かんとするも能はざればなり。

藝術界より一層高尚なる靈界に於ても同じ法則行はる。而して其理由に至つては遙かに高し。靈若しくは道德性は一切の能力の上に位し、随つて如何なる能力よりも一層複雑なる關係を有せり。其觸接する處明かに物心兩界に及べり。是れ實に人の一切の運命の決せらるべき境涯なり。且道德性は最も大なる人生の破壊の起りし所にして、最大なる弱點の存する所なり。此等の理由に依つて他の部面より一層精微透徹なる宗教的教育の要あり。

然るに宗教的教育の過去現在の制度の多くは單に模擬に過ぎざるは、最も熱心なる宗教家の告白せざるべからざる所なり。其所謂教育なるものは専ら若干の散漫なる知識より成り、智育を以て教育なりとするに至れるは殊に嘆すべし。是を以て斯くして與へられたる少許の智識は用をなす事少なし。知識を手段として之を用ひ、以て強健豊富にして且壞るべからざる品性を造くる所の知慧を欠けばなり。事實上一切の知識中に於て最も價値なき知識は、徳性を造らざる道德的知識なり。知識の唯



一の目的は品性なり。之を得ざれば空なり。而して知識が有せる人を魅する力も失せぬべし。大なる學問知識を有しながら世に何事をも成し能はざる生涯は失敗の生涯にして、靈的生命の教義と義務の知識に熟通しながら、之に應ずる道德的品性を有せざるものに至つては見るも腹立しきものなり。而して斯る結果は職として道德的生命の行爲と思想に於ける訓練を誤れるに由らずんばならず。是に於て吾人は知る、宗教々育の大部分は實に道德的習慣の建設にあるとを。即ち善の知識を變じて善の生命となすにあるとを。人若し吾父旨を成すを好まば其人吾教を知らんとの言は、意義の最も深く且遠き基督の言葉の一なり。如何なる宗教的教育の組織も、徒らに知識を得るを以て目的とするもの、又は恭敬と服従を以て至善を慕ふの習慣に依つてのみ來る天來の光明を以て其知識を照らすことを力めざるものは、甚しき過誤にして失望に終らざらんとするも能はず。世に唱へらるゝ人間墮落の教説は甚だ重要なる眞理を暗昧ならしめたり。小兒は天

性宗教的なりてふ眞理の如きも其一なり。神は人の心裡に、之を破壊し又傷害せんには容易ならざる惡教育と誤導を要する程深く宗教的本能を植へ付けた。此神の賜は家庭の神的制度と相結合して、兒童をして家庭を離るゝ前に宗教的生命の鞏固なる建設を成就せしむる堅固なる基礎たるものなり。個人的宗教の二大要素は信仰と服従なり。幼時は殊に信仰の時期なり。而して幼時の信仰は其小供らしき故を以て輕んずべきにあらず。幼時の信仰は人生の如何なる時期よりも最も純粹に、最も單純に、且最も有力なる者なり。且幼時は服従を學ぶに最も好き時期なり。小兒は弱く兩親は強く、小兒は無智にして兩親は智識あり。之に加ふるに小兒に存する自然の依頼の感覺を以てして、服従的習慣の建設を有らゆる親の務の中に於て最も容易なるものたらしむ。予が茲に言ふ服従の習慣とは單に命せられたる事を成し禁せられたる事を成さざる習慣のみを指せるにあらず。是れ固より良習慣たらざるにあらず。然れども予が言ふ所は兒童をして一切の事を殆



んご本能的に意を經ずして容易に、兩親の意思若くは自から其れなりと解する所に依つて之を處せしむる品性にあり。

小兒の宗教的本能若しくは才能と、兩親の與へられたる機會は、神意に依つて斯の如く相密接し、兩者の相應する事響の聲に應ずるが如く、自然の組織より言へば兩親の無宗教の外小兒の不信仰に陥るの理由なし。人生の他の時期に於ては兩親の全く支配し且抵抗し得ざる他の原因あらん。されど幼時に於ては決して然らず。之を養ひ之を教ふる事の兩親の神聖なる義務なるが如く、之を保護する事は又神聖なる義務なり。

然れども神が幼時を宗教的生活に適合せしめたる事に關して尙一層重要な真理あり。斯は全く近時の兒童研究に依つて發明せられたるものに非ずと雖も、科學的研究に依つて一層強く一層明になれり。

過去五十年は恐らく基督紀元以後兒童に關して最も眞實なる研究の成されたる時期

ならん。此研究より兒童の生理的知能的宗教的側面に關する各種の大著述は世に出でたり。スターバック博士の「宗教心理學」は其一なり。其所論の基礎は科學的方法に依つて集められ且分類せられたる學術的研究の基礎たる材料より成れり。彼は趣旨明白なる若干の疑問を宗教と教育を異にせる異なれる國民の異なれる階級の人に發せしが、多くの答は明らかに注意と正直を以て與へられたり。此研究法に依つて彼が達せし最も重要な結論の一は、若年の或時期に於て直ちに宗教的生活の要求を喚起する所の生理的事情の存する事にてありき。詳言すれば外部的原因絶へて無くして、全く内發的に生命と運命の一層眞面目なる側面を冥想し之に依つて自我、個性、責任の感覺を生ぜしむる一種の意識的危機の存する事にてありき。而して此經驗の平均年齢は十二歳より十四歳の間に在り。此年齢のユダヤの小兒が律法子として教會の個人的關係に入れられし齡と正に符合するは注意するに足る事實なりと謂ふべし。



同じ材料を取りたる博士コエは此問題に關し説いて曰く、若年時代の心的状態は殊に深き宗教的印象に適するものなり。是れ小兒が深き個人的生活を選ぶに足るものと成れる時なり。此撰擇は其前よりも其後よりも一層容易なり。斯れば賢明なる教會が、會員の其重なる收穫をなすべき時は實に此時にありと。彼又曰く基督教のみ獨り此齡を回轉機となせるのみならず、ダニエルスも亦青年より成人に進むと宗教的神秘の經驗に入るは全く同時にある事を示せる多の實例を列記せりと。而して彼はダニエルスに依つて與へられたる例に加ふるに、亞米利加土人の習慣より甚だ興味ある一の例を以てせり。

識者は常に幼時の宗教的生活を初むる最良の時にして、教會の今日の成功は此問題に關し一部分基督の教訓に従へるに因れるを知れり。されど科學的研究に依て人類創造の宗教的大目的に對する自然の傾向を明にするは、大に人の興味を刺激し、此時期の價值に關する人の知識を擴めざらんとするも能はず。此發見は兒童の心の狀

態を解釋し、其思想に明なる方針を與ふる爲に、父兄及教師に大なる益をなすや必せり。

宗教的刺激の齡に關するスターバック博士の結論と相關連して予が茲に一言せざるべからざるは其訓練合理的ならんには、即ち兒童の知力及其天性の單純なる要求と調和したらんには、全然幼時の宗教的教育の困難に苦めらるゝこと無き是なり。而して其齡に於ける經驗と正しく訓練せられたる少年の心的状態に關して特種なる研究を爲さざるべからず。随つて此時代に於ける特種なる感覺に適合せざるべからざるは言ふまでもなし。世に宗教性の科學的研究を以て、此問題を自然科學主義、若しくは唯物主義の位地に下すものなりとして反對するものあり。されど世に是より非理なるは無し。固より斯る立場より此問題を考ふるは宗教の要求を強むるものあらん。されど人は始めより、若しくは墮落に依つて宗教の本來の要求即ち内發的刺

激無きを論證するは、決して宗教の超自然的側面を高むる所以に非ず。基督教の供



給する外部的若しくは超自然的要素と人の天性の反應相照は、最も善く其神の起源を證する確證の一なり。是れ人の創造者は又人の宗教の作者たる事を最も強く證明するものなればなり。此内部的傾向と其發現期に關する無智は、斷じて宗教的問題に關して兒童の上に保護權を有するもの、資格を高めざるなり。然れども宗教的才能の存すること、之より生ずる宗教的生活の刺激を以て足れりとすべからず。吾人は根本的事實に依頼するに過ぎ、其才能を早くより斷へず調和的に發達せしめて充分なる性格に至らしむる事に餘りに注意する所少なかりき。知識的才能と其種々なる刺激は、大なる知識的性格を生ずる爲めに、夙くより最も注意深き且斷へざる訓練を爲す必要を取り去らざる如く、靈界に於ても宗教的才能の存在と、大なる宗教的刺激に於てそれが現在を示す所の表徴は、知識に於けると同様の訓練を宗教的才能に與ふべき事の主たる基礎なり。

### 第六章 認識せられたる教育の効用

教育に依らずして個人及び人類の完全なる救あるかは、現時の教會の注意に値する所の好題目なり。此問題を考ふるに當り真理の充分なる發見を妨ぐる所の二の偏見あり。一は「教育に依れる救」てふ語の意義の世俗的誤解に根ざせり。此語は屢知識的能力の充分なる且調和せる發達に依つて、人は能く真理を見且之を愛するに至り、之に依つて神の目的と一致し不道徳なる生活の過誤と罪惡より救はるべしとの意なりと解釋せらる。若し果して此解釋此語の意義ならば教會は全力を擧げて之に抵抗して可なり。何となれば單なる智識教育は如何に高く且廣くとも靈的意義に於て人を救ふに足らざるは既に世に明らかなればなり。されば是れ決して此語の意義にあらず。前世紀に於て人類の救に於ける教育的方法の力を最も有力に論證せしはホレス、ブシナルにして、今世紀に於て我國にては博士ホール、コエ、スタールバツ



ク、ハスレット、ヂュボイの諸氏を出せり。此等の諸子断じて一人たりとも單なる智識的教育は其智識如何に正確にして精緻なりとも罪より人の靈魂を救ひ得る事を主張せるものなし。

他の偏見(寧ろ偶像)は一層怖るべきものにして、獨り眞理らしく人に見ゆるのみならず傳説の之を助くるあり且教會の政略と文學に高位を占む。是れ予が前に既に論述せる激變的救拯説即ち成人悔改説なり。救はるゝ事なくして成人となれる人の爲めには之れ無かるべからざるは勿論にして、何人も之に反對すべき理由なし。然れども之を以て人類救済の經營に於ける教會の方針となすに至つては、吾人は大に之に反對せざるべからず。而して此點に付ては予の言はんと欲する所實に茲に盡すべからざるものあり。

コエ氏曰く人間と云ふ觀念を成人に依つて造り、従つて之より來る所の制限の下に救の事業を考ふるは教會の不幸にてありきと。而して吾人は斯る觀念の爲めに道理

らしく見ゆる強き基礎の存する事を知らざるべからず。即ち第一に成人は人なる事なり。(よしや成人は其當に有るべき有様と異なる事情の下に、有り得べき有様より甚だ異なるとも)次に基督と其直弟子の成人に教を説きしは教會歴史の明白なる事實なる事なり。使徒及び初代教會の教父は此例に従ひ同じ理由に依つて同じ事を成せり。而して問答教育は師父時代に於て起りたれども、其若年の人よりも寧ろ成人に適せるものなりし事疑ふべからず。是に於て二の恐るべき誤生せり。一は教會能く生長せる人に觸接し之を救ひ得べしとの觀念にして、一は成人の悔改を目的とせる教義の説述能く兒童訓練に效果あるべしとせる觀念なり。此等の誤は其起源教會歴史の源頭に密接せりてふ事實に依つて大にせられ、其長き且光榮ありとせられし歴史は其起源と共に不朽の色彩を以て之を彩るに至れり。

宗教々育を研究するもの、時に若し適當に之を認識せば其建設せんとする主張の爲めに有力なる議論の基礎たるべき事實を看過する事あり。即ち教會の殆んど凡ての



成功が教育に依つて成されたりし事はなり。ユダヤ教會に行はれたりし教育制度は適當なる改良を加へて基督教會の最初の運動に用ゐられたるは殆んど疑を容れず。吾人は路加の記録に於て從來世に存したりし習慣に照して之を考ふれば其意義明白なる二の暗示を有す。第一は路加傳一章四節の文字なり。路加は茲に此書を草する所以の理由をテヨピロに告げて曰く、汝が教へられし所の確實を曉らせんと欲せり。此一句の原文に於て用ゐられたる文字と其位置は二つながら此教とは規則立ちたる真理の教育にして、或は個人的に或は一の學級として基督に關する事物を教へられたるものなる事を示す。第二はアポロの主の道の教を受けたる人なりしとの使徒行傳十八章二十五節の一句なり。彼の深き靈的智識と基督教的洗禮に關する智識の闕如は、彼の教の多分は洗禮者ヨハ子の弟子に依つて耶蘇に關するヨハ子の教と、基督の生涯の歴史の側面に關する教を受けたるものなる事を示せり。而してアクラとプリスキラが彼を己が家に招き一層詳細に神の道を彼の爲めに説明せしとある

は、一時の説明にあらずして、寧ろ系統ある教育にて眞實なる靈的生命の經驗に彼を誘導するに足るものにてありき。エペソに於けるアポロとアカヤに於けるアポロの差異は其教育の如何なるものなりしかを示せり。アポロは特種なる意義に於て二の教育制度の連鎖に非ずや。此時代に於て教會はユダヤ人を閑却せざりしも、専ら異邦の幾百萬の未信者に教を爲せる事を注意せざる可からず。此等の幾百萬の人は最初殆んど皆成人にてありき。是れ時の場合己むを得ざるなり。斯くて教育の道も若年よりは成人に適せるは自然の勢なりき。教會は此時今尙脱し能はざる經濟的誤謬に陥れり。即ち羊の食物を以て羔を養ふの誤是なり。されど此誤に拘らず兎も角も直ちに使徒に續ぐ所の時代に、無教育なる成人と小兒を教ふる宗教々育制度世に出づるに到れり。而して基督教が第二世紀第三世紀に於て大に擴張し遂に其名を冒せる會員羅馬帝國の人口と殆んど相等しきに至れるは、他の方法に依れるよりは遙かに多く此教育制度に負へる所あるは疑ふべからず、博士シヤツフは其教會歴



史に於て之に關して使徒の日より中世の始まで一人の大傳道者の名傳へらるゝ事なく、且其時よりニケヤ時代に至れる後まで一の傳道會社あらざりし事實に注意を喚べり。

次の二事實は此時代に於ける教會の事業と、それより來れる結果に多の光を與ふる者なり。即ち一は説教者も教師も教會の首たる人物は重もに問答を以て青年を教ふる教育の事業を重大なる事業なりとし、最大なる人物と學者の之に當る事を避けざりし事にして、一は初代教會の最も著名にして且恐るべき敵は青年の教育を基督教擴張の最大勢力なりとし最も之に抵抗する事に力を盡せる事はなり。

基督教反對の第一の著述家たる第二世紀のセルサスは、何の許をも受けず又其權利なくして帝國內の兒童を教ふる事に付て教會を非難せり。而して基督教の背教者たるジュリアン帝が第四世紀に於て帝國內の學校を羅馬政府の支配の下に置きしは、之に依つて基督教者たる教師を學校より排斥し、斯くして其勢力を碎かんと欲した

るものなり。教育事業の如何なる結果を齎らせしかば、其最も聰明なる友と其最も有力なる敵が如何に之に重を置きたるかに依つて明なり。ジュリアンは一度教會の内にありて基督教的信仰を生活の建設に教育の如何にも有用にも効果あるかを自から経験したれば此大なる城壘を襲撃するに適したりき。

近世の教會の眞實の増加は専ら内よりの生長に負へる事は殆んど疑ふべからざるなり。外よりの生長即ち未信者社會より得たるもの、死と墮落に依つて失ひたるものより多きは疑の中にあり。是を以て眞實の信者の増加は幼時より育てられたるもの、若くは後來の發展の爲めに幼時より備へられたるものにより。唯吾人の憂ふる所は成人傳道の經營に對する依頼、基督教的教養法を一般に且全然採用するの道を塞ぐにあり。成年にして悔改めたる信者は、宗教的方法に依つて其家族を育成するの必要を知りたりとも彼は悔改を以て宗教的生活の絶對的條件となし、其子を將來の悔改の爲めに備ふるを神の定めたる方法なりとせん。斯くして幼時を過ぎ



たる時期を宗教的生活の初まる時期とし、兒童は疑問中の疑問なる靈的生命の其を考ふる前に年齢の成熟を待たざるべからずとする恐るべき謬想を懐ける宗教的指導者續々世に出づるに至れり。

第七章 何をか教育すべき

一切の眞實の教育は、体育も智育も靈育も、皆内部よりの發達なり。然るに屢世人に教育と誤認せらるゝ、必然之に伴ふ過程あり。食を給する事の身体に於ける、教授の智識に於ける、教義注入の心靈に於ける是なり。固より凡べて此等の各方面に於て種類と分量二つながら適當なる養分を供給せざるべからざるは言ふまでもなければ、此等外より來るもの、有益なるは、實に有機体に屬する機能の作用に依るなり。蓋し凡ての健全なる發達の要素三あり。空氣、食物、運動是なり。而して呼吸飲食の爲めに、且意識的にも無意識的にも努力活動する爲めに、活ける機關を要する事は言を待たず。體育に於ては身體あり、智育に於ては心的機能あり、靈育に於ては果して何ぞや。

何人も此問に對して宗教的教育には宗教的能力必須の機關たりと答へんは甚だ容易



なり。然れども宗教的能力の狀態は果して如何ぞや。此等の機能の教育とは一切の墮落せる傾向を有せる儘に單に人の道德的性質を發達せしむるの意なるか。將た人間の努力に依れる此等の傾向の漸次的滅絶即ち一種の進歩的更生なるか。將た又單に消極的に惡の増長を壓抑するに過ぎざるか。思ふに神學者も教育者も三者の一をも取らざるべし。何となれば前二者は正しき神學と調和せず、最後のものは教育學と一致せざればなり。

予は茲に神學の議論をなさんとするものに非ざれば、人間墮落の問題に深入りせざるべし。されど此問題は宗教的教育と深く相關連し、全く避くべからざるものなり。予は眞實に人間の墮落を信ず。従つて其惡傾向人性の大部分に及び神の救治を要するに至れるを信ず。アダムの苗裔は彼に關係あるが爲めに其性質全部敗壞せりとは人の能く説く所なり。此意見の由つて來る所を考ふるに遙かに離れたる祖先に重を置くに過ぎ、近き祖先を輕視せるが如し。眞の學説は如何にあるとも、實際上吾人

の苦む困難は一人のアダムより來らずして寧ろ多のアダムより來る。詳言すれば直ちに吾人の背後にありて、其個人的鼓動を吾人自身の血液に感じ、其怠慢若しくは指導に依つて吾人をして今日の現狀に達せしめたるものなり。然れども此人性敗壞がよし部分的なりとも全體たりとも、又全くアダムに歸すべきものなりとも將た其中間の祖先に責を分つべきものなりとも、是れ實に嚴ぞかなる事實なり。之が爲めに耶蘇基督に依れる神的救治世に來れり。此神的救治の充分なる事は、基督信者の決して疑はざる所にして吾人は其有効なること、其範圍大にして神の事業たるに適へることを知る。此故に吾人の最大問題は罪と其救治の既に確定せる舊問題にあらずして、其救治を最も有効ならしむべき其適用の時と方法に關するものなり。人性の恢復は神に依れる更生にのみ由つて成就すとは基督教の教義なり。如何なる教育訓練の組織も、又人心を更むる感化の力も此事實を無視する能はず。人心に神的生命を植うる事無くして健全なる宗教的性格を養成し得くれば、精巧なる耕作



に依つて稗子より小麦を産出するは容易なるべければなり。而して以上の點確定する時次の問題起り来る。即ち何時如何なる事情に於て此神的作用人の心靈に及び之を新なる人となすべきか是なり。成人即ち完全責任ある人にありては、其事情明かに神に對する悔改と基督に於ける信仰に存す。斯の宗教的經驗はよし多種多様な事なとも、一事の凡てに共通せる者あり。即ち何人もアダムの罪の爲めに悔改むる事なく、又其最も近接せる父祖の行爲の惡結果の爲めにも之より救はれん爲めに基督を信するもの無き事是なり。悔める心情の重荷は自から神の律法を犯せる事にして、基督に對する信仰は全く其個人的罪惡の關係より来る。然れども吾人一度眼を成人より小兒に轉せば、其位置全く一變す。

吾人は茲に至つて一大疑問に逢着す。其解決は此問題に多の光を與ふべし。疑問とは基督既に贖罪の業を成したれば、始祖の墮落より生せる状態に影響する範圍に於て、贖罪の利益を其れ以外には何の條件なくして人類に與ふるは、神の任意に成

し得る所なるかてふこと是なり。換言すれば人類はアダムより惡性質を遺傳せる故に、神は基督の事業に基き新なる誕生として知らるゝ神の行動を以て、此等の惡しき事情を打破すべきかにあり。抑小兒の場合には之を否定すべき理由ありや。蓋し此說に有利なるが如く見ゆる多の理由あり。Federal headship (人類を一の團體と見做し、に影響を及ぼし得べきものなりとすし、且同じ理由により基督も人類の首長として全體に影響を及ぼすべきものなりとする一種の神學說なり)の觀念の如き是なり。「アダムに於て凡ての人死する如く基督に在つて凡ての人生くるものとせらるべし」と云ふことは、死後の自然的生活に於けると一般此點に於ても眞ならずとせんや。而して基督教世界の如何なる團體も幼にして死せるもの、救を信せざるものなし。是れ小兒は死する時に全く生れながら天に移るに適せるものなるか、然らずんば贖罪に依り神の力を以て天國に入るに適せるものとせられたるものならざるべからず。若し贖はれたるもの及び天使の中に生長する小兒、尙且神に依れる新生を要せば、罪惡充滿せる此世に生長するもの、爲めには、一層之を要するにあらずや。而して神若



し死せんとする小兒の爲めに大なる更新的準備的の行動を爲すとせば、豈此世に生存するもの、爲めに之をせざらんや。

吾人は此問題と關連して基督教會の智識ある大部分が、洗禮的更生の教義を信ずる事を想起せずんばあらず、即ち兩親若し誓を立て洗禮に依つて神に其子を献げば、神は幼き者に洗禮の表號する祝福即ち更生を與ふとなす。一部の人には斯は實に美はしき教義なり。然れども此教義の一の困難は怠慢にして無宗教なる兩親の小兒は己の責任ならぬ事情の爲めに憐れむべき境遇に陥らざるべからず。而して神は人類の爲めに此最も重要なる行動の一をなすに當り、餘りに狹小にして不定なる範圍に制限せらるゝ事是なり。神若し此大なる行動に於て、彼と小兒以外のものに與る所の特別の時若しくは場合に依つて制限せらるゝとせば、美麗莊重比なき小兒洗禮てふ習慣に依つて制限せらるゝより優れることなし。然れども小兒にして洗禮に依つて更生せられ得べくんば、他の時に於ても更生せられ得べし。而して兩親に依つて

成さるゝ洗禮が小兒の未來の爲めに價値を有するは其兩親之に依つて神の心に從ふて之を教養訓練するの責任を生ずるが爲めなり。洗禮其物は早晚神が凡ての兒童の爲めに成さるべき事を彼の爲めに成すの必要ならしむるものにあらざ。

人若し如何なれば小兒は靈的更新の後尙惡道に墮落することありやと問はゞ、予輩は答へて言はん。斯る更生は人を神との最初の關係と事情に恢復するより以上なる事能はざるなり。是れ全く初めて墮落して罪と不幸を世に齎らせし人と其類を同じふす。況んやアダムの子孫は罪惡の大組織の中に生活せざるべからざるに至れるをや。若しアダムをして其性質全く純潔ならしむるも、其幼時に彼より出で來れる殆んど凡ての兒童を圍繞する境遇に依つて圍まれ、其年長者の惡例を見聞し、非基督教的家庭の空氣を呼吸せしめば、其墮落の傾向の一層甚しかるべきは、差したる想像力を要せずして明らかならん。されば凡ての兒童は此世に生れたる初めに於て神に依つて新なる生命を得るも誤れる指導、怠慢、罪惡的組織の巧なる誘惑に依



り墮落し去り、斯くてアダムの如く神の像其心より消へ去る事驚くに足らざるなり。斯くして神より離れたるもの、靈的狀態如何を問ふものあらば、吾人は答へて言はんとす正にアダムの墮落せし状態に等しと。而して其救治の道如何ん。神が成人に與ふる悔改と信仰に依れる更生ははり、されど若し神が幼時に於て人を新にする事真ならば、何ぞ一たび墮落し成人となりて後救はるゝの要あらん。神の言葉の要求及び道德的存在者の法則と調和せる眞實なる基督教的教養の組織は、家庭及び學校の凡ての經驗と徳義の全き習慣を以て彼等を守り、以て全き個人的責任の時期に達せしむべし。

此問題に關して少なくとも茲に記載するに足るべき他の意見あり。即ち博士ブシチルルの所論是なり。彼は其家族の有機的一体論に於て論じて曰く、小兒に其分れたる肉體の好在を以て未だ全く生れたるものにあらず。其性質の他の要素、即ち智的なるものと靈的なるものは今や正に生れ出でんとせるなり。此等の機能の一層完全な

る誕生の爲めに小兒は尙家族の胎内にあり。而して家庭の空氣、實例、教訓に依つて小兒は漸くにして全き誕生をなすなりと。此家族の有機的一体論は一大眞理を有しブシネルの説ける方面に於て甚だ力ありブシネルの時と同じく餘りに不節制なる個人主義に傾ける今日に於て、博士の所論の世に容れらるゝは家族的生活と社會の關係に最も健全なる影響を及ぼすべし。然れども若し此所論の意義新しき靈的誕生は神より來ると雖ども、家族的生活と感化を経由すてふ事にあらしめば、畢竟兒童の生命に關する大事件を稍後に移したるに過ぎざるかを疑はざるを得ず。而して又洗禮的更生に於けると等しく、極貧なる兒童又は信仰あり且義務を知る兩親を有せざる兒童を閑却せるものにあらざるかを疑はざるを得ざるなり。

其幼時に於ける人類の此一般的更生に關する結論の如何に拘らず、一事確實にして疑ふべからざるものあり。即ち神は兒童と共にあり、又兒童の内にある事はなり。神は其宗教的感動の本源なり。神は其良心を支配し兒童が學んで知り、又本能より



得來れる所の如何なる真理をも活す。神は善の發育と惡の滅絶の爲めに有らゆる恩惠深き勢力感化を及ぼさん爲めに、聖靈の働に現在す。神は小兒の中に之をして己に向はしむべき感動を生じ、而して之を支配せるものに向つて曰く「嬰兒の我に來るを許せ、彼等を禁むるなかれ、神の國にあるものは此の如きものなり」と。

吾人は小兒に於て發育せらるべきものは、更生に依つて神に植ゑられたる靈的生命なりとするとも、又辟始的若くは開始的救拯に存するものなりとするとも、眞實に教育的なる訓練法を定むるに於て何等の困難を存せず。宗教的教育の目的は、正當にして且凡ての他の生物に存する方法と調和せる方法に依つて個性を發達せしめ、以て完全なる靈的人格たらしむるに在り。

此章を結ぶに當つて吾人は一言せざる可からず。小兒の道德性に及ぼす神靈の働に關する所見と、宗教的教育の重なる難問題の解決に關して、吾人は敢て獨創の見ありと言はざる事を。多の善良にして偉大なる人物は(彼等の或ものは大著述家なり)

小兒の天の王國の民たる資格を有せる事を主張し論辯せり。殊にメソヂスト派に於て然り。マデレイのデヨン、ワレッツチエルは明かに開始的生命又救拯の教義を教へ美普教會のエフ、デー、ヒツバートは幼時に於ける一汎的更生の爲めに、精緻なる聖書の合理的の議論をなし、南部美普教會の大リバイバル家の一人博士レオ、ロツサーは同じ意義の一書を出せり。



第八章 教會と家庭

教會は聖靈が之に依りて耶穌基督の人間の中に来りし凡べての目的を成し遂げんが爲めの重なる機關なり。而して此等の目的は社會、國民的生活、及び文明等に於て現はれ来る時、其の範圍廣くして其様も亦た一樣ならずと雖も、こは凡て基督者の品性でふ一の觀念に包括せらる。若し詳しく此題目に論及せば容易に一卷の書を作すべしと雖も予は今之を避け、一言にして基督者の品性とは耶穌の品性と生活とに現はれたる凡ての做ひ得べき品質に於て基督に肖ることは是れなりと云ひ得べし。而して予は又た爰に教會其者を詳論せんと企つることなく、教會てふものに就て唯だ左の如く言はんとす、曰く、教會とは其が神の國と一つなる限りに於て左の二者より成立す、(一)未だ道德上獨立の年齢と状態とに達せざる凡ての兒童、若くは斯る状態に達しても故意又は惡意を以て神を離れしものにあらざる凡ての兒童(二)凡

て其の年齢を問はず耶穌基督に於ける信仰を有し、從順に神の律法に遵ひ、己れと他人とに於て基督者の品性を完成せんとする一大目的の爲めに己れを聖靈の指導に一任する人々即ち是れなり。教會には凡ての時代に於て人間の要素より生ぜし多くの瑕疵あるにも拘はらず、聖靈は此機關に依りて働き、人類の大部分を化して野蠻より文明に移らしめたり。是れ實に奇蹟中の奇蹟なりと云はざるべからず。若しも教會が單に人間の組織として此道筋を進行せんと企てしならんには其の強大なる抵抗に會ふて無殘なる失敗に陥りしならん。然れども教會は聖靈の機關として活動せしが故に能く人間の智力を敏活ならしめ、其の感情的天性を改鑄し、又た其の意志を強めて之を新らしき方面に向はしめ、之に依りて世界(教會の内外を問はず)に凡ての善事を産出するに至れり。此事たる實に基督教徒をして野蠻人と異ならしめ、又た基督教國と異教國との間に廣大なる道德的溝渠を劃したるものと謂ふべし。



其の効果を失ひ、單に悔改せしのみにて其後向上の教育を欲ししが故に神の國の市民たる資格乏しくなり、或は終に全く之を亡失したる者も多かりしなり。教會存立の目的が基督教的品性發達の爲めなることは吾人既に之を言へりし、吾人は今爰に靈的官能を教育せずして一個完全なる宗教的品性を生ずるの難きは、適當なる教養を経ずして一個正當なる智力的品性を得るの難きに勝るの事實を考ふる時、教會の教育的職務をして正當の地位を得しむること、此の教育的目的が最も好く遂行せられ得べき諸機關と其の方法とを精細に研究することの大切なるを認めずんばあらず。

教會は兒童の特別なる監守者とし神の指定したるところなれば其の委託せられたる少年の生命を宗教的に教育せんが爲めに適當なる設計を案出して之を施行するの責任を有す。而して此目的を達せん爲めの諸機關中最先なるものを家庭なりとす。神は先づ家庭を以て宗教的訓練の重なる場所となせり、而して天然の設計は破る

教會が基督教的品性を作り出す聖靈の機關として規則正しく活動する時は、同時に二つの重なる範圍を有す。其の一は傳道的範圍にして、他は教育的範圍なり。傳道的範圍とは何ぞと云へば、吾人が本論をなす爲めに十分なる定義として左の如く言ひ得べし、曰く、傳道的範圍とは神の言葉を用ゐること。特に神の言葉を説教することに依りて教會が罪人の悔改と信者の養成とを求むるの範圍なりと。若夫れ教育的方面は稍や異なりたる方法に於て前者と同一の結果を得んと務むるものなれども、其の範圍前者に比して更に廣く且つ複雑なるが故に、吾人は爰に少くとも其の範圍内に含まれたる二種の機關、即ち基督教の家庭及び日曜學校に就て特別の研究を爲さざるべからず。

先づ何よりも先に注意すべきは、基督の教會は既に其根本に於て一の教育的機關なりてふことなり。教會は其の徹頭徹尾傳道的なる事業をなす時に於ても尙ほ其中に教育てふことを含まざるべからず。此の眞理を辨へざりしが故に幾多の信仰復興は



べからざる條件を以て此の家庭を支持するなり。

基督教の家庭は耶蘇基督に依て其の基礎を定められたり。其の或要素は既にユダヤ教の家庭に存せしと雖も、家族の建設に於ける神の制度は多く顛覆せられたり。

耶蘇乃ち此に來りて家庭より、彼の痛ましき結果を以て流行し居たる重婚及び多妻主義を一掃し、且つ當時に於ても猶ほ今日に於けるが如く概して累進的多妻主義の

一種に外ならざる離婚の弊をも掃蕩し、又た父母の取扱に關する或猶太教的傳説にして全く自然の法則と神の律法とに背戾せるところのものを除きたり。

猶太以外の邦國に於ては家庭の狀態猶太に比して尙更に悪しきものなりき。例へば當時猶太以外に於て最良最大の國民たりし希臘人及び羅馬人の如きは、宗教的生活

と文明との異教的方面に立ちて種々の忌はしき行爲を敢てして憚るところなかりしなり。此等兩國民の中に於ては、家庭は殆んど無視せられ、婚姻の事非常に不取締にして、婦人の輕侮せらるゝこと甚しく、小兒は又大ひに蔑視せられ且つ等閑

に附せられたり。當時に在りて最も有力にして且つ最も善良なりと稱せられし人々も、婚姻の事と神聖なる家庭の義務とに關しては、其の思想と行爲と二つながら極めて放漫なるものありき。

基督教の家庭は、其の本來の組織と基督教の教とに依りて一夫一婦の婚姻を基礎として成立す、即ち一人の夫一人の妻を娶るものにして、此夫婦の結合は基督教の教に依れば一生に亘るべきものなり。故に十誡中第七の誡を破ることは是れ夫婦の結合に

對する唯一の重罪にして、又た其の正當なる分離に對して唯一の因由なるべきものとす。斯の如き場合に於て、其の夫婦の結合を傷けたる犯罪者は、假令一生の間ならざるも少くとも其の無罪なる對手の生存する間に法律上無資格のものとせらるべし。

是れ離婚問題に向て唯だ基督教のみが提供するところの律法にして、又た實に一般基督教文明の律法とすべきものなり。離婚の事實は右の理由に依りて生じた

るものならざるべからず。而して國家が十分なりと認めたる諸他の理由に依りて法



律上其の分離を正當と認定することは、離婚の習慣に依て絶へず社會に發生しつゝあるところの不幸なる結果を防止すべき警察的若くは保護的の手段として之を爲さんことを要す。基督教家族本來の見解よりせば離婚は不可能の事なるが故に、離婚を可能なりとする見解は是れやがて基督教的婚姻の根本的觀念を毀損するものにして斯る堅固ならざる基礎の上に家族を建設せんことは遂に出來べきにあらず。而も世の無法なる者の爲め之に適應すべき諸種の法律制定せられしは是れ却て罪惡の苗床を作くるに異ならず、其の結果は思ひ掛けもなき範圍に迄波及するなり。離婚てふ思想一度び一社會に滿ち亘るや、多數の青年既婚者は之が爲め夫婦の結合を完成するに最も必要な自制、讓歩、及び互ひに相助くる事等の健全なる過程を踏む能はざるに至り、未婚の青年も亦た婚姻に就ての正當なる思念を懐く能はず、終に全然誤りたる觀念を以て婚姻を爲すに至らん。然れども之れに依りて終に最も多く禍害を蒙る者は凡ての者の中に最も無罪なる者、即ち家族中の少年兒童なりとす。彼

等はよし其の家庭の破裂と破壊とを防止するの紐帶となり得べきも、斯る不都合なる家庭に在るか故に、唯だ婚姻と家庭に關する純然たる基督教的見解の存する所のみ得らるべき其の安全を奪はるゝなり。基督教の家庭は基督教徒なる父及び基督教徒なる母と、始めに基督のものにして、後ち適當なる指導と教養との下に依然基督のものとして、存續し得べき一の兒童若くは數多の兒童とより成立す。宗教的父母として成功すべき要件は許多あるにあらず、又た複雑なるものにあらず。此は神の定めたまふところにして、假令僅少なる才能と貧しき所得とを有し且つ最も制限せられたる地位に居るところの父母と雖も尙ほ克く此の強大なる感化を及ぼすことを得べし。而して若し此の感化なくんば凡てのもの皆な錯誤に陥るを免かれず。

(二) 其の第一の要件は父母たる者が内外一致すべきことにて、彼等は外に現はるゝ如く其實際に有るべく、又其實際の真相を其の外に表はすべきなり。是れ即ち彼等



が其の信じ又た感ずるところのものを明かに表出して、児童をして之に依りて最も明白に且充分に父母の性質を知らしむべきなり。曖昧は眞に家庭の禁物なりと謂はざるべからず。

児童を愚弄するは最も不可能の事なり。児童の辨識力は洵に驚くべきものにして、頑是なき赤兒と雖も言葉數のみ多くて眞なき者と眞に己れを愛する者との差別を辨識し得るなり。誠實と無私とを要すること児童を取扱ふ時の如くに大切なるはなし。児童の信用を得るは強く彼等を感化するに必要なることにして、若し誠實を欠ぐの故を以て其の信用を破らば、之れが爲め遂に家族生活の高尙なる目的を達する能はざるに至るを思はざるべからず。兩親は其の児童の爲めに道徳的及び宗教的行爲に關して最良の課程を興へ、假令自分等は之を實行し居らざるも、児童等をして暫らくの間は之に守らしむることを得べし、然れども児童に向て眞に効力ある訓練と教育とを興へ、其の結果をして永久に確實なるものたらしめんと欲せば、彼等自から

最も誠實にして、正義の法則の命ずるところを十分に實行するところなかるべからず。凡ての善事に對する深厚なる愛と凡ての惡事に對して正しく表はしたる嫌忌の情とは、其事自身に於て既に際限もなき教育的勢力を有するなり。然れども此等の性質は到底吾人の假裝し得らるべきものにあらず。

(二) 第二の要件は兩親が自からの地位を神に對する關係に於て認識することなり。兩親は自然に於て現はるゝところの神の制定に依りて其の地位を占む。是れ多くの不學なる父母と異教の父母と雖も尙ほ其の児童に向て至高なる道徳的及宗教的善事と思考するところのものを要求するに至らしめたる所以なり。然れども之れのみにては未だ十分ならず、又た決して凡てを盡せるものと云ふべからず。基督教の父母たるものが單に自然の見地よりして、又た唯だ一の教育上の過程として家族問題を解決せんと欲せば彼等は到底其の至高の目的を達すること能はざるべし。兩親の生活に於ても兩親が児童に對する關係に於ても必ず神の命令に依りて支配せらるゝとこ



ろなかるべからず。父たるものは彼が其兒よりも強きが故に之を支配するの權利を有するものにあらず、又た彼れが其兒よりも賢しきが故に然るにもあらず、彼は先づ自然の設計に依り次には親たるの役目よりも更に高尚なる役目に任せらるゝことに依り、神より直接に此權利を受くるものにして、或意味に於て彼等は祭司たるの權力を與へられ、神の律法中に示されたる手續に依りて宗教的發達の計畫を遂行せんことを命ぜられたるものなり。

(三) 第三の要件は兩親が適當に兒童の價値を認識すべき事なり。所謂基督教の家庭に於ては、兒童の價値を輕んじ之を等閑に附しながら却て他の事を重んずるが故に兒童の生命の不具にせられたるもの幾何なるを知らず、人若し職業と社交の事とを先にする時、家庭教育爰に荒廢に歸し、兒童は爲めに其の禍を蒙らざるなし。抑も兒童は家庭に於て他の凡ての現世的所有に勝れり。故に唯だ能く此の眞理を認識し、之に對する責任の重大なるを感知する人々は眞に兒童の安全なる指導者なりと謂ふべし。

(四) 第四の要件は兩親の注意なり。神は家庭をして父の幫助と保護とを受けしめ又た絶へず母の監守を受けしめんが爲めに人を其の家族に送りたれば、家庭に於ては内に啓導の手段行はれ又た外部より來る惡しき勢力を排斥するの道を講せられざるべからず。而して此等の目的は始めより善を養ひ惡を防がんとして毫も油斷せざるどころの兩親を有する家族に依らずんば到底十分に達せらるゝことなし。世には穀物の田圃を保護するに用意怠りなく、之れに嚴重なる柵垣を圍らすに抜目なき程の兩親にして、家族を圍むどころの柵垣が家庭の目的に依てのみ家庭が存在の權利を有する其目的を外來者の足に依て蹂躪せられ且つ破壊せらるゝも敢て之を怪まざるが如きもの少きにあらず、是れ最も愛ふべきなり。

(五) 最後の要件として守らざるべからざるは兩親の兒童との友たることなり。而して此關係に於て用ゐられたる友交てふ言葉は大ひなる注意を以て之を採用せざるべ



からず。第一此の言葉が平等てふことを含むものと思ふべからず、眞の交友は決して平等を以て其の根本的一要件となすものにあらず、両親と児童との關係に於ては別けて此の觀念を排除する必要あり。世には其の児童の交友たらんとして實は却て等々をして一種の驕慢者自負者たらしめつゝある両親あり。其の児童の有する父と同等なりとの觀念は屢々變じて自ら優れりと思ふの念となり、家庭以外に迄も此の思念を以て臨むに至る。斯る結果を児童に與ふるものは決して眞の交友にあらず。最も眞正なる交友は主人と僕婢との間、教師と生徒との間に成立し得べし、然れども彼等双方の間に於ては、一方が他方に對して優越の地位を占むることを認識し居るなり。無限者なるキリストは無教育にして且つ魯鈍なる其弟子等と呼ぶに「友」なる語を以てせり。而して其弟子等はキリストに對して友誼の感覺を有し、此の友誼を以て他の一切の所有に優れりとなし、又た尙ほ之を生命よりも優れるものとなしたるなり。世間に知られたる最も美はしき交友の例は古の南部州に於ける主人及び

主婦と奴隷との間に見出さる。彼等の友情は多くの方面に於て滅すべくもあらざる不平等の上に成立したり。而して此の友情は又大なる個人的品質に對する尊敬崇拜と、相互の關係に就ての生來の感覺とを基礎として成り立ちしものなりき。抑も交情は意見の一致に依て成るものにあらず、唯だ精神の一致に依て成るものなり。是を以て世間往々にして眞個の交友てふこと存せずして而かも其の交際之甚だ親密なるものなきにあらず。

両親と児童との場合に於ては、一方が主たり他方が従たることの明白なる認識を有せざるべからず。然れども其の認識たるや律令より生ずるものならずして感覺より生ずるものならんことを要す。両親にして其の児童等が生れながら己れ等と同一の神聖なる權利を有すべきものなるを思ふ者は、其の児童等を抑壓せんよりは却て之を正しき發達に向はしむることを主として、親しく自から彼等と接して一切の關係を此目的と調和せしむべし。児童等も亦た從つて彼等の運命と關係との甚だ嚴かな



るを思ふて之れに應はしき態度を取り、又た自から一個の男子となり婦人となりつゝあるを思ふて絶へず之を喜ぶに至らん。己に斯の如くならば彼等は唯だ兩親の律法の下にのみあるにあらず、また實に兩親の品性の感化と勢力との行はるべき全範圍内にあるものとせられん。兩親が兒童の彼等より離れ去ることを救ひ又た之より生すべき諸種の悪結果を除却するは唯だ右の一法あるのみ。正しき秩序立ちたる友交は兒童をして其の父母を尊敬するの念を壊しむるよりは寧ろ之を深くせしむ。然り兩親尊敬の念を鼓吹し且つ之を圓熟せしむるの道之を措ひて他にあらざる也。友交の最も高尚なるものは生活を分擔するものは是れなりと稱せらる。而して此の生活の分擔とは家庭の全員が家族的生活に關する一切の事を十分に自然に且つ誠實に分擔するの謂なり。而して是れ當に兒童をして兩親と一家の職業を共にせしむるのみにあらず、又た兩親が同情を以て家庭の娛樂遊戯をも共にすることならざるべからず。然らずんば兩親と兒童が互ひに相理解するとは到底出來難かるべし。如何

となれば人間の性質を正して理解するは唯だ真情流露する實際生活に於てすべきものなればなり。上に述べしが如き友交の裡に在りては兒童は自然に且つ規則正しく生長す。彼等は斯る場合に於て赤裸々たる己を現はし、絶大なる信任を兩親に置き家庭の名譽に就て更に十分なる觀念を有し且つ更に誠實なる愛を以て家庭を愛するに至るべし。換言すれば、兒童等は自から家庭の主要なる一員なるを自覺し、主として家庭の内に快樂を求めて、自から他の方法に依りては兎ても爲し難き程度を以て其身を父母の感化の下に置くべきなり。是故に兩親に取りては其の兒童に對して如何なる機會を與へ如何なる用具を供せんかと云ふが如きは差したる問題にあらず、彼等若し之れと共に其の友交を與ふるにあらざれば彼等は兒童に對して決して其の最善を與へたるものと云ふべからず。如何となれば其の友交を與ふることは最上の意味に於て兩親自らを與ふることなればなり。無知粗野の家庭が凡ての教育に貢献するところは大小にして且つ永久的のものなり。



状態にある家庭に於て其の幼年時代を過したる人にして曾て全然其の悪感化を脱却し得るものなし。是れ此等の悪感化は少年の周圍に充滿し居り、少年は空気を吸ふが如くに之を吸収して終に其の生命の組織となりたるものなればなり。斯る人々は或は博識の人となり思想上の良習慣を修得し得べしと雖も、而かも其の幼時より有する創癥と弱點とは常に彼等の身に纏ひ來りて、彼等は終に全く之を脱却し得ざるべし。之れと同一の理にて、教育ある良家の家庭は、人の知的生活の調子と品質とに對して長く磨滅し難き善良なる印象を興ふ。家庭は其の語の最も眞正なる意味に於て最良の文典學校なり、生徒は此の學校に於て唯だに言語の形式を學ぶのみにあらず、此所に在りて彼等は容易に且つ十分に言語の原理を領得し又た其の要求に對して其身を適合せしめ得べし。世に訓練ある教師にして其の生徒が家庭より帶び來れる智的氣風を感じし能はざる者はあざざるなり。

通常教育の事に於て家庭の感化大なること此の如し。今之を宗教的性格の發達に於

て見るに、家庭の感化は更に大にして且つ廣きものあり。其の故如何と云ふに是れ他なし、宗教的教育と密接なる關係を有せる諸他の問題は直接に實際生活の關係と連接するものなればなり。故に容貌、言語、行爲等は斷へず兒童が理想の形成に影響しつゝあり、特に知らずくの間に彼等の精神を支配するところのものを定めつゝあるなり。

凡て此の過程の中に於て何物も家族の精神と稱せらるべきものよりも大切なるはあらず。世には一種の宗教を有する家庭にして少しも満足なる結果を生じ得ざるもの多し、吾人若し仔細に之を詮索せば、斯る家庭に於ては所謂宗教的要素なるものが其の家庭に充滿せる他の精神に依て破壊せられ居るを發見し得べし。家族の宗教的生活なるものが唯だ名目のみにして、實際に於ては世俗的精神其の家庭を支配し居ること珍らしきにあらず、之に反して或家庭に於ては其の形式より見て宗教的分子甚だ乏しき所にして却て純正直實なる宗教的精神に支配せられ居るものも亦たなき



にあらざるを見る。

家族の精神を主として両親に依て定めらるゝものにして、時として父母たるもの各々相異りたる精神を有するが故に、一家の中にありて二種の精神の衝突することなきにあらざる。例へば其美なる性情を有し、勇氣を有して忠實に其家の爲めに献身する母と一種の下宿人に類する父とより成れる家族に於ては、其の父なる人の現在はその母が必死となりて振作せんと勤めつゝある畏敬と敬虔の大氣に向て恰かも一陣の冷氣を投入するに似たるものあり。又た或は其の父なる人が眞個献身的の人物にして、其の児童等の宗教的發達の爲めには己れの爲し能ふ限りを盡さんとするに、其の母なる人が世俗的精神を有し、功名心盛にして術策を弄するの精神に富むが故に、父より來る善良なる感化の幾分(假令全部にあらざるも)を打消すが如きもの少からず。此外尙ほ父母兩人が目的と精神に於て互ひに相一致するものあり。或者は正しきに於て一致し、或者は正しからざるに於て一致す。兩者の精神正しからざる

時に於ては其の家族も亦た正しからざるは殆んど疑ひなし、然れども之に反して兩者の精神正しき時は、其家庭に於ては確かに愛に於ける統一あり、又た善良なる事物の進歩あるなり。果して然らば両親たる者が如何なる精神をして家庭の内に流らせしむべきかを考定するは最も緊要のことなりと云はざるべからず。世俗的精神の満ちたる家庭に於て果して成功ある宗教的教養をなし得べきや否や、此は殆んど言を費すの要なし。斯る空氣中に在りて養育せられたる児童にして利己的となり世俗的とならざるもの殆んどあることなし。彼等は當初よりして一種の人生觀を注入せられ居るが故に、他日學校の教育を受くるに當り、會て其の両親より教へられしところのものを忘るゝに非常なる困難を覺へざるを得ず。

今其の理想的のものを求むれば、両親は父母共に眞に宗教的のものにして、其の家庭の生活に清潔なる思想、崇高なる目的、無私なる精神、神と神に關する事物に對する崇敬、及び人と眞理とに對する愛の空氣を漲らし、児童をして自然に同一の精



神を有せしめ、同一の道筋を歩ましむるが如きものを擧げざるべからず。斯の如きの家庭は貧窮若くは病苦の裡に在りても、また富貴榮達の裡に在りても能く人生をして優美ならしめ且つ莊麗ならしむべき社會的及精心的美性を養成せんが爲めに、神に依りて選擇せられたる場所なりと謂はざるべからず。

吾人は殆んど凡ての所謂基督教的社會に於て四種の家庭の存するを見る。積極的に邪惡なるもの、一切宗教的の事物を等閑に附するもの、宗教を教ふるに不十分なる若くは誤りたる道に於てするもの、及び眞に能く整齊したる宗教的家庭と稱せらるべきものは是れなり。明白に邪惡なるものにして且つ全く兒童の宗教上の幸福を等閑に附するところの兩親に就ては、吾人は今唯だ左の如く言ふに止むべし、曰く、勿論兒童の同意なくして彼等を世に生れしめ、殆んど拒否すべからざる父母の感化を以て彼等の道德的生命と運命とを毀損し且つ破壊するが如きは問はずして其の極惡の罪たるを知る。若し「此等の小さき者の一人を礙かする者は磨石を其の頸に懸け

られて海の深みに沈められん方なほ益なるべし」てふこと眞なりとせば、我を信頼し又た摸倣する己れの兒童等を現世と來世とに於ける二重の刑罰に罹らしむる兩親等の蒙るべき答罰は果して如何なる種類のものなるべきか、洵に恐るべきことなりと謂はざるべからず。

然れども世には或宗教的行事を家庭になかるべからずとし、且之を一種の罪滅の如く考ふるもの少からず。斯かる家庭に於ては宗教は他の一切の事物と相分離して少しも交渉することなく、却て互ひに相反するが如きの状あり。宗教は凡ての事物と全く風馬牛相及はず其の間何等密接の關係なく、感謝は管に眞實に感謝の心なきのみならず又た實に人をして畏懼せしむるが如きの調子と言語とを以て爲され、少年の生活に取りて安息日は面倒なるものとなり、家族の禮拜は陰氣なるものとなり、又た諸他の宗教的題目は嫌忌すべきものとなるに至るべし。此種の家庭は其の内に生育したる者等をして甚だしく不信仰に導き且つ不善の生活に陥らしめ、宗教は愚



味無知なるもの、爲す事にして其用なしとせらるゝに至る。こは一は洞察力の缺乏より來り一は眞實なる宗教の缺乏より生ず。安息日は若し基督の教に従ひて正しく理解され且用ゐらるれば、強健にして敏捷活潑なる小兒にも一週の最幸福最有益の日たらん。又聖書は之を熟讀玩味し其眞意を理解する人の手中に在れば、如何なる家庭に在つても最も興味ある書籍たらん。而して一切の事物を正しき宗教的精神の支配の下に置く事に依つて、家庭の凡べての出來事は宗教的に變理塩梅せられ、青年は信して其中に安すんずべし。蓋し人は自から無限者の翼下にありと感ずる事を喜ぶものにして、此感覺は其胸懷常に廣く開けて見へざる勢力に觸接する少年時代より眞實なるは無し。

秩序ある基督者の家庭とは約して之を言はゞ、兩親共眞實に宗教的なる家庭の謂なり。小兒を適當に尊重し、其空氣は活力ある信仰に充ち、宗教的教訓の方法小兒の生活の要求に適合せる家庭の謂なり。

### 第九章 家庭に於ける兒童

四千萬以上の兒童年々地上に生れ來る。其身材と體質は多種多様なれども、概して彼等は一様なり。即ち其纖弱無力なる事に於て、己に缺けて外に待つ事に於て皆相同じ。彼等は知覺ある受造者にして、先づ胃腸に基づく卑き意識を有し、彼等が其何たるを知らざる何物かを要求す。而して之を得れば満足し、之を得ざれば其要求を他に知らしむ。斯くて此單純なる要求の満足を得て眠り、眠より覺むれば復新なる要求を爲し、食慾以外何物をも有せざるの觀あり。

此等の小さき幾千百萬の人は此の如く一樣なれども、各自又全く他一切と同じからざる點を有せり。彼等は皆一々自己の獨自性即ち「自己たる事」を有せり。彼等は又少なくとも他の幾百萬人と異なりたる二人の人に訴ふるの力を有せり。兩親は己が兒の特色を認識し、天下の他の嬰兒に優れるが如く感ず。親心は神が人をして小兒



の眞價値を量らしむる神の方法なり。家庭に於ける赤子は決して抽象的の人にあらず。特別なる關係を有し眞實なる位地に置かれたる人なり。此家庭に於ける小兒の位置は二重の目的を有するものにして、一は最善の道に於て小兒の維持と保護を得せしめ、一は凡ゆる人類の正しき評價の爲めに標準を作らしむるにあり。予が此言をなすは教養あり思慮ある親心の存在を假定しての事にて、不幸實際に於て多く然らざるは深く悲しむべし。小兒の多數は歓迎せられざる入來者として、不思議に好意なき新世界に來るの薄運を有する事は、人をして之を思ふて慙汗背に冷からしむる者にあらずや。斯くて彼等は日光に浴する花の如く、初めより神的豊澤を以て彼等に注がるべき愛を、僅かに泣きて其助なきを訴ふる事に依つて得るなり。斯る事態は不合法なる兩親の兒童に於てのみ存すとすも、尙惡事たるを免れず。而も吾人は富める數千の家庭、中には世に時めける富豪勢家にして、又基督信徒と稱するもの、家庭にして、小兒の誕生を不幸と視做す者少なからざるを見るなり。此の如く

して小兒は假令ひ積極的に害はれざるも、尙其空氣寒冷なる家庭に生れ、空しく犠牲に供せらる。想ふに將來の教會の最大事業は眞實なる親心を人に教へ、上來予が論述せる家庭の野蠻なる成分を一掃し去るにあらん。年稍長じて嬰兒は單なる肉体的生活と見ゆる者より移り知識の表徴漸く現はれ來る。是に至つて問題は益深くなり、興味は益高くなるなり。凡そ地上新來の人は皆新たに凡べての事を學ばざるべからず。彼等は火の燃へ、ピンの刺し、犬の尾と口との間に明なる關係の存し、猫に爪あり、床の堅く、かよわき赤兒も引力の法則に漏れず、其保母と兩親を支配して我儘を通さんとせば、早くより始むべきことを自から學ばざるべからざるなり。此時若き無經驗なる兩親も、小供程には無けれども等しく初歩の課程を學びつゝあり。赤兒は他が與ふる者の外何をも食はざること、語る能はざればもがきじれるほか其要求を人に知らしむるの道なきこと、食物の飲乏又は食物其他の肉體の事情よ



り起りたる苦痛の爲めの叫喚、又將來の性格の因つて成る強き且正しき意志の或發現は生れながらの道德的破壊の表徴ならぬこと、此等は彼等が學びつゝありと世人に想はるゝものなり。小兒をしてじれさせ泣き叫ばしむるは其責任者の不注意と無智より來ること固より言ふまでもなければ、茲に吾人の深く注意すべき一事あり。即ち小兒は其自然の要求より起り來る刺激のまゝに放任せば、數年ならずして泣く兒と地頭には勝てぬとの諺の如く其兩親を支配し、年長すると共に其性僻も長じ、其生涯之に依つて定り、引いては其家庭の秩序法則に及ぶことは是なり。此時期に於ける小兒の放縱無節制に流れ生涯之を改むるに由なきに至るは吾人の屢見る所なり。搖籃を靜むる人は能く世界を支配すとは人口に膾炙せる諺なるが、又搖籃を支配する人は能く世界を靜むと言ふことを得べし。生長せる生命を、それが當然取るべき關係に適合せしむべき時期は、成熟の後にあらず、實に嬰兒の時にあり。なべて世の過は早きに失するにあらずして遲きに失するにあり。

知識の曙光と共に纏るゝ舌にておしやべりをする時代至る。こは誠に小兒に取りて危険なる時代にして、此時小兒は最も面白見あれば兎もすれば翫弄物とせられ、遂に救ふに由なき禍を醸すに至る。ピクトル、ユーゴーが痛切深刻なる言をなせるは、實に此時代にある小兒の爲にせるなり。彼曰く、地上に聞かるべき最も崇高なる詩篇は小兒の唇より漏るゝ人の靈魂の纏れ々々に出づる聲なり。此單に本能たる、整はざる思想の吐きは、永遠の正義に訴ふる奇しき沒條理の訴なり。思ふに斯は足尙闕を離れぬ人生の門出に夙く起れる、人生に對する抗議——無意識なれども傷心すべき抗議なり。其嬰兒の顔に浮ぶ無心の微笑は、此纖弱にして武装なき受造者に與へんとせる運命の重荷を萬有に托せるなり。されば若し小兒を不幸に陥らしめんか、そは信任を賣るものなりとや謂はん。嬰兒のかたことは無韻の歌なり。綴字なき言語なり。其吐き天に始まりて地に終らず。誕生の前に起りて未來の世に及ばんと。次に吾人が普通教育と稱ふるもの、始まる時來る。始めは唯いろはの教あり、次で



學校生活の長き歲月之に従ふ。而して小兒に取りて其一年は實に大人の十年に相當す。吾人は街上に書籍の重荷と唯幼時にのみ存する無形の重荷を負へる幾千の小兒を見る時、心一度現代と將來の幾百萬人は皆同じく書籍と机の生活をなし、校舎の壁の中に閉ぢ込められ厳しき訓練を経ざるべからず、徒らに根據なき希望を追ひては青雲の志空しく蹉跎たり易く、學問研究も悲しむべし屢失敗に終りて已む所の學校生活に於ける小兒の歴史を思へば、暗涙の坐ろに催ふすを禁する能はざるものあり。大學者の子も無學なる職工の子も、同一の點より發途せざるべからず。數代の聚積せる智識は成人の爲めに意義多けれども、小兒の爲めには差したる意義なし、小兒は唯獨り此知識の小山を攀ぢ登らざるべからず。何れに行くべきか、如何に行くべきかを彼等に語る嚮導者はあれども行くことは彼等自身なり。人種は如何に賢しこく且練熟するとも、其人種に屬する各個人は麓より始め、其到達する所は正に其自身の努力の度に應ず。

予が上來説き來れる此等の歷程を世人は生活の一の準備なりと稱す。然れども斯は準備と云はんよりは、眞實に生活なり。意識上に於ける且後年の回顧追憶に於ける各個人の生命は二十歳後よりは其前に於て、殊に其初めの十年に於て一層大なる意義あり。

其生誕の時に於ける人の子の全き無力は何の故ぞや。其纖弱と無知の時期の長きは何の故ぞや。搖籃より成人に至る途滑にして足を失し易く、且甚だ勞苦なるは何の故ぞや。一言以て之に答へんか。是れ人類希望の存する所なり。是れ人の作らるゝ境涯なり。如何なる形にも作らるべき粘土の時期なり。人が其成熟と恒久を期待する何物をも栽培すべき原野なり。家は建る時に鑿石所にて鑿り預備たる石にて造りたれば、造れる間に家の中には鎚も鑿も其外の鐵器の音も聞こえざりき(列王上)小兒が世界の眼より離れ、之を書ふ勢力より閉鎖さるゝは、兩親をして己の擇べる理想に従ふて之を形造くり、基督の教會なる大神殿の用材に供せしめんが爲なり。



家庭の第一の目的は品性の學校たるにあり。基督者の家庭は基督者品性の學校たるにあり。教育の眞目的は知る事にあらずして有る事にあり。智識にあらずして品性にあるは、現時第一流の教育者の一致する所なり。小兒は神に向つて向上發達せしめん爲め家庭に置かる。此事は重大なる事業なれども比較的容易なり。凡ての基督者生活の根本的教訓は神の愛なり。秩序整備せる基督者の家庭に於ては、凡ての事皆働きて小兒をして真理中の最大眞理を最も容易に學ばしむ。耶穌の其模範的の祈禱の冒頭に於て教へたる「吾等の父よ」てふ含蓄限なき語は、實に家庭宗教の問題を解決せる者なり。此語は之を用ゐる之を教ふる兩親をして出來得べきだけ神に似んとを力めしむる者にして、又初めに其父を嘆美する小兒を導きて、自然的關係の經驗より吾等が靈と呼ぶ所の其れ等の智識と感覺と容易に移らしむ。宗教の第二の大なる教訓は人の愛なり。如何に容易に又如何に美はしく家庭的關係は變じて社會的關係となり、再變して世界的關係となるぞや。創造者の保護者にして、凡ゆる善き

賜の賜與者たる神の愛より神に對する愛來り、測るべからざる兩親の愛てふ人の愛より、初めは家族的關係に於て、後は社會の其れに於て、人に對する愛來る。而して此等の二大命令に其他の一切のものは繋り、凡て他のものは此等二大關係より直接に生じ來る義務なればなり。吾人眼を此等根本的にして包括的なる宗教的品性の二大要素より、特種なる個人的性質に轉する時、吾人は此等も亦他の時期より幼時に於て發達生長するを見る。此等の性質幼時に於て深く根を習慣に下ろせば堅實にして且能く徹底し、他の時期に於て到底達すべからざる點に達するは、吾人の深く注意すべき所なり。予が上に言ふ所の性質とは、信仰又信任、服従、崇敬、義しき稱讚の愛、過失に對する悔改、罪を赦すこと、他人の權利を速に認識すること、私を圖らざる事に現らはれたる無我、適當にして自然なる制限の中に祈禱を力むること、喜んで人に導かれんとする寛厚なる精神等はなり。而して人生最大苦痛の一たる、此等と反對な



る場合は、家庭に於ける兒童の特質として吾人が茲に列擧せるものに逆らひて、起り來ること少し。例へば信仰即ち一層適切に信任と呼べるべきものは全く兒童に自然なり。信することは見ることに聞くことの如く生得なり。而して適當に之を遇せば、何等の支障なくして正しく生長し、且次第に其範圍を擴張す。小兒は年長者より不信任の課程を教へらるゝにあらざるよりは、不信ならんとするも能はざるものなりと謂ふも、決して過言にあらず。而して此課程は屢然かなさんとするの意志なく、唯思慮なく、其結果に關する智識なき人に依つて小兒に與へらる。世に有り觸れたる小兒の仕付方にて最も小兒の信任を破壊するものは怪談を以てするものなり。合理的にして健全なる方法の存するにも拘らず、鎖々たる事柄にも仕付けの方法として釣する牝牛、噛む犬、惡童を食ひ盡す獅子など實際世に存せざる怪しき談を爲すは、吾人の常に見る所なり。又信仰は約束をなして之を成就せざるのみならず、粗暴なる語を以て小供を嚇す兩親に依つて破壊せらる。之に反して若し小供の信任不

必用なる此等の支障なしに自然に發達せば、合理的信仰は容易に小兒の信任に續ひて起り來るべし。而し小兒の信任の心篤きや保姆又は兩親の虚偽と不信の實例を供するにも拘はらず、彼等が如何に眞實を守り且如何に其信任を固執するかは、眞に驚嘆すべきものなり。服従は信任に比すれば一層複雑なる状態にあれども、尙等しく自然に且容易に發達して小兒の安全及び力たるべし。之をして立派に生長せしめん爲めには早くより其習慣を繼續せざるべからず、且命令せられたる行爲の理由を理解する事に依つて支持せられざるべからず。而して此理由の發見は成るべく小兒をして之を爲さしむべし。是れ一は説明と小兒の不完全なる理解を以て積極的權威に代はらざらしめんが爲めにして、一は自から父に依つて與へられたる行爲の法則の理由を研究せしむるは其發達に大なる益あればなり。斯くして服従の習慣は強められ早くよりあらはに言ひ現らはさずとも兩親の意思を忖度して、從順に之に従ふに至るべし。



信仰と服従に於ける如く、其度は異なれども予が上に列擧せる他の諸性質に於ても亦然り。

家庭は兒童が品性の訓練を受くる所の學校にして、彼等が能く獨立の精神を以て社會生活の廣き範圍に入る事を得るは、家庭の訓練あればなり。されば人と書籍の伴侶に綿密なる注意を拂はざるべからず。小兒と青年の伴侶は其訓練に深き關係を有し品性の建造之に依つて成る。世に家庭の禮拜に共に列する人より一層有効に家庭の教訓を強むるものあらんや。之に反して勢力ある悪しき伴侶より一層強く其教訓を破壊するものなし。教育訓練の齡にあるもの唯一人の悪しき朋友の爲めに無殘に破壊せらるゝは、差して珍らしき出來事にあらず。此點に關する小兒の保護は時に最も困難なれども、最も神聖なる義務なり。悪しき交友は善き風習と道徳を傷ぶとの聖保羅に依つて説かれたる法則は、萬世に亘つて變ずべからざるものなり。これ人間社會の本來の性質あり。若し兩親にして青年の信用と嘆美と、個人的密接に依

つて活氣づけられたる悪の流れを、家庭に存する勢力の流と相對して走らしめば、踵を回らさずして起り來る不幸なる結果を驚くも遂に及ばず。悪しくして而も親しき交友ほど悪の世界を純潔なる家庭に傳染せしむるものなし。斯る交友を拒がん爲めには、よし深思熟慮を要するとは云へ、家族と家族の關係を破ぶる事あるも、亦避くべからざるものあり。如何なるもの、破壊も人性の破壊の恐るべきに比すべくもあらねばなり。

書籍の伴侶も亦個人的伴侶の如し。一の悪しき書籍は時として善良なる童兒を殘害し一の善き書籍は時に偉大なる生命を鼓吹し、且之を確定す。吾人は過去に於て嘗て見ざる讀書の時代にあり。讀書の習慣は殆んど一般に及び新聞雜誌の發行と書籍の出版は大なる商業となり、且益盛んならんとす。讀者を見出すは彼等の事業なり。何れの家庭の小兒も青年も何物かを讀まんとす。彼等に讀ましむべきものは何ぞや。幼時に於ける讀物の範圍を制限することは兩親に取りて容易なり。此點に關



する適當なる注意は能く正しき趣味を建設せしめ、何よりも正しき方向に習慣を向かはしむる事を得べし。

此等の傾向を導きて品性を建設せしめんには、小兒の自然の性情に適當なる注意を拂ひ、其性情の趨く所に從ひて之を利導せざるべからず。乞ふ吾人をして此等の性情を瞥見せしめよ。

一、小兒は摸倣者なり。

彼等が種々の方面に於て學ぶ所の多くは此生來の傾向の活動に依つて得たるものなり。復雜なる英語の習得は、他國に生れたる生長せる人には甚だ難事なり。明白に語らんことも容易ならず。されど兒童は其銳利なる摸倣に依つて比較的容易に之を習得す。彼等にして若し其家庭に全き摸範を有せば、何時しか彼等は正確なる文法の知識を得。而して小兒は獨り言語を摸倣するのみならず、又其行爲を摸倣せんとする強き傾向を有す。彼等の遊戯は重に大人たる男女の眞似事より成る。今日彼等

は眞面目應りて祈禱會又は傳道社會の集會の眞似事を爲すかと思へば、明日は觀せ物興行の眞似事をなし其翌日は定められたる祈禱會起らずして、遊戯の計畫一變せられ改良したる裝束と興行人の氣質を以て演劇興行せらる。家族の中に於て小兒の摸倣は姿勢歩容の微細の點にまで及び、其習慣固定して純粹なる遺傳なりと思はしむ。而して此傾向は獨り形體上の事のみならず、又精神的狀態と其表現に及び、意識的生活の初期なる幼時のみならず、年長じて後も多少の變形をなして何時までも其風残り、其生活を定むる重要なる要素となる。されば何人も此生來の性質若しくは傾向の、習慣建設殊に實例より來るべき習慣の建設の爲めに最善の機會を供する事を見るべし。

思慮ある兩親は其子が其小さき足を張りて、其父の足跡に己れの足を置かんと力むるを見て、慄然として驚かん。彼等は戯れになすことも、又眞面目になすこともあらんが、兎も角も己の前にある理想若しくは摸型と全く己を等しくせんと力む



る向上心の最初の活動なり。而して其小さき女が母や姉の衣裳を身に着けて「貴女の遊戯」をなすを見る時、決して軽々に看過すべからざる一大警告の其中に存するあり。而して斯は單に形體上の事に於て然るのみならず、彼等が之を摸倣するは是れ彼等の眼前に往來する理想、即ち彼等が其行爲に再現せんとする模範なればなり。

されば教養ある社會の秩序整へる家庭は、其子女の爲めに此上なき風儀の學校にして、彼等が日常目睹する實例の外に殆んど別に之を教ふるの要なし。其課業は不識の間に、且迅速に、模倣の刺激に依つて學ばれ幾度か繰り返さるゝ間に成熟して品性となる。予は茲に兒童教育の爲めに風儀と品性の兩者相離るべからざる事を説かざるべし。されど世の親達の思ふより風儀と品性の間に、遙かに密接せる有力なる關係あるを知らざるべからず。固より世には風儀優れて美しくして、品性無下に賤しき例なきにあらねども、こは偽善の徒にして、一般の法則を左右するもの

にあらず。是を以て家庭の最も重要な職分の一は、此點に關して正しき見解と習慣を養ふにあり。兩親の實例に依つて來る小兒の行儀美きは、小兒の加はる社交に於て、見るに快よく且安全なるのみならず、其氣風精神は生涯を通じて生長すべし。予は曩きに既に小兒の摸倣は獨り其幼時の眞似事に止まらず、年齢と思想の生長すると共に適當に形を變じて、次第に成熟し一種の特風をなすに至るを説けり。而して斯摸倣は青年時代の遊戯姿勢風儀などの鎖事に止まらず、一層眞面目なる凡ての生活より宗教的信仰の形式と習慣に及ぶものなり。されば兩親にして家庭の中にあつて單純に且誠實熱心に宗教の義務を全うせば、其子女に神聖なる事物に對する崇敬と、個人的信仰の習慣を養成せしむる事意外に容易にして、年長じて後までも之を非宗教的勢力より保護するの力とならん。

二、小兒は競争的なり。

小兒は自然に競争者なり。是れ摸倣より一層大切なるものにて此特質は絶へず彼等



の遊戯と行爲に現はる。最初は後年各方面の努力に現はれ来るべき隠れたる力の表徴たる盲目的活動なり。此感覺は殊に其上位にあるものに賞讃すべきものと認なす方面に活動す。若し此傾向崇敬、恭順、及び家庭と社交界に於て高尚なる奉仕の所業に導かれなば、其自然の競争心は宗教的方面に向けられ、且之に依つて満足せらるべし。小兒は衣裳に於て流行に後れざらんと力むる如く、高尚なる事業に於ても人後に落ちざらんと勵み、衣裳に於ても劣等なる模型と競争者よりは善良なる其れを選ばんと希ふ。此性質に適當に訴へて、之を濫用する事なく健全に之を發達せしむるは、成すべき事なり。されど成功者をして驕慢の念を起さず、落後者をして失望に陥らざらしめんが爲めに、極度の注意を以て之を制限し且正しきに導かざるべからず。家族の日蔭者は彼等が通常受くるよりも遙かに多くの考慮と注意を要す。彼等は兎もすれば家庭に於ける不制限なる競争の犠牲たらんとすればなり。

三、小兒は活動的なり。

小兒は不斷に活動と生長の刺激を感ず、こは生長せる人には微かなる記憶となれるものなり。是を以て小兒は何事かを成さざるべからず。若し善良なる何事かを爲さしむれば、彼等は喜んで之を爲すべし。されば家庭教育に於ける最も美はしき點は、小兒の活動の指導にあり。こは多少の研究を要し、時として發明の苦心を積まざるべからずと雖ども、百倍の報酬を以て其勞酬いらる。世には抑ふべからざる小兒と青年の勢力を正しく導くことをなさずして、其善からぬ方面に走らんとするを見ては之を抑壓制止せんとするものあれども、こは大なる誤なり。此勢力の正しき指導は懶惰と不平を拒ぎ、人間成功の基礎たる秩序と勤勉の習慣を造くるべし。世に兒童と青年の全幅の精神を組織的にして高尚なる事業を成就せん爲めに傾倒せしむる事より、正當なる宗教的發達に益あるものなし。幼時を懶惰にして隨つて目的なき生活に消過せしむる家庭は虚偽の觀念を養ふ學校にして、其中に養成せられたる



ものをして、よし積極的に有害なる生活をなさしめざるも、慥かに虚偽の生涯を送らしむ。之に反して幼時より勤勉と組織の習慣に養成せられたるものほど、後年大にして力ある宗教的品性の自然の基礎たるものなし。

四、小兒は天性寛大なり。  
殆んど凡べての小兒の心情は同情に富み、他を助けんと欲す。彼等は同情の念常に内に充ちて其機会を待ち、一度刺激の至るや己を忘れて直ちに之に應ず。されば小兒を導きて狹隘にして苦痛多き自己中心よりは、寧ろ己を他に與ふる事の遙かに樂しさを體認せしむるは甚だ容易なり。而して此高尚なる歡喜一旦兒童の生命に植ゑられなば、後に至つて社會の寒冷なる空氣に遭遇するとも、爲めに破壊せらるゝ事なかるべし。此方法によつてのみ人は他人の爲めに己を棄つる無我の基督者生活に入る事を得べし。利己的なる家庭何んぞ能く寛厚にして公共心に富める市民を出し得んや。

### 第十章 日曜學校の位置及び現状

宗教々育の機關として家庭に次ぎ、且之と密に相結ぶものは日曜學校なり。

日曜學校事業を詳細綿密に論究すること、特に其専門的側面の研究は、予が今爲さんとする講究の目的にあらず。此等の點に關しては世上既に幾多の鍊達なる著者の苦心の餘に成れる著書少なからざれば、予は寧ろ近世教育思想の見地よりせる日曜學校の價値如何を尋ね、宗教々育の經營に於ける其適當なる地位を明にせんとする。近世の日曜學校は神の攝理より來れる寧馨兒なり。其創立者は誰なりやとの問題は差して重要な問題にあらず。グループスターのロポルト、レイクスは日曜學校てふ名を有せる規則立ちたる集會の第一の創立者にして、其引續きて一の制度として存するは彼より捩れり。而して其眞髓を看破し、宗教的天才を以て之を純粹なる宗教的機關に變形せしは、デヨン、ウエスレーにして、現時の日曜學校の創立者として、



ロポルト、レイクスよりは寧ろジョン、ウエスレーを推さるべからず。レイクス之を翹めウエスレー之を全ふせり。創立者たる名譽は彼も之を専らにすべからず。此も之を獨り有する能はず。レイクスは單に事實としての歴史上の創立者にして、ウエスレーの説明と其利用亦レイクスと同じく新にして獨創的なり。是故に近世的日曜學校の創立者は誰ぞやと問はり、レイクスとウエスレーなりと答ふるを以て公平なりとせん。

然れども日曜學校成立は、之をレイクスにも、ウエスレーにも、其他如何なる人にも之を歸すべからず。其時以來若干の人は大なる教育的宗教的効果を生すべき多の要素を加へ、日曜學校はレイクス、ウエスレーの時よりは、其觀念と實際二つながら遙かに大なるものとなりたればなり。而して日曜學校が須らく收むべき効果を未だ收むる事を得ざるは、教會に於て權威と責任の位地にある當局者が、レイクス、ウエスレー時代の日曜學校の傳説を株守して移る事知らざるが爲なりと言ふは、

或る非禮なりとも見えん。されど其遂に眞實なるを奈何せん。日曜學校は今や新生れんとせり。されど其誕生は頗る緩漫なり。

宗教を育の經綸に於ける日曜學校の位地と事業を知らんと欲せば、之と相關せる他の二の境域を瞥見せざるべからず。斯る制度の必要なる所以は、家庭及び學校が其範圍内なる一種の宗教的事業を成さるより來ればなり。

聖書の組織的教訓の如き宗教的教養や殆んど基督教國の家庭を離れたりと言はんは、甚だ酷なるが如し。されど事實は争ふべからず。組織整へる日曜學校に於て其子の安全の爲めに必要な一切の宗教を育完全に成さるべしと思惟せる両親甚だ多し。世に斯程眞らしくして有害なる誤謬少なし。而も此思想廣く世に行はれ、宗教々訓の業は殆んど家庭より放逐せられて日曜學校に移れり。而して又一方に於て普通學校にも同じ現象現はれ、合衆國にて宗教を育は實際に學校を離れたり。特に直接に聖書の眞理に根ざし、其神的命令を認識する所の教育に於て然り。吾人



は此點に於て重なる歐洲國民の多數より惡し。例令へば佛國にては一週一日を聖日とし、生徒の望に任せて宗教的眞理の要素を教へ、英國にて寄宿舎學校は其教育に大に宗教的教訓を加味し、目耳曼にて宗教々育は普通教育の大部分たり。然るに合衆國にては日々の授業始めに聖書を用ゐるの外、小學校に於て殆んど一の宗教々育なし。

宗教々育は此の如く甚しく家庭に棄てられ、學校に閑却され、殘す所は唯日曜學校のみなるに至れり。是を以て日曜學校は亞米利加に於て非常に重要なものとなり、會に教會のみならず、教育組織を研究する凡べての人より多大の注意を受くるに至れり。

亞米利加初等教育の調査委員長たる佛國のエフ、ブイソン氏曰く、日曜學校は亞米利加の教育制度に於ける補助的機關にあらず。無用物を附加せるにあらず。兒童の完全なる教育の爲めに必要歟くべからざるものなり。其目的他に於ては多く家族學

校教會に歸せられたる複雑多端なる使命を滿たすにあり。凡ゆる事物は此制度をして亞米利加人の生活に重要な位置を取らしめ、種々の事情相集りて之をして他に比類なき大なる勢力と強固なる基礎を有せしむ。各派の指導者の爲め、特に其教會の利害を重する者の爲めに日曜學校は實に布教の大機關なりと。

ベルジユムの教授エミール、ド、ラブレレイも其普通教育に關する著書に於て日曜學校は合衆國に於ける民主政治の最強基礎の一なりと言へり。

日曜學校は甚だ有用なりと雖ども、未だ間然する所なしと謂ふべからず。こは重に日曜學校以外に存する事情より來れる者なれば、首として責を之に歸すべからず。例へば之が兒童の家庭教育に代れんが爲めに、両親をして兒童の宗教的教訓と保護を怠らしめ、甚しきに至つては之を放擲して顧みざるに至らしめたるが如き、其最も著しきものなり。斯る交換は長子の權を以て一杯の羹に代へたる愚者の所爲にあらずや。斯る日曜學校の濫用が今日多の人に依つて成さるゝは争ふべからざる事實



なり。日曜學校の眞實の位地と價値を認識せる日曜學校の有力なる當事者は、現時の此害を嘆息し批難するもの、最たり。而して日曜學校の事業を以て屈折自在なる幼時に於ける宗教々育の實効如何を示し、兩親をして之に依つて幼時の宗教々育の必要を認識し、其教育の大部分を再び家庭内に取り戻すに至らしめなば、日曜學校の大なる目的の一を成就せる者なりとの意見を最も主張するものも、亦彼等なり。言ひ換ふれば適當なる日曜學校教育は、人を導きて宗教的教育を興へ宗教的習慣を建設する最好の機會は家庭にあるを知らしむるにあり。吾人は進んで日曜學校の内部の事情を尋ねんとするに當り、吾人が上來說き來れる日曜學校の位地の要求を適當に全ふせんには、是非共之を除かざるべからざる容易ならざる缺點の存する事を告白せざらんとするも能はず。而して此等の缺點を究めんとするに當り先づ一言せざるべからざるは、此缺點の殆んど一般的なるも尙除外例の必ずしも無しとせざる事なり。世上既に模範的なる若干の學校あり。且予が説かんとする缺點の何れも其

制度の本來の性質にあらざれば、決して除くべからざるものにあらず。又既に徐々に改善せられつゝあり。而も學校の大多數に於て其缺點著しく、當事者の奮勵と大改良を要する事は事實なり。多の日曜學校の重なる缺點の一は正しき目的の存せざる事なり。然り彼等の多數は全く確乎たる目的を有せざるが如し。こは日曜學校の責任と云はんよりは寧ろ其設計をなせる教會の責任なり。或ものは安息日に其子女が市街に遊び、且危険にして人に害を及ぼす遊戯をなすを防がんが爲めに之を日曜學校に送る。彼等は日曜學校を一種の警察制度と見做すが如く、假令ひ何等善事を學ばずとも少なくとも惡事を學ぶ事なかるべしとせり。甚しきに至つては上品にして害なき慰みなりとし、偶々其職分の正しき見解を有するものも、其高尚なる目的と其實際の甚だ相副はざるを見て失望し、果ては冷眼を以て之を觀るに至れり。世人の日曜學校を見る事斯の如し。宜なり日曜學校の健全なる發達を爲さざるや。日曜學校は教會の設計に成るもの



にして、正しく計畫されたらんには生長發展せる教會の生命の表現たらん。されば其目的は教會に依つて定めらるべきものにして、一個人又は少數者に委任せらるべきにあらず。日曜學校は教會の神學校にして、少年を宗教的智識を以て教育し、宗教的奉仕の習慣を養成せしむる唯一の機關なり。教會が其會員に期待する何事も、其幼時と青年の時代に教訓せられざるべからず。斯る重要な機關をして確乎たる正しき目的を欲がしむるは、教會の冷淡無頓着の罪にあらずや。地方の教會にて責任の位置にある教會の役員、一度校長を得るや一切の責任を校長の一身に委し去り、此大切な事業が如何に經營せられ如何に進歩するかを顧んどもせざるは、珍らしき事にあらず。若し斯る無頓着なる態度を改め、役員會は校長及學校の後援となり、其個人的職分的勢力を其委ねられたる兒童の宗教的教育に貸さば、基督敎國は生命と勢力を以て活動し、未だ嘗て見ざる靈的勝利を見るべきや疑なし。現時の急務は教會を覺醒し、小兒に適當なる價值を置かしめ、其運命を定むべき過ぎ去り

易き少年時代の意義を知らしめ、小兒をして神の國に於ける正當なる地位を取らしむるにあり。次に日曜學校の大缺點は適當なる教師の缺乏にあらん。其缺點の著しきや何人にも明かなれども、其程度は知るべからざる程なり。凡そ如何なる學校に於ても教師は其大本なり。是を以て日曜學校が其真正の目的を達すると否とは、教師が其事業に對して有する見解と、正當に之を成就する伎倆如何に繋れり。近世的日曜學校運動に關して最も驚くべき事柄の一は、其會員をして、斯る最も大なる事業の爲めに準備せしむべき設備の、久しく無かりし事なり。日曜學校は始めより善良なる教師を有し、今日も其伎倆方法共に高等學校大學校の最高の教師も若かじと思はるゝ幾千の教師あり。然れども現時日曜學校に與れる教師の總數は殆んど二百萬に達し、其大多數は其成功に必要な特種の武器を缺けり。實に多數は世の最下級の教員にも必要なる教育學の初步の知識をも有せず。斯くて教會員の一般



の不準備は教師を選ぶに當り其適不適を問ふに暇あらず、唯其必用に迫られて不適任者をも任用するの已むなきに至れり。

斯る事態は過去に於ても又現在に於ても其責任教會にあり而して之を改むる能はざるは、予が既に諷示せる如く、能はざるにあらず爲さざるなり。

南部監督美以教會は訓練せられたる日曜學校教師の要求に應せんとして、稍適當なる設備を爲せる第一の教會なり。千九百一年此教會の日曜學校局は研究の課程と教授の方法を作れり。教師訓練の最高資格を有する一人の人は、教員養成事業の長となつて責任の衝に當れり。其方法の適當に試験せられたる後千九百二年の大會は之を採用し、教員養成は教會の政略となり、永久の制度の一となれり。其課程は該博なるものにあらず。而も殊に多數の教員の要求に應ずるものなり。而して同一の課程各日曜學校の上級に採用せられたれば多數の生徒は卒業と共に教授の任に當り得べきものとなれり。且其全科を修得したるものには修業證書を與へらる。此組織成

りてより以來或宗派は同じ方向に歩を進め、多の神學校にては日曜學校教授法の科目を設くるに至れり。光は遂に入り來れり。久しからずして不適當なる宗教々師の害と批難は去り、教會の指導同情無くして唯獨り煩悶苦心せる教師の傷心すべき物語は跡を絶つに至らん。

過去の日曜學校の一大缺點は會堂建築の其にてありき。今尙其多くの標本世に存する舊式の會堂は、其中に小兒薄待の空氣充てり。其建築と粧飾は不言の間に小兒を禁止し一種の刑罰的惡感無くして其中に居る能はざらしむ。恰も家屋自から我は小兒の爲めに造られたるにあらず、唯成人の爲めにのみ造られたりと公言せるが如し。斯くして木と石の不言の裏に説教せる思想は、獨り小兒のみならず成人の上にも大なる勢力を及ぼし、親心の溫柔と威嚴彼等の中に起らず、長き歲月の間斯る酷薄を小兒に加へ居る事を自から知らずして過せり。

教會が小兒を坐せしむる爲めに快き腰掛を造り、主が「吾に來らせよ」と言ひし世の



幼き者に、微かなる考慮を用ゐて禮拜堂を建築するに至れるは、耶蘇が其手を以て小兒を擁きたりしより殆んど二千年の歲月を経たる後なるは、永へに吾等の耻辱たり。教會堂の多數は今尙舊式なり、されど或は小兒の爲めに便利にして快き建築之に加へられ、或は小兒と青年の快樂と教訓を、よし首とせざるまでも之に重を置きたる新會堂之に代はりつゝあり。今や新時代は來れり。此等の一層小兒に適せる禮拜の家にて養成せられたる兒童は、應て新時代の使徒とならん。日曜學校は多くの缺點あり、且之を圍める少なからざる妨碍あるにも拘らず、當に其數と設備の如き外部的の發達をなせるのみならず、其内部的の質に於て非常に生長發達せり。百二十五年と四分の一の間に四人の俸給を拂へる教師と縊縷を纏へる賤劣なる少數の小兒より成りし日曜學校は徒に金錢を受けず報酬を求めざるのみならず、自から金を出して之を維持する二百萬以上の教師と、花の如き二千五百萬以上の生徒を有するに至れり。

惟ふに日曜學校教育の如何に盛大なるかを知れるものは、其世界の宗教的勢力の最大要素たる事を否むもの無かるべし。



### 第十一章 日曜學校事業成功の要件

吾人が上來説き來れる如く日曜學校が偶然宗教を育の近世組織に於て有するに至れる使命を全ふせんには、絶對的に必要なる若干の要件あり。予は其重要な度に従ひ序を追ふて簡單に論述すべし。

一、第一の要件は日曜學校牧師なり。予は茲に先づ日曜學校牧師を擧ぐる事に付て辯ずるの要なし。凡そ世に基督の羊の監督者たる事は恐懼すべき事柄なし。斯人實に其一身を以て全羊群の心靈的安全の責任を双肩に擔へり。此神聖なる職分に對して其態度正しく且力量ある牧師は其權威認められ、且其責任に適へる命令の力あり。福音の役者ほご己が範圍に於て權威を有するものなし。此故に牧師は或は時間と精力の制限より、或は時に其才能の不適より、自から當る事を得ざるが爲めに之を普通の信徒に托するを得べきも彼が其結果に對して全然其責任を負へりとの深き

感覺ほご、會衆の内に、又會衆に依つて成就せんとするも凡ての目的を達するに力あるものなし。予が斯く言ふは牧師自から之に當れと言ふにあらず。唯其當さに成さるべき一切の事に賢明にして熱心なる指導者たれば可なり。

若し牧師に向つて彼等が志せる心靈的目的の成就の爲めに、最も重すべき教會の事業は何ぞやと問題を提起せば、思ふに其十分の九は日曜學校なりと答へん。されど其答ふる如く實行するものは其十が一にも足らざるべきは、予の信じて疑はざる所なり。眞理も時に衆人の中に、特に其屬する階級の中に埋没せられて硬化固定し、發芽する能はざるに至る事あり。日曜學校の事亦然り。理論に於ては日曜學校を靈的發達の機關の首位に置くもの多し。されど之に應ずる所の用を爲さしむる者甚だ稀なり。

正當に小兒を費まざる牧師は正當に人を費ぶ能はず。而して世に人間の誤まれる評價ほご説教者に有害なるはなし。説教者にして人を費ぶ事を知らず、之を見る事罕



からんか、其豊富なる材能學藝も之を償ふに足らざる不適任者なり。正當に小兒を貴ぶには小兒の愛着者たらざるべからず。而して小兒を愛せざる牧師は一變して再び小兒となるを要す。互に相愛するは小兒の本領なればなり。純粹の愛の存する所には自から其適當なる表現あり。此表現時に頗る拙劣なる事あらん。而も其愛にして偽無くんば、真情の自から流露する者あり、其形式の拙劣を償ふて餘あり。固より其表情の高雅にして能く練熟し、且趣味の存するに優ること無ければ、缺くべからざるものは情其物なり。世の牧師たるもの小兒に對する巧拙は固より之れあらんも、小兒を愛する一片の真情だに存せば、他は言ふに足らず。且牧師は小兒の利害と心情を通ずる程其兩親の心情に入るの大道なきを忘れざるべし。世に此法則に漏るゝもの稀なり。自然の組織に於て此勢力に服従せざる人は不合法なりと謂はざるべからざればなり。管に然るのみならず、愛は愛を鼓吹す。心靈的事物に傾くこと少なき団体と雖も、尙高明にして識見あり、同情あり且剛

健にして恰かも磁石の如く小兒の心を引き着くる人を公の關係に於て有するは頗る尊むべきことなるを知る。小兒を愛するには先づ之を知らざるべからず。主が自からを「善き牧羊者」と呼べる最も深き寓意の「牧羊者は己が羊の名を呼ぶ」てふ辭の中にあり。名は其持主に取ては甚だ重し。而して其最も深き意義は牧羊者たる主の親しく己が羊を知り、深き個人的興味を彼等に有するにあり。日曜學校に於てのみ己が責任に屬する小兒を知る牧師は、善く彼等を知る者にあらず。彼は其家庭に於ける彼等を知り、獨り其名のみならず、其性質氣風を知らざるべからず。こは甚だ難きが如くして若し其道をだに得たらんには決して難からず。兩親は常に己が兒子に就て語る事を好み、其弱點及缺點を人に告ぐる事をも避けざればなり。特に彼等に眞實なる興味を有し其正しき發達を助けんとする者に對して然ればなり。小兒の家庭と牧師との關係如何を問はず、二大方面に於て小兒を知るの機會日曜學



校内に存す。予の謂ふ所の二大方面とは日曜學校の傳道的教育的機能と二者に對する牧師の關係是なり。此最も收穫多き傳道機關現時最も甚しく牧師に忽にせられたり。而して其事の一般的なるや決して之を偶然に看過せるものなりと謂ふべからず。若し牧師にして其原因を尋ぬるの至誠あらば、其因由の小兒は神の王國の民たるに適せりてふ事に關する、隠れたる不信仰に存するを見ん。其根本に如斯恐るべき不信仰存したりとせば、宜なり日曜學校の其大目的を達する能はざるや。アダムの墮落の故を以て惡魔は小兒に對して所有權を有するや否やを決し兼ぬる人の如き又彼等に對する基督の確實疑ふべからざる要求を認識せざる人の如きは、斷じて小兒の宗教的利害にたづさはるべからざるものなり。されど若し牧師にして眞實に基督は搖籃の中既に神の國ありとせるを信じ、兩親、教師、牧師の重なる事業は神の王國に彼等を保ち、其中に在つて發達せしむるにあるを認識せば、日曜學校は傳道の最良の機會を供せん。基督敎國の家庭にある幾百萬の兒童は教會の祭壇の邊に立ち、

能ふべくんば喜んで入らんとせり。彼等は絶へず其先進者と指導者に對して言へるが如し、尙吾等の欠く所は何ぞやと。此間に對して指導者の答ふる所は果して何ぞや。彼等は如何にしても小兒は信仰を欠けりと答ふる能はず。世界の最も純粹なる信仰は小兒の心情に寓すればなり。不信なる小兒は一個の怪物なり。決して世上に存せず。而して彼等の信仰の最も優美なるものは、彼等が神と靈界の實在に對して有する其れなり。げに彼等は成長せる人に如何にして神の國に入るべきやを語るに當つては、小兒の如く信任する所の信仰なかるべからずと言ふなり。彼等は大人に向つては小兒は神の國のものなりと言ひ、其舌未だ乾かざるに顧みて小兒に向つては汝は神の國のものにあらずと言ふなり。又彼等は小兒は謙遜と、導かれんとする心を欠げりと言ふ事を得ず。彼等は復其閑却無視せる小兒を謙遜の模倣として大人に示せばなり。然らば悔改は如何ん。罪と知りて眞實の悲哀を懷き、過つて改むるに憚らざること、何れの時代か幼年の時代に若くものある。小兒は自から犯したり



と知らざる罪を悔ゆる事能はずし、然れども小兒の悔改は世の最も純粹なるものなり。或は言ふ、早歳基督に身を捧ぐるものは成長せる時彼等が新たに生れたりし記憶存せざるべしと。吾人は將に答へて言はんとす。彼等は世に生れ來りし時を記憶せず。彼等が生れ來りし唯一の證據は現に生ける事なり。靈的誕生に於ても亦然り。其時の記憶は基督の中に生ける事の證據とならず。唯我が現に有せる一層善良なる其生命に動かすべからざる確證存すと。

誠實に小兒の宗教を信する牧師に取りて、日曜學校は之を開發する有らゆる機會を供給す。牧師は一年、五十二回の機會を有し、其の何れをも、又凡べてをも其最善の判斷に従つて之を用ゐる事を得。彼若し賢明ならば、一歳を通せる經驗を作くり、二つながら教訓と指導を全ふすべし。彼は又時々日曜學校の課業以外に年齢と必要に従ふて各組の學生を教訓し、斯くて先づ知識ある教會會員たるの準備をなさしめ、然る後之を宗教的品性の一切の要素に生長せしむべし。日曜學校の凡ゆる事業は傳

道的目的を有し、牧師の事業に導き行かざるべからず。其主眼とする所は生徒の完全なる救拯にあり。

此外尙一層の注意を要する牧師の爲すべき一の職分あり。即ち日曜學校の教育事業の指導是なり。現時の日曜學校設備に於て此事已むべからず。牧師は日曜學校の教師の教師たらざるべからず。日曜學校の第一の要求の眞に能く教へ得る教師にある事は、世人の皆一致する所なり。多の教會は今日に至るまで彼等の教養に對して何の設備をも成さざれば、此事情の續く間は牧師たるもの少なくも教師をして其教授の準備をなさしむる爲めに自から勞せざるべからず。牧師の日曜學校教育の神聖と其深遠なる意義に關する明白なる理解は、其事業に對する正當なる見解を教師に鼓吹し、彼等にして一旦之を得れば熱心に其指導に従ふべし。教員の集會を開きて毎週の學課の準備を爲すは、大なる利益あらんも未だ之を以て充分なりと言ふべからず。眞實の必要は教師の學課の研究に在り。そは決して博大深遠ならん事を要せず。



唯活學問ならざるべからず。即ち其教ふべき書籍の組織ある知識と、眞理を活現するの技能是れなり。世に此等の研究に關する無数の小冊子あり。教師にして其二三冊を能く玩味領得せば、多くの日曜學校の教育事業一變すべし。若し其學校の屬する教會にして此等の研究の爲めに備ふる所あらば、教師の勞は爲めに大に減せらる。されど若し其設備教會に之れ無くんば當然其凡べての責任は教師の上に落ち來る。而して教師の先づ爲すべき事は其教師の要求に最も善く適せる書籍を選定するにあり。若し教師にして其選擇を爲すべき智識を欠かば、彼は容易に其事に詳はしき人の何れの教會なりとも其日曜學校局主事より其要する助を借るを得べし。教師にして其會員の小兒及び青年に無報酬にて永遠の言葉を教ふる教師の爲めに此れ丈の勞力をも爲すを厭はば、こは眠れる教師なり。而して若し教師にして口を一層重要な事業の爲めに多忙なるに籍かば、思慮ある人をして彼が地上にありて如何なる事業をなせるかを驚かしむべし。こは常に聞く所の辯解なれども綿密に之を思へば、

恰かも農夫が麥を蒔き稻を植うるに多忙なればとて、食を求めて泣く所の其子を顧みざると一般ならん。固より教師にして其事業に當るに適當なる人物を得ば、自ら其實際の勞に當るを要せず。彼は拱手して其結果を收むるを得ん。

二、教師に次で責任あるものは日曜學校々長なり。こは近世教會に於て新たに創まれるものにして、甚だ價值あり重要な職分の一なり。教會は未だ此新勞作者が如何に尊ぶべきものなるか、又近世の制度の下に於て如何に教會の正しき發達の爲めに欠くべからざるものなるやを了知せざるが如し。何れの團體にても其中に聰明にして勤勉に、實踐躬行を以て人を率ゐ、且學識備はれる人物あり、其團體に屬する兒童青年の指導に當り經驗ある盡力を以て神の教を教へ、宗教的生活の習慣を以て之を訓練し、歲月を通じて志を改めず、身を以て之に任ずるものあらば、其人誠に教會の寶なりと謂ふべし。吾人は教會の役員が無報酬にて大なる勞力と精微にして至難なる責任に當り、屢不必要なる制限に束縛せられ、時に反對者の爲めに苦



めらるゝにも拘らず、尙喜んで之に當らんとする多くの信徒あるを見て、吾人は基督の教會に於ける信徒の最も著しき力を發現の一なるを思はずんばならず。教會が斯る人物の勞力に酬い得る最小限は、校長の努力せる目的の成就の爲めに出來得る限り其障礙を除き、且個人的又實質的の凡ゆる必要なる手段を以て之を助くるにあり。日曜學校長の職は使徒教會の賜に數へ擧げられずと雖も、基督教生命の發達より神の攝理に依つて出で來れるものにして、恐らくは牧師の職分の續く限りは續くべく、教會に於て適當なる譽を有せん。

三、日曜學校にして近世教會の思想と組織に於て與へられたる事業を全ふせんとせば、其目的其方法共に眞に教育的ならざるべからず。人の生活の道德的鼓吹と其終極の運命の依りて繋れる信仰ほど、合理的確實を以て維持せざるべからざるものなし。神の教を以て其兒童及青年を教へんとしながら、拙劣不適當なる方法、殊に眞正なる教育の根本的原理を破壊し若しくは無視せる方法を以て之を爲さんとするは

木に縁りて魚を求むるの類たるのみならず、其禍測るべからざるものあり。一週五日間は普通の學校に於て教授の根本的法則に熟通し、其學生の智能を啓發して智識修得と發明の力を活用し實現せしむる材能を有せる教師の下に教を受け、安息日には教ふる事物の智識を欠ぎ、教授の普通の法則を破れる教師の教を受くるに當りて、此對照は批評力鋭き學生の心と品性に果して如何なる影響を及ぼすべきぞ。彼等をして遂に其教へらるゝ書と教へらるゝ日を厭ふに至らしめざらんや。

此問題の詳細なる講究を爲すは予が目的の範圍にあらず。されど數言を述べて大體の方針を示すも亦益なしとせざらん。凡ての大問題は唯二點に歸着す。第一は學校の組織にして、第二は教師なり。學校の組織は注意綿密なる級別にありと言ふは餘りに陳腐なるが如し。世に此級別に關する誤解より來れる偏見あり。日曜學校の級別は小學校の級別の精密なる意義に従ふ事能はず。後者は一週十三時間以上なれども、前者は一時間より少なく、而も其教ふべき事物は遙に大なればなり。是を以て



予が謂ふ所の級別は斯る意味にあらず。蓋し何種たるを論せず、凡て善良なる學校は級別整然たらざるべからず。而して適當なる級別は教へらるべき真理と教ふる方法の、之を受くる學生の年齢又は其他の情況に適合するにあり。

現時の状態に於て吾人の力むべきは學生の適當なる級別にあり。而して此餘は教師の自由に任かさざるべからず。予が現時の状態と言ふは萬國日曜學課の組織の下に於てとの意となり。一學課を凡ての階級に課する方法の採用は、茲に説くを要せざる種々の理由より、現時に於て成さるべき最善の方法ならん。而も教育上の見地よりして斯は決して理想の方法にあらず。而して教育的思想の發達と共にそが當さに充たすべき要求と益遠ざかりつゝあり。蓋し各學校に對する同一課業てふ學課の統一は善良にして道理に合ひ、且多くの便利あれば、恐らくは永く勢力を有せん。然れども其年齢と智識の懸隔甚しき凡ての階級に同一の課目を用ゐるは、不自然にして教授法に反し、今日と雖も教師の同情を有せりと謂ふべからず。此方法は不完

全なる現時の教師の個人的才能と伎倆に依頼するに過ぎ、其期待せらるゝ其結果を得る能はず。其適當なる改良は萬國會議に待つものにして、今や既に此點に於て改良に數歩を轉じたり。

過去十年間に宗教々育の眞正の目的は何ぞや、而して之に達するの道如何てふ問題ほど識者の注意を惹きし所の問題稀なり。此研究は其範圍頗る廣大にして、宗教々育の主題、其教授の順序、教師と學生の階級、教授の方法と其目的を包括せり。

宗教的教育的此等の根本的問題の解釋に其學識と經驗を貢獻せる多の著者の中に、

教授(1)ハスレット(2)デユボイス(3)ピース(4)ホルトンとマシユース(5)ユエ

の諸氏あり。此等の著者は皆己れの立場より此問題を論せり。されど皆教訓と暗示に富み、家庭と教會に於ける聖書教授の將來に深く影響するものに非ざるなし。

- (1). The Pedagogical Bible School.
- (2). The Natural Way.



- (3). An Outline of a Bible School Curriculum.
- (4). Principles and Ideals for the Sunday School.
- (5). Education in Religion and Morals.

### 第十二章 訓練場たる日曜學校

宗教々育は何よりも工業教育に最も著しき類似を有す。兩者共に知ることゝ爲すこととの間に深き關係あり。此無くんば彼も益なく、彼無くんば此も全からず。例へば如何に建築學の知識ありとも實地の習練なくば建築を成す能はざるが如く、善に關する知識如何に多くとも人を善人たらしむる能はず。兩者共に知識をして實行上の活知識たらしむる爲めに、實地の習練を積まざるべからず。知識は之を用ゐる事に依つて熟練すべく、熟練は復轉じて知識の充實を來たさん。耶蘇の父の旨を爲す所の人は眞理を知らんと言へるは、暗に經驗と行爲に之を實現するの心なく、徒らに知識を追求するものに對して、神聖なる知識の道を閉ぢたるものなり。されば知識をのみ求めんと狂奔せる世上幾多の學者は、聖書の深遠なる意義に關する安全なる指導者にあらず。彼等は時として熱心に眞理を實行せんとして之を讀む所の無學



なる普通の信者に比して、其眞意を理解する事に於て遙かに劣れり。日曜學校の最も重んずる所の訓練にあるは實に之が爲なり。而して此訓練の爲めに互に相異なれども、而も又密に相關連せる四の方面あり。

一、第一は知識に於ける訓練なり。蓋し領會すること、知ることの間には大なる逕庭あり。特に兒童に於ては眞理の明白なる觀念を得ることは未だ充分ならず。適當に訓練せらるゝ事最も緊要なり。されば日曜學校に於ては古の訓練者の方法を適度に復興せざるべからず。予が此言を爲すは決して健全なる教授法の定則を破るべしとの意にあらず。唯眞理が學生の發達の度に適應し、之を理解せしむる事を得たる時、之を學生の心裏の確實強固なる所在たらしめんが爲めに、其眞理に訓練せられざるべからずとの意なり。吾人が屢聞く所の今日の青年の聖書に關する無知識の驚くべき事實は、彼等が聖書の教を受けざるが爲にあらず、之を受けたる方法の不全なるが爲なり。即ち其訓練を欠ける爲なり。若し兒童及び青年をして一層記憶力

を働かしめ、且又創開的個人的の活動をなさしめば、彼等は其學べる所を能く胸中に保存し、且日曜學校にて得たる知識は甚だ貴重なるものとならん。最も優れたる訓練法は回を重ねて要領を撮む復習をなし、學生をして常に知識を保有するのみならず、之に熟達せしむるにあり。學校に於ける年四季の復習は甚だ可し。然れども毎週の暗誦と共に復習せしめざる教師は學生の知識を確實にする機會を能く利用するものと謂ふべからず。又一二の學生をして其組を代表して既に學べる學課に就て短き論文を作らしめ、他の學生をして之を批評せしめ、賛否の意見を述べしむるも亦大に益あらん。其他演繹、釋義、暗誦等種々の訓練法あり、以て學生の知識をして明確にして恒久ならしむるを得ん。固より學生に依りて適不適の別あらん。其趣味の特色を観察し、之に適當なる指導を與ふるは教師の任なり。

二、訓練の第二の方面は宗教的經驗の其れなり。感情主義の人には斯は冷やかにして何等の價値なき意見と見へん。されど乞ふ少しく予が説く所を聞け。必ずや自か